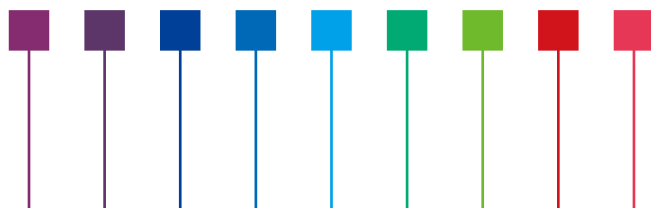


2019 京都橘大学

「地域連携型教育プログラム」 実績集

(「学まち連携大学」促進事業実績集)

(2019年4月～2020年3月)



京都橘大学産学公地域連携推進機構

地域連携センター

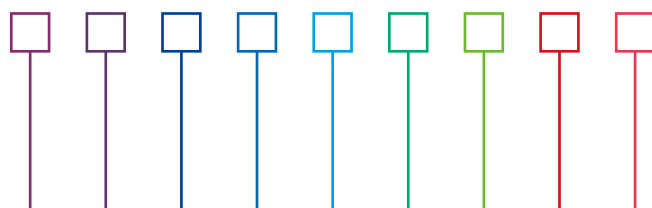
Center for Regional Collaboration



目次：京都橘大学「地域連携型教育プログラム」実績集

はじめに	2
I. 4年間を振り返って	3
京都橘大学「学まち連携大学」促進事業 4年間の軌跡	4
「学まち」取組図 山科・醍醐地域で“育ちあう・響き合う”地域連携型教育プログラム	6
「学まち連携大学」促進事業の集大成「学まち AWARD2019」報告	8
II. 2019年度 京都橘大学「地域連携型教育プログラム」この1年の歩み	14
III. 「学まち連携大学」促進事業の実績	
実践例	
たちラボたちによる「世代間の交流を深めるものづくりワークショップ」開催	18
小冊子「野菜で味わう“京都”」の制作	19
子どもと楽しむ「オペレッタ」公演	20
国宝二条城来訪者の動態調査 2019	21
オリジナルバウムクーヘンの研究開発	22
爽快健康ウォーク 2019	23
こだわり市場冊子第7号の発刊と新たな展開	24
「看護お助け隊 in 醍醐中山団地」の活動	25
水質調査と水質変動因子の解析を通じた学び	26
警察官へ向けた英会話教室	27
みんないきいき健康教室	28
醍醐中山団地陶灯路	29
たちばな健康相談	30
地域の小学生に向けた書道教室 OSJ 橘	31
パパとママのこころ育て広場	32
ものづくり教室	33
一覧表	
その他の京都市地域を対象とした教育活動（「学まち連携大学」促進事業）一覧	34
IV. 学生による学外での活躍	
実践例	
一時救命処置（BLS）の普及活動	40
京都橘大・京都薬科大学による合同多職種連携教育を実施！	41
合同企画展「焼き物からよむ平安時代—発掘でみえてきた食器・酒造り・饗宴—」の開催	42
「イオンふるさとの森づくり」へのサッカー部の参加	43
新しい教育旅行プログラム京都 B&S プログラムへ参加	44
「第1回『のんびり暮らしの家』設計コンペティション」最優秀賞受賞	45
滋賀県草津駅前での来街者調査活動	46
「福井県若狭町の観光ツアー」を提案	47
一覧表	
その他の地域連携型教育プログラムの実績一覧	48
V. 公的研究費・助成金等一覧（2019年度実績）	49
VI. 協定等	51
自治体等との連携協力に関する協定の締結	51
VII. 教員の活動実績等	55
2019年度 学部・学科別活動実績	55
①地域を対象とした研究活動 ②社会貢献活動	
VIII. 広報誌「つながる」	68
2019年度 CONTENTS	68

京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）
（2019年4月～2020年3月）



京都橘大学産学公地域連携推進機構
地域連携センター
Center for Regional Collaboration



はじめに



北村 義典
地域連携センター長

地域連携センターの役割

本学では、「自立」「共生」「臨床の知」を教学理念に掲げており、特に「臨床の知」には、社会に貢献できる「実践的」な学問を身に付けた人材を育成するという教育的目標が含まれています。そうした大学の方針に基づき、2000年より活動してきた「地域政策・社会連携推進センター」をより発展的に展開させ、2014年4月に「地域連携センター」を設置しました。本センターでは、地域社会や地方自治体・企業・NPO法人等と共に様々な連携事業を展開すると共に、各学部の教育・研究成果を社会に還元するエクステンション講座や、職業を持った方々に専門的な学習の機会を提供するリカレント講座も実施しています。センターの利用は、本学学生・教職員のみならず学外からも可能であり、各種研究会や学習会の開催等にも対応しています。また、文化政策、公共政策、地域計画に関する基礎的な資料の収集・蓄積をしており、産学公地域連携に関する学習の場としての活用が可能となっています。

「学まち連携大学」促進事業の展開

「地域連携センター」では、長年にわたり各種連携事業を支援してきており、近年では、その成果を年度毎に『地域連携型教育プログラム実績集』として取りまとめるようにしています。こうした中、2016年度に京都市から受託した「学まち連携大学」促進事業では、以下の3つの基幹課題と、7つの教育プログラムを展開することになりました。基幹課題には「暮らしの安心・安全、健康・福祉・育ち合い」「地域振興、まちづくり」「地域文化と歴史の継承、観光振興」の3点を設定し、これらの基幹課題に沿って7つの教育プログラムを対応させています。

2016年度は「立ち上げ」、2017年度は「定着化」、2018年度は「充実と共有」、そして2019年度は「事業の完成とさらなる展開」と位置づけ、事業を進めてきました。そうした中、昨年度から実施している「学まち AWARD」を本年度も継続し、各学部の学生たちによる地域連携活動を発表・評価することで、普段は関連の少ない学部間での事業内容の共有を目指しました。本実績集では、そうした「学まち AWARD」の発表内容を含む「学まち連携大学」促進事業における教育プログラムを中心に編集しています。

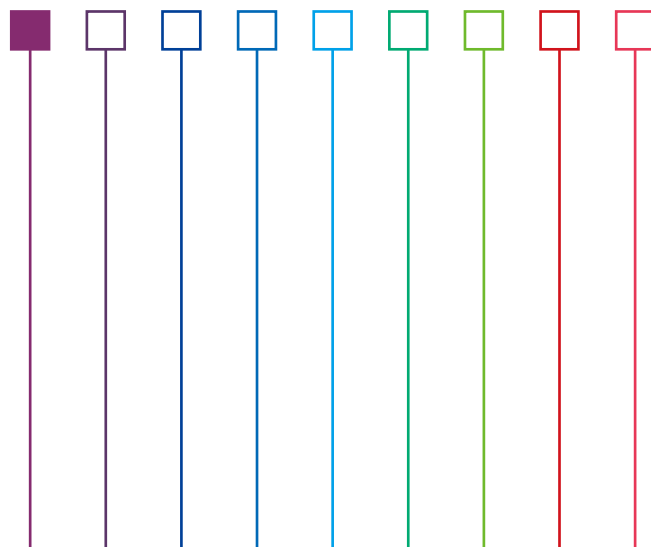
地域連携活動拠点としてのサテライトと今後の展開

2016年度末、「学まち連携大学」促進事業の一環として、山科駅前商店街に地域連携活動拠点としてのサテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」を設置致しました。本学の学外拠点には、醍醐中山団地に設置した地域連携センター分室に続く二例目のサテライトとなります。定員10名ほどの小さなラボではありますが、駅前商店街という気楽に使える場所柄を反映し、学内では見られない地域と連動した個性的なプログラムが実施されています。こうした街中での実績を踏まえ、山科地域でのキャンパスタウンとも言える文化的まちづくりに貢献できる事業を進めていきたいと考えています。

今後、本学での地域連携活動をより広く知っていただくための広報展開、さらには産学公連携の中でも比較的対応が弱かった産業分野との連携などへ積極的に展開していくことを検討しています。今までと同様、本学の地域連携活動にご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

I

4年間を振り返って



京都橘大学 「学まち連携大学」促進事業 4年間の軌跡



阪本 崇
京都橘大学副学長

教学理念として「自立」・「共生」・「臨床の知」を掲げる京都橘大学にとって、地域連携は教育・研究活動の重要な一要素であり、2016年に「学まち連携大学」促進事業（以下、「学まち」事業）に採択される以前から、本学ではさまざまな形で地域連携活動が行われてきました。本学の「学まち」事業は、そうした従来の取り組みを継承しつつ、さらに発展させる形で進められました。

この4年間に実施された本学の「学まち」事業を今あらためて振り返ってみると、本学での地域連携事業の取り組みが多岐にわたるものであること、そして地域を単なる教育・研究のフィールドとして捉えるのではなく、学生・教職員がそれぞれの専門知識を生かして山科・醍醐地域を中心に地域をよくしていくようにしてきたことがよく分かります。

毎年開かれる報告会では、各学部学科ごとの取り組みが紹介されてきましたが、そこでは年を経るごとに取り組みが広がり、それぞれの学部学科の特長を生かしたものになってきたことが分かりました。とくに参加した学生には、他学部・他学科の取り組みが大きな刺激となったことだろうと思います。

このように考えてみると、「学まち」事業に採択されたこと

の最大の意味は、本学の各学部学科が、それぞれの特長を生かしてこれまで独自に取り組んできた地域連携活動が可視化され、他の学部学科にも共有されたことにあるのではないかと考えています。もちろん、知識として共有されることの次のステップとして、そうした知識が他の地域連携活動に生かされ、大学と地域がともに発展していくことができれば理想的です。

その兆しは、すでに、京都橘大学地域連携センター公認学生団体「たちラボたち」が中心になって取り組んできた「こどもも大人も作って鳴らそう！楽器作りワークショップ」などのさまざまな取り組みのように、学部学科を超えた学生たちの自主的な取り組みとして現れ始めています。今後も「学まち」事業で培った成果が生かされ、地域連携活動を通じて大学と地域がともに発展していくことを願ってやみません。

2016年度

キーワード：「立ち上げ」

- ① 「学まち連携大学」促進事業採択
- ② 京都橘大学サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」開設
- ③ 「学まち連携大学」促進事業推進委員会発足

2016年度は「学まち連携大学」促進事業の採択を受け、この事業の推進体制を整えるため、「学まち連携大学」促進事業推進委員会を設置し、京都橘大学サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」を開設しました。これらの推進体制のもと、各学科の専門性を活かした取組を開始しました。



2017年度

キーワード：「定着化」

- ① 看護学部「お助け隊」の活動
- ② 発達教育学部「音楽のアウトリーチ活動」の展開
- ③ 現代ビジネス学部「こだわり市場」の発刊

2017年度は昨年度から始動した各学科の取組を定着化させる1年となりました。看護学部看護学科の「お助け隊」の活動、発達教育学部児童教育学科の「音楽のアウトリーチ活動」、現代ビジネス学部都市環境デザイン学科の「こだわり市場」、健康科学部からは理学療法学科の「みんないきいき幸齢教室」、救急救命学科の「爽快健康ウォーク」など、さまざまな取組を展開しました。



2018年度

キーワード：「充実と共有」

- ① 学生による活動報告会「学まちAWARD」開催
- ② 看護学部教員による「子育てカフェ“ふらり”」の始動
- ③ 京都橘大学「産学公連携懇話会」の開催

2018年度はこれまでの活動をいっそう充実させました。看護学部内の次世代育成看護研究会では、たちろボ山科での定期開催企画「子育てカフェ“ふらり”」を新たに始動しました。

また本事業も3年目となることから、成果の共有にも注力しました。行政や産業界に対して本学の教育活動の成果をお伝えし、ご意見をいただく場として、京都橘大学「産学公連携懇話会」を開催しました。そして、学生による地域連携活動発表会「学まちAWARD」を初開催しました。他学科の学びの形やその成果を全学で共有することで、他学科の学びに関心を持つ機会や所属学科の魅力を再発見する機会となり、全学の地域連携意識が向上しました。



2019年度

キーワード：「事業の完成とさらなる展開」

- ① 書道コース学生による書道教室「OSJ 橘」の始動
- ② 外部審査委員の出席&全学科参加による「学まちAWARD2019」の開催
- ③ 成果報告会「学まち座談会」の開催

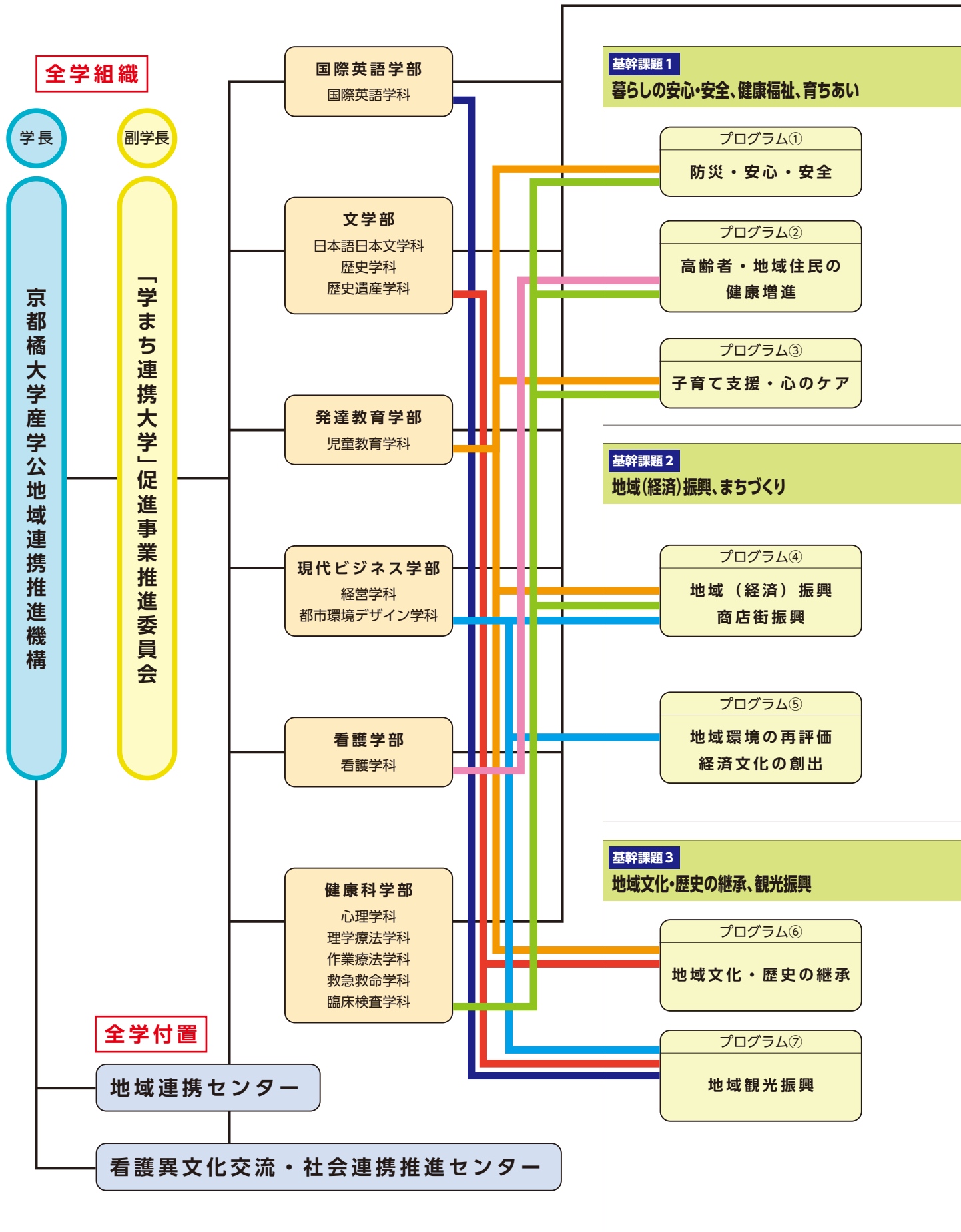
本事業最終年度となる2019年度は「事業の完成とさらなる展開」をテーマに地域連携型教育プログラムを展開しました。各学科の取組を継続する一方で「学まち連携大学」促進事業推進委員会において4年間の総括を行い、成果や課題を共有しました。また「学まちAWARD2019」も引き続き開催しました。今年度は全学科の出場が叶ったことに加え、外部審査委員にもご出席いただき、昨年度よりも発展させることができました。そして、本事業の学外への発信の場として「学まち座談会」を開催しました。

一方で、小学生向けの書道教室「OSJ 橘」など、新たな取組も始動しました。本事業はこの年度で終了となりますが、今後も助成金の有無によらず「地域で学び、地域で鍛えられる」をコンセプトに、旺盛な地域連携活動を展開していきます。



「学まち」取組図

山科・醍醐地域で“育ち合う・響き合う”地域連携型教育プログラム



【全学必修科目】

地域課題研究

全学部全学科において、1回生後期に正規必修科目として地域の課題を学び、課題解決に取り組む

【例】・「乳幼児との遊び場を通しての交流体験と子育て支援の課題」<野洲市> (心理学科) // // 2016年度・35頁 // //

活動事例	『実績集』掲載				
・救急救命研究会「TURF」(救急救命学科)	2015年度・29頁				2019年度・40頁
・「子ども守り隊〜守るんジャー」(児童教育学科)	2015年度・8頁				
・「防災リーダー養成プロジェクト」(救急救命学科)			2017年度・9頁		
・近隣地域の河川における水質調査と水質変動因子の解析 (臨床検査学科)					2019年度・26頁

・「たばな健康相談」(看護学科/看護異文化交流・社会連携推進センター)	2015年度・26頁	2016年度・22頁	2017年度・21頁	2018年度・22頁	2019年度・30頁
・大津市老人クラブ連合会との連携事業<大津市>(看護学科)	2015年度・18頁	2016年度・33頁			
・「みんないきいき年齢教室」(理学療法学科)	2015年度・28頁	2016年度・20頁	2017年度・19頁	2018年度・20頁	2019年度・28頁
・「爽快健康ウォーク」(救急救命学科)		2016年度・8頁		2018年度・15頁	2019年度・23頁
・高齢者の家庭訪問支援「お助け隊」(看護学科)		2016年度・17頁	2017年度・16頁	2018年度・17頁	2019年度・25頁
・「腰痛予防教室」(理学療法学科)				2018年度・18頁	
・「高齢者ものづくり教室」(作業療法学科)				2018年度・25頁	2019年度・33頁
・「こころなごみカフェ」(心理学科)			2017年度・23頁	2018年度・24頁	
・京都薬科大学との専門職連携教育プログラム (看護学科)					2019年度・41頁

・「げん★kids 応援隊」の活動 (児童教育学科)	2015年度・7頁	2016年度・13頁	2017年度・12頁	2018年度・13頁	
・子どもと楽しむ「オペレッタ」公演 (児童教育学科)					2019年度・20頁
・地域の小学生に向けた書道教室 OSJ 橋 (日本語日本文学科「書道コース」)					2019年度・31頁
・パパとママのこころ育て広場 (心理学科)					2019年度・32頁

活動事例	『実績集』掲載				
・マーケティング調査演習<草津市> (心理学科)	2015年度・13頁	2016年度・34頁	2017年度・29頁		
・山科ブランド紹介パンフの作成 (経営学科)		2016年度・10頁	2017年度・10頁	2018年度・11頁	2019年度・19頁
・MOMO テラスと連携した地域活性化イベント (都市環境デザイン学科・児童教育学科)			2017年度・20頁		
・地域連携活動学生委員会「たちらボたち」の活動 (地域連携センター)				2018年度・10頁	2019年度・18頁
・オリジナル手帳「Techobana」の開発と商品化 (都市環境デザイン学科)	2015年度・12頁				
・オリジナルディフューザー「Aromandarin」の開発と商品化 (都市環境デザイン学科)			2017年度・13頁		
・オリジナルアイスクリーム「RICHIA」の開発と商品化 (都市環境デザイン学科)			2017年度・17頁		
・「やましな駅前陶灯路」地域連携PBL科目	2015年度・25頁	2016年度・19頁	2017年度・18頁	2018年度・19頁	
・オリジナルバウムクーヘンの研究開発 (都市環境デザイン学科)					2019年度・22頁
・警察官へ向けた英会話教室 (国際英語学科)					2019年度・27頁
・「イオンふるさと森づくり」へのサッカー部の参加					2019年度・43頁
・滋賀県草津駅前での来街者調査活動 (心理学科)					2019年度・46頁

・山科区との定期協議会/「山科醍醐地域教育懇話会」の設置 (産学公地域連携推進機構)	2015年度・9頁				
・開放特許を活用した地域ビジネス創生 PBL (経営学科)	2015年度・19頁	2016年度・21頁			
・「熊野再発見プロジェクト」<那智勝浦町> (都市環境デザイン学科)	2015年度・22頁	2016年度・39頁	2017年度・33頁		
・やましなガイド「やましなっぷ」の作成 (都市環境デザイン学科)		2016年度・18頁			
・「ルシオール・アート・キッズ・フェスティバル」<守山市> (都市環境デザイン学科)		2016年度・38頁			
・「第1回 のんびり暮らしの家」設計コンペティションでの最優秀賞受賞 (都市環境デザイン学科)					2019年度・45頁

活動事例	『実績集』掲載				
・京都世界遺産PBL「総本山醍醐寺プロジェクト」(歴史遺産学科)	2015年度・10頁	2016年度・32頁			
・地域文化ホールとの連携による「文化芸術による地域貢献プロジェクト」(都市環境デザイン学科)		2016年度・24頁			
・醍醐中山団地での陶灯路 (都市環境デザイン学科)				2018年度・21頁	2019年度・29頁
・「桂二葉ちゃんの落語ワークショップ」(日本語日本文学科)				2018年度・23頁	
・「音楽のアウトリーチ活動」(児童教育学科)		2016年度・10頁	2017年度・11頁	2018年度・12頁	
・「狂言とワークショップの夕べ」(日本語日本文学科)			2017年度・22頁		
・国宝二条城来訪者の動態調査 (歴史遺産学科)					2019年度・21頁
・京都市考古資料館との合同企画展「焼き物からよむ平安時代」開催 (歴史遺産学科)					2019年度・42頁

・駅ナカアートプロジェクト (都市環境デザイン学科)			2017年度・31頁		
・「京の七夕」参加者への書道パフォーマンス (日本語日本文学科「書道コース」)		2016年度・26頁			
・「草津まちイルミ」での灯りの創作<草津市> (都市環境デザイン学科)		2016年度・36頁			
・英語版「山科ガイド」制作 (国際英語学科)				2018年度・14頁	
・「こだわり市場」の制作と洛和会連携ツーリズム企画 (都市環境デザイン学科)	2015年度・11頁	2016年度・13頁	2017年度・15頁	2018年度・16頁	2019年度・24頁
・新しい教育旅行プログラム 京都B&Sプログラムへ参加 (都市環境デザイン学科)					2019年度・44頁
・「福井県若狭町の観光ツアー」を提案 (経営学科)					2019年度・47頁

・「学まちAWARD2019」による学生表彰 (地域連携センター)				2018年度・26頁	2019年度・8頁
・「醍醐中山団地活性化プロジェクト」(京都市・団地との3者協定)	2015年度・14頁				
・駅前サテライト「たちらボ山科」の開設と学生委員会の支援		2016年度・8頁	2017年度・8頁		

「学まち連携大学」 促進事業の集大成 「学まち AWARD2019」 報告

■各学科発表

1. 心理学科「パパとママのこころ育て広場における幼児との関わり」
2. 国際英語学科「The Yamashina Guide Project Part Two:Deeper into Kyoto Yamashina」
3. 作業療法学科「モノ作り教室の取り組み」
4. 歴史遺産学科「国宝二条城来訪者の動態調査」
5. 経営学科「開放特許等を活用したビジネスアイデア学生コンテストに参加して」
6. 看護学科「醍醐中山団地 お助け隊」
7. 臨床検査学科「山科区近隣地域の河川における水質調査と水質変動因子の解析」
8. 歴史学科「地域課題研究「三栖閣門と近代の治水事業」について調べる」
9. 日本語日本文学書道コース「教えて！書道コースの世界」
10. 都市環境デザイン学科「『修学旅行プロジェクト』の活動について」
11. 児童教育学科「子どもと楽しむ『オペレッタ』公演」
12. 救急救命学科「広げれ救命の輪～一般市民に対するBLSの普及～」
13. 理学療法学科「腰痛改善予防教室での学び」

■審査員

- ・日比野学長
- ・阪本副学長（地域連携担当）
- ・地域連携センター運営委員
- ・外部委員
 - ◎京都市総合企画局総合政策室大学政策部長 塩野谷和寛 様
 - ◎大学コンソーシアム京都副事務局長 須浦浩二 様
 - ◎京都知恵産業創造の森事務局長 菅野周二 様
 - ◎山科区役所副区長・地域力推進室長 人見早知子 様

本学は、社会に開かれた大学として、教育・研究に欠かせない地域連携活動を重視し、「暮らしの安心・安全、健康福祉、育ちあい」、「地域（経済）振興、まちづくり」、「地域文化・歴史の継承、観光振興」という3つの基幹課題を掲げて、継続的に展開してきました。「学まちAWARD2019」は、この1年間の各学科の取り組みを発表し、その成果や教訓を全学で共有する機会として、2019年11月13日に開催しました。

各学科の発表については、「学びの深さ」、「取り組みの熱意」、「地域への貢献度」、「取り組みの新規性と発展性」、「プレゼンテーションの巧みさ」の5項目に基づいて会場の観客と審査員が評価し、優れた発表には学長賞（1チーム）、副学長賞（2チーム）、プレゼンテーション賞（1チーム）が授与されました。

最後に外部審査員各氏から、「多様な分野の挑戦はたいへん興味深い。在学中に京都のまち・人・企業を知り、できれば卒業後も京都で暮らしてほしい」、「子育て支援・高齢化・観光・健康長寿など、まさに山科の課題をテーマに取り組みられており、山科に京都橘大学があってよかったと心から感謝している」、「きわめて専門性の高い活動が展開されている。これを安売りせず、後輩に引き継ぎ、ソーシャルビジネスという形で京都の経済活性化にもつなげてほしい」、「地域に入り込んだ、すばらしい取り組みの数々だった。学生



開会挨拶（学長）

は卒業するが、地域住民は住み続けるので、うまく後輩にバトンを渡し、息長い取り組みを期待している」とのコメントをいただいて閉会しました。

心理学科

「パパとママのこころ育て広場における幼児との関わり」

「パパとママのこころ育て広場」は、子どもの発達支援と保護者への子育て支援を目的に、就学前の子どもと悩みを抱える保護者を対象に、毎月1度、本学の心理臨床センターで開催されています。子ども同士、保護者同士、子どもや保護者とスタッフなど、多様な方向で交流する取り組みで、私たち学生は子どもと遊ぶボランティア

アスタフの一員として参加しています。

子どもと保護者は、保育士さんによる絵本の読み聞かせや手遊び等の設定遊びを親子で楽しみ、子どもの緊張を解きます。その後、



子どもは自由遊び、保護者は臨床心理士の進行による保護者同士の交流へと進みます。院生・学生は、子どもの希望する遊びを1対1でします。保護者同士の交流では、悩みを出し合い、解決の方向性を話し合い、必要に応じて臨床心理士が助言を行います。

その後、子どもと保護者が合流し、保育士さんの進行で設定遊びをする頃になると、子どもは笑顔でいっぱいになり、保護者も子どものような笑顔と一緒に遊びます。

子どもたちと保護者を見送った後は、スタッフで振り返りを行い、参加者一人ひとりの情報を全員で共有して、次のアプローチ方法等を検討します。

私たちが大切にしているのは、子どもに寄り添い、相手が何歳であろうと1人の人として接することです。子どもの目をしっかり見て、子どもの話に耳を傾けると、子どもは表情が生き生きとして、言葉も増えるような気がします。

最も印象的だったのは、親に反抗するという子どもらしさがみられなかった子が、「帰りたくない」とだだをこねる姿です。反抗は子どもの成長においてとても大切で、子どもが遊びのなかで表現した気持ちを、おとなが真剣に受けとめれば、子どももそれに応じて、相互に情緒的交流が生じるのです。まさに心理学の授業で学んだことを直接的に実感した瞬間でした。

このように継続的に子どもたちと会う機会は、とても貴重です。今後も心理学生として、目に見えない心の成長を大切に、子どもたちとふれあい、子どもの成長を促進するお手伝いができたらと思っています。

国際英語学科

「The Yamashina Guide Project Part Two:Deeper into Kyoto Yamashina」

“Deeper into Kyoto Yamashina”は、昨年発行した英語版山科



観光ガイドブックのPart2です。急増する外国人観光客のニーズを調査し、山科の観光や食に関する実践的な翻訳練習を行い、山科のコミュニティに貢献することを目的に、企画・取材・執筆等、印刷以外のすべての作業を学生自身の手で行っています。

山科の代表的な観光スポットはPart1で紹介したので、Part2は寺社仏閣、祭りやイベント、宿泊施設に加えて、銭湯、串カツや駄菓子屋といった穴場情報を充実させました。また、海外に比べてカード決済が可能な店が少ないことを考慮して、コンビニやATM等、お金に関する情報も掲載しました。

こうした観光情報を紹介するには地域の方々の協力が不可欠ですが、翻訳が不十分なために掲載予定先から苦情が寄せられることもありました。この件を通して、少しのミスが大きな問題につながる反面、丁寧に調べ、しっかり確認をすれば、地域の方々との関係がよくなり、今後にもつながることを学びました。

今年度は、インターネットでPart1と2を閲覧できるようにしようと、ホームページを立ち上げました。現代ビジネス学部の学生が作成した「山科ウォーキングマップ」の英語版を作成し、その裏面には学生が勤める飲食店も掲載しました。

現在は、清水焼の販売店から依頼された英語版ホームページの作成に取り組み中で、2020年に京都で開催されるコンgres（国連犯罪防止刑事司法会議）のパネル作成や当日の通訳の依頼も受けています。また、Part3も発行予定で、これまでの成果と食に関するデータベースをホームページ上に構築しようと考えています。

作業療法学科

「モノ作り教室の取り組み」



高齢者の人口比率は、世界平均が8.9%に対して、日本は27%以上と、世界でも最高水準で、今後も上昇すると予想されています。ライフステージの最終段階の高齢期には、それ以前に獲得した能力や社会との関わりが減少し、知的機能や身体能力の低下が、外出や社会的役割の減少等につながり、さらなる能力低下を引き起こすという悪循環が大きな問題となっています。

社会的役割の喪失、引きこもりや孤独、認知症等、高齢期の心身の健康や生活の質に影響を与える代表的要因に対処するには、高齢者が社会のなかで役割を獲得し、地域で人と交流したり、趣味に打ち込んだりする機会を得ることが重要と考えられています。

そこで私たちは、モノ作りを通してこれらの課題解決に貢献できるのではないかと考え、本学で開催されているモノ作り教室にボランティアとして参加しました。

この教室にはNPO法人シーズネット京都に所属する高齢者が参加しています。シーズネット京都は、温もりのある老後をともに生きるために、サロン活動やサークル活動を通して仲間づくり・居場所づくり・役割づくりを支援しています。本学で開催されるモノ作り教室もそのサークルのひとつという位置づけで、私たちは学科の

先生方の助言を受けながら高齢期の課題解決に向けたプログラムを展開しています。

具体的には、高齢者が地域で役割を持つきっかけになればと、学園祭に出品する商品の考案と制作をお願いし、学生も一緒に取り組みました。これを地域での定期的な交流につなげるために教室の開催頻度を月1回に設定し、モノ作りを趣味として楽しめるように、作りたい商品の意見を参加者から募り、作成段階では振り返り等をして、高齢者自ら考えることができるように工夫しました。

私たち学生は、何をどうするかを高齢者の方々と話し合うなかで、高齢者の発想や経験から多くの学びを得ました。お互いの世代の関心事や生活状況を話し合えたことも貴重な体験で、参加者から「若い人に自分の経験を伝えたり、逆に最近のことを教えてもらうのが私の生きがいになっている」と言われたことは特に印象に残っています。

作業工程では、高齢者が苦手とする細かな作業は学生が担当したり、作業を円滑にする道具を用意して、講義で学んだことを活かせるように努めました。そうして完成したのが、紙すきで作った手づくりのハガキとロウで作ったアロマの香る置物です。学園祭の当日はたくさんの来場者が購入され、様子を見に来られた高齢者の方も大喜びで、「もっとうまく作る方法を考えるのが楽しくなってきた」「若い人とのモノ作りはよい経験になった。これからも参加しよう」等の感想をいただきました。

この取り組みを通して、高齢者が、モノ作りのみならず、若い世代と交流する機会を大切に思って活動されていたことを知り、私たちがだからこそできることもあるのではないかと感じています。

また、講義で学んだことがうまく実践できなかつたり、逆に役立ったりするなかで、作業療法の奥深さに触れることができ、作業療法士になりたい気持ちが一段と強まりました。今回の活動は、学科の学生が主体的に実行した初めての取り組みです。失敗もありましたが、各人に合わせたコミュニケーションの仕方や手のさしのべ方、多様な世代が力を合わせて目標に向かう楽しさなど、自分たちが主体的に考え行動したからこそこの学びがあることも知りました。この経験を今後の学習に活かしたいと思っています。

歴史遺産学科

「国宝二条城来訪者の動態調査」

私たちは「京都総合演習」という授業で、二条城を訪れる観光客の動態調査に取り組みました。観光客は何を見て、歴史遺産の何に興味があるのかを詳細に調べた調査がなかったからです。

この授業は、京都とその周辺地域の歴史遺産の活用方法を学び、その方向性を考えることを目的に、歴史文化遺産を活かした取り組み状況を調べ、活用策を考えるための基本情報を把握していきます。それを今回の動態調査に当てはめると、二条城の歴史を含む基本情報や現在の取り組み等を頭にたたき込む（地域における歴史文化の活用に関する理解）→城内マップやアンケート用紙の作成（調査の下準備）→現地調査→得られた情報をデータとして分析というプロセスになります。

現地調査の当日は、12名の3回生が参加し、2人1組で6グループに分かれ、



観光客を2グループずつ分担することにしました。合計12組分のデータを集めるわけです。調査への協力をスムーズに得るため、大学名の入った腕章を付け、授業内容や調査データの使用目的等をきちんと説明するように心がけました。

調査の手法は、観光客にぴったり付いて、歩いた場所、話した内容、見たものとその時間、買ったもの、食べたもの等、すべてを記録するというものです。プライバシーにも関わりますから、なかなか協力を得られず、苦戦するグループもありました。このような手法は、時間がかかり、調査される側もする側も多くの人が必要なため、京都市もこれまで密着調査ができなかったのです。

12件の調査データから、二の丸御殿よりも外の庭園に興味を持つ人が多いこと、二の丸御殿内では、装飾や展示されている人形、うぐいす張りの廊下の音を楽しむ人が多いことがわかりました。二条城では、その歴史的価値への理解が深まるよう、英語・日本語表記の案内板が設置されていますが、実際に観光客が興味を抱いたり楽しんだりしていることはズレがあるようです。今回の調査で得られたデータは、これから文化財を見る人の満足度向上に活かされることを願って、京都市に送ります。

経営学科

「開放特許等を活用したビジネスアイデア学生コンテストに参加して」

このコンテストは、企業の開放特許を活用して、それをビジネスに変えていけるようなアイデアを学生が発表するもので、主催は近畿経済産業局です。きょうは昨年度の取り組みを主に報告します。

昨年度の参加チームは12で、対象となる開放特許は約220件もあり、多くの中小企業も対象でした。印刷画像への高度埋め込み技術の特許や着るだけで暖くなる服を開発できる特許等があり、その内容を理解するだけでも難しく、アイデアを考えるのは大変でした。

活動を開始したのは後期の授業からで、特許の説明会に参加し、4人で週2回のミーティングをしてアイデアを練り、考案したアイデアに関する資料を提出し、プレゼンテーションの準備へと進みました。

このコンテストで重視されるのは、解決しようとする課題の社会的重要性やアイデアの斬新さですから、難易度がかなり高く、週2回のミーティング以外の時間にも各自で、類似の既存サービスの有無、新規性、優位性、実現可能性等を調べ、それを持ち寄ってメンバー間の意見のすり合わせを行いました。

その結果、私たちが考案したのは、(株)富士通の印刷画像への高度埋め込み技術の特許を活用して、紙チケットに高度に埋め込んだおしゃれなチケットを販売するサービスです。そのチケットを購入して、相手にプレゼントし、その写真をSNSに投稿してもらえば広がるのではないかと考えたからです。

あればいいと思うサービスは、たいてい先に出されているので、アイデアはなかなか決まらず、メンバー間の意見を一致させる



ことにも苦労しました。

プレゼンテーションは、発表12分、質疑応答5分で、審査員からの質問もあり、臨機応変な対応力と事前準備の大切さを痛感しました。

当日は病欠メンバーが出て焦りましたが、プレゼン終了後に他大学の参加者と意見交換をして、交流を深めることができたのは得難い経験です。

最終的に受賞は逃しましたが、みんなで議論し、やりきったという充実感があり、自分たちの意見を主張することの大切さと、その裏付けとなる情報を得ることの難しさ、情報の大切さを知り、現場でのヒアリングの重要性と他者への説得力の必要性に気づきました。提案力、プレゼンテーション力、実践力は向上したと自己評価していますし、学外の人たちとの交流により刺激を受けました。

受賞できなかった悔しさをバネに、今年度のコンテストにもエントリーしています。今度はカゴメ(株)の乾燥トマトの製造方法を利用したプランを考案し、現在、審査に向けたプレゼンテーション資料を作成中です。昨年度のヒアリング不足の経験を教訓にして、今年はずで滋賀県でトマトに関するヒアリングを実施しています。

看護学科

「醍醐中山団地 お助け隊」

今年6月、伏見区の醍醐中山団地で「お助け隊」として活動した内容を報告します。「お助け隊」とは、プライマリファミリー(PF)の家庭で、PFの依頼に基づき、清掃や生活援助等の活動を行うチームで、PFは、山科区老人クラブの会員や醍醐中山団地等の本学周辺の地域住民を指します。今年は学生91名が約30世帯を訪問しました。



過去35年間に、高齢者に占める単身者の割合は、男性で3倍、女性で2倍に増え、今後も増加が予想されています。老化や疾患が原因で生活機能が低下すると、日課や家事が行えなくなり、生きがい感が未充足となり、周囲のサポートが困難になると生活機能がさらに低下するという悪循環に陥ります。そういうなかで起こる認知症や孤独死がいま、社会問題となっています。

そこで「お助け隊」の意義は、家庭訪問により、醍醐中山団地のPFのニーズ(日々の困りごとの解決、若い世代との交流等)と学生のニーズ(高齢者の住環境や困りごとを知り、地域住民との交流を通して在宅医療や退院支援のために必要な知識を獲得したい)の双方を同時に満たす点にあります。

私たちは、事前にPFの依頼内容を聞き、必要な物品を持参してPFの家庭を訪問しました。たとえば80代の単身女性は、4階に暮らしていますが、膝痛で日常生活に支障があり、部屋の床には物が散乱し、段ボール箱が積まれています。大型ごみの廃棄、換気扇の掃除、部屋の片付けの依頼を受けた私たちは、PFの方と一緒に収納場所を考え、部屋の整理や掃除をして転倒リスクを軽減し、スーパー等の配達サービスの利用を提案したり、周囲の人へのPFの思いを傾聴するなどしました。

しかし、一時的な効果しか得られないサポートのみに終わり、その人が住み慣れた地域で自分らしく生活するためには、地域住民の協力や社会資源の活用による地域全体での継続的な援助が必要であることを実感しました。

今回得た学びは、外から見た評価ではなく対象者にとってどうか

という思考を大切にすることです。たとえば部屋の物品を手すり代わりにしたり、散らかっているように見えても本人にとっては使いやすい配置だったりするので、外から来た学生が自分の価値観で部屋を片付けたとしても対象者のためになるとは限りません。また、そういう思いを汲み取れるように、対象者への深い理解も必要です。

坂道や段差の存在が外出困難につながることも、この活動のなかで実感でき、退院後の生活を見据えた看護の必要性を学びました。疾患を中心に対象者を理解するのではなく、その人の価値観や生活を理解し、それを尊重しながら看護を実践することや、看護職自身もさまざまな活動を通して生活体験を豊かにすることがよい看護につながることを実感する機会となりました。

歴史学科

「地域課題研究『三栖閘門と近代の治水事業』について調べる」

閘門は、・運河や放水路で水量を調整する門、・運河・河川等の水面に高低差のある場所で、水面を昇降させて船を行き来させるための装置で、三栖閘門は伏見区の京阪電車京東線中書島駅の近くにありま

す。三栖閘門と深い関わりのある淀川(瀬田川・宇治川を含めた呼び方)は、近畿地方の社会・経済・文化の基盤を支えています。

治水事業の歴史を振り返ると、1885(明治18)年夏の大規模な水害がきっかけになり、1896年に河川法が制定され、以後、次々と河川工事が始まります。1953(昭和28)年の全国的な台風被害をきっかけに、1954年に淀川水系改修基本計画が策定されて、堤防の強化、放水路の拡大、護岸工事等が進められました。

これらの経過を調べるなかで、三栖閘門が京都の河川の氾濫防



止に果たした大きな役割を知り、水量調節だけでなく、水面の昇降で船を行き来させて京都の水運を支えてきた、とても大切な施設であることを初めて認識しました。

臨床検査学科

「山科区近隣地域の河川における水質調査と水質変動因子の解析」

京都市は市民と協働しながら進める京都市河川整備方針を策定しており、私たちの活動は、この整備方針の一環として本学周辺の山科川や、桂川等の河川の水質調査を行うものです。水質評価項目に沿って測定し、その結果から水質評価を行い、水質変動因子の原因物質を推定し、水質汚染があれば汚染物質ごとの対策法も提案することをめざしました。

測定項目は、pH、色度、溶存酸素、生物化学的酸素要求量、鉄・六価クロム、硝酸塩、一般細菌、大腸菌等で、採水した後、機器を用いて測定し、その結果を分析しました。採水場所は本学周辺の山科川2カ所、宇治川2カ所、山科音羽川の計5カ所と、桂川、高瀬川、鴨川、高野川、琵琶湖疏水の計10カ所で、採水は晴れた日に行いました。

調査の結果、いずれの河川でも、水中の酸素濃度は比較的良好で、水生生物の棲息にはほとんど問題がないことがわかりました。工場

排水や生活排水の影響は小さく、良好な水質と言えます。しかし、菌はいずれの河川でも一定数が検出されるため、飲用には適しません。

一定の時期に採取しないと変質する値があるため、早朝から複数の河川で広範囲に採水するのは大変でしたが、それを学内で検査・測定するときはさまざまな手法や知識を学ぶことができ、とても勉強になりました。

今後は、冬季の水質検査を行い、これまでに得られた結果と合わせて考察することで、四季における各河川の今年度の水質評価を総括する予定です。



日本語日本文学科書道コース

「教えて!書道コースの世界」

書道コースの学生にとって、学生書道の全国大会である全日本高校・大学書道展に向けた作品制作は最大の節目であり、本学は団体部門でトップクラスの実績を誇っています。また、夏や秋に学科が主催する書展は、毎年、たくさんの方が観に来てくださいますし、書道パフォーマンスもさまざまな場所で展開しています。

ふだんの授業では、古典、書道史、書論等、さまざまな分野を学習し、創作に取り組むこともあります。空き時間や放課後は各自が自主練習に励むので、廊下まで半紙で埋まることも珍しくありません。

こうして身に付けた知識と技術を地域のために活かさないかと考えて、思いついたのが子どもたちに書道を教える取り組みです。学生の有志を募り、大学と交渉したり、先生方に相談するなどした結果、OSJを発足させることができました。OSJは、「おもしろい・しっかり学べる・字がうまくなる」の頭文字から名付けたグループ名です(笑)。

OSJの目的は、子どもにとっては字の上達、正しい書き順や筆の持ち方を学び、集中力を養うこと、学生にとっては書道のよさを子どもたちに伝え、筆を持つ機会を日常的につくることですが、より根本的には自分たちの知識や技術を地域のために活かしたいという思いがあります。

そこでまず、児童募集のチラシを作成し、事前に許可を得た小学校の門前で手渡ししました。開講前には、児童への指導方法についてミーティングを行い、入りやすい教室づくりを目標にして準備をしました。

指導は毛筆と硬筆に分けて行い、統一した指導が行えるよう、お手本を工夫して作り、それを課題にして進行しました。お手本は毎月変更する予定です。

11月6日の初回開催日は、3人の小学生が参加してくれました。一般の書道教室には昇段・昇級システムがあり、それによって子どもたちの意欲を高めますが、私たちはそれができな



い代わりにスタンプカードを用意して、楽しく学べるように努めています。

保護者の方々からは、単に美しい字を学ばせるだけでなく、「礼儀作法を学ばせたい」「書道コースの学習内容や実績を知りたい」といった声が寄せられ、私たちは字を教える以外のことも求められていることを認識しました。

今後は、SNSの活用や募集対象世代の拡大によって受講する子どもを増やすこと、子どもに書道の楽しさを知ってほしいという願いを基本に据えて指導方法を工夫すること、保護者間の口コミによってOSの活動に対する理解や関心を広げ、教室の参加者を増やすことを課題にして取り組みを続けます。

都市環境デザイン学科

「『修学旅行プロジェクト』の活動について」



私たち谷口ゼミは、こだわりを持つ店舗を紹介する「こだわり市場」、高齢者向けユニバーサルツーリズムの企画、地域の魅力を立体的に紹介する山科365度VR企画、修学旅行生に観光プランを紹介する取り組みという4つのプロジェクトを進めていて、今回ご報告するのは修学旅行に関するプロジェクトです。

この取り組みは、先輩方が長年続けていて、「おいでやす京都」というホームページを作成し、寺社仏閣・観光施設・お土産（食・雑貨）のジャンル別に紹介するほか、京都の祭り、交通、京都市バスや地下鉄の一日乗車券を利用した一日観光プランも掲載しています。ホームページで紹介する情報はすべて、学生が現地で撮影やインタビューを行って収集しました。特に一日観光プランは、嵐電コース、東山徒歩コース、京都に残る物語コース等、とても多彩で、さらに今年度はアニメの聖地巡礼コースも加える予定です。

このプロジェクトの目的は、「修学旅行生に勧めたい観光情報の紹介」、「修学旅行生の事前学習への活用と自由時間の使い方の参考にしてもらう」、「京都の観光施設を取材することにより学生自身が学ぶ」、ということです。

ただ、先輩が長年運営してきたホームページだけに新たな施設や店舗を発見するのは難しく、取材先の同意や約束を取り付けることにも苦労がありますが、メンバー間の情報共有に努力し、読まれる記事づくりへの工夫を重ねています。

京都では、特定の地域への観光客の偏在が問題となっているので、私たちはまだ周知されていない観光スポットを開拓し、「おいでやす京都」だからこそ見つけられる情報を意識的に紹介してきました。また、京都市という世界的に有名な観光地で情報を取捨選択することの難しさも学びました。

これからは、利用者のさらなる増加をめざし、利用者数の調査や学校訪問、SNSを活用した広報活動等に取り組みます。スマートフォン対応のサイトに改良したり、修学旅行生だけでなくすべての観光客に役立つサイトとして展開したいと考えています。

児童教育学科

「子どもと楽しむ『オペレッタ』公演」

私たちの学科で小学校教諭をめざしつつ幼稚園教諭の免許も取得したいと考える学生は、3回生で「保育内容演習（表現）」という全8回の授業を受けます。その受講者21名が2グループに分かれて、「ブレーメンの音楽隊」と「3匹の子ぶた」という子ども向けのオペレッタ創りに取り組み、児童館に集まった子どもたちの前で公演しました。

この取り組みの目的は、学校現場で活躍するために必要なスキル（表現する力、他人の表現を感じ取る力、指導する力）を身につけるとともに、見通しの立て方を学ぶ（そのため全員が演者と裏方の両方を担う）、子どもの反応を知る、地域児童との交流を深める、というものです。

子どもたちの反応は、「楽しかった。また、してほしい」「別の話も見たい」と好評で、私たちも劇に対する子どもたちの反応の大きさに驚き、舞台が盛り上がったときにあえて少し間を置くことの大切さに気づきました。実際に地域の子どものと関わると、私たち自身の学びも深まるということを実感した瞬間です。

多くの問題にも突き当たりました。まず、準備や練習時間の確保の難しさです。メンバーの予定が合わず苦労しましたが、SNSで進捗状況を共有しながら作業を分担しました。2つめは劇の内容に関する意見の相違です。既成のオペレッタ台本を改善する段階で意見の相違がありましたが、原作を読み直し、この作品を通して何を子どもたちに伝えたいのかという教材観について共通理解を持つことで、この問題を乗り越えました。

仕事量の多さについては、全員が演者・裏方・ピアノ伴奏を担うことがネックになっていたため、制作に関しては大道具・小道具・衣装に担当を分け、ピアノの不得意な学生のために楽譜を簡素化しました。事前に児童館を見学して、道具の配置や演技スペースを考えたうえで劇作をしたり、予算が限られているため道具類は廃材を利用したり、大学と児童館の距離を考えて折りたたみ運搬しやすい道具類にするなど、さまざまな工夫をこらして問題解決にあたりました。

この取り組み全体を通して得た気づきは、計画性や見通しを持って準備することの大切さと、全員が責任感と積極性を持って協力し合う大切さです。

表現については、役のイメージを持つことや観てくれる人を想像して劇を創ることの大切さに気づき、グループ活動においては、お互いに意見を出し合うなかで劇がよりよくなることや、全員が同じ目標に向かわないと成功しないということを理解しました。



救急救命学科

「広がれ救命の輪～一般市民に対するBLSの普及～」



私たちの学科では、地域のイベント（夏祭りや陶灯路等）で救護活動やBLSの普及を行うことを目的に、TURFというサークルをつくっています。BLS (basic life support) とは、一次救命処置のことで、一般市民が行える心肺蘇生法（胸骨圧迫・人工呼吸・AEDを用いた心肺蘇生法）を指します。

BLS普及の目的を大まかに言えば、心停止の予防と社会復帰率の向上です。消防庁のデータによれば、心臓が原因で心停止に陥った人を一般市民が目撃した場合、市民が心肺蘇生を行ったときの1カ月後の生存率は、そうでないときに比べて約1.8倍で、社会復帰率は約2.6倍ですから、一般市民がBLSを行うことの重要性はきわめて高いと考えられます。

普及内容は、胸骨圧迫、AEDによる心肺蘇生法、気道異物除去法、その他の応急処置（熱中症・てんかん・アナフィラキシーショックへの対応）で、本学近隣の幼稚園・学校の教諭への講習、地域防災会や幼稚園児・小中学生への講習のほか、京都駅でも一次救命処置の実演を行いました。学内では臨床検査学科1回生に講習をしましたが、他の学部・学科でも実施したいと考えています。

苦労した点は、心肺蘇生講習の親しみにくさと、資格を持たない私たち学生が学校教諭や子どもたちを教えていいのかという不安です。親しみにくさを解消するためには、専門用語を平易な言葉に言い換えたり、わかりやすいスライドを作成したり、講習時間を短くするように工夫しました。学校教諭や子どもたちに教えることへの不安は、教科書等から引用して基本を押さえることで乗り越えようと努めています。

近年、心肺蘇生への関心が高まり、講習の需要の増加も予想されます。私たちの活動が、地域の方々がBLSに関心を持つ初めの一歩になり、突然死を少しでも減らすきっかけになってほしいと思っています。

理学療法学科

「腰痛改善予防教室での学び」

日本の腰痛者数は約2800万人（5人に1人）と言われ、労働災害に関連する腰痛は1人あたり約50万円の医療費がかかり、高齢者の腰痛の原因となる圧迫骨折は年間1089億円の疾病負担額というように、経済にも大きな影響を与えています。

そこで私たちは、腰痛改善予防教室の開催に取り組みました。対象は山科地域在住の腰痛を持っている人、または過去に持っていた人です。

高齢者は、腰痛を体験することによって不安や恐怖を感じ、うつ状態や睡眠障害を起こしやすくなります。そこから不動や身体機能の低下等の負の循環が生まれ、ロコモティブシンドローム（筋肉の

障害）により要介護になるリスクが高まる可能性もあります。痛みが続くことによって、身体の痛みだけでなく、メンタル面に及ぼす影響が大きくなるのです。

腰痛改善予防教室では、高齢者と学生がペアになって体力測定を行い、楽しく測定できるように工夫しましたが、これは学生にとってはコミュニケーションの練習にもなります。

また、高齢者に日誌を渡し、毎日の歩数や活動内容を記録してもらい、学生はそれをもとに積極的に質問を投げかけて、高齢者が過去を振り返りやすくなるよう心がけました。

腰痛体操は、腰をそらして手足を伸ばす、いわゆる「バンザイ体操」をします。これは、腰をそらしても大丈夫だと思うことで恐怖心を減少させる介入法です。それによって腰痛に対する恐怖や不安を減らし、うつ状態や睡眠障害や身体機能の低下を減らして負の循環を改善でき、最終的に痛みの軽減とロコモティブシンドロームの予防という目標を達成できたのではないかと考えています。

参加された高齢者の方からも、「痛みが続いて落ち込んでいたが、気分転換して元気になった」「不安にとらわれず次の目標に立ち向かう気持ちになれた」「受けた後は腰痛が軽減した。たいへん喜ばしい」というように、マイナス思考からプラス思考に変わったというコメントをいただいています。

学生にとっても、腰痛のある人の実体験や困りごとを聴く機会を得たことは貴重な経験となりました。学生が高齢者の前で行う1分間スピーチは人前で発言する練習にもなり、体力測定は難解な項目をわかりやすく説明する経験になりました。高齢者のささいな動作から転倒等のリスクを事前に把握する重要性にも気づきました。

これからは今回参加された高齢者が、まだ参加されていない高齢者に教室で得た知識を教えるような取り組みができればと思っています。また、学生が今回学んだ疼痛管理の実践方法は、病院で動く際にも活かしたいと思います。そして、後輩たちも教室を引き継ぎ、さまざまな経験や実践を通じて学んでくれたらと願っています。



■表彰結果

□学長賞（1チーム）

◎児童教育学科「子どもと楽しむ『オペレッタ』公演」

□副学長賞（2チーム）

◎日本語日本文学科書道コース「教えて！書道コースの世界」

◎救急救命学科「広がれ救命の輪～一般市民に対するBLSの普及～」

□プレゼンテーション賞（1チーム）

◎都市環境デザイン学科「『修学旅行プロジェクト』の活動について」

■ 2019 年度

京都橘大学「地域連携型教育プログラム」 この1年の歩み

2019 年	4 月	徳島県と就職支援で連携 (4/1)
		京都市営地下鉄・柳辻 (なぎつじ) 駅の「KYOTO 駅ナカアートプロジェクト」に都市環境デザイン学科の河野ゼミの作品を展示 (4/2 ~ 5/31)
		看護学科教員と学生が老人保健施設いわやの里で「いちごカフェ」開催 (4/22)
		児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊が草津宿場まつりでの「草津市 de 愛ひろば」に参加し、子ども向け企画を実施 (4/28)
		児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊が本願寺山科別院での「こどもフェスタ」に参加し、子ども向け企画を実施 (4/28)
	5 月	公認学生団体「たちらボたち」による母の日企画「お母さんにプレゼントをつくろう！」をたちらボ山科で実施 (5/12)
		石田小学校にて児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊がやんちゃワールドを開催 (5/18)
		児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊が学内で近隣の児童向けに昔遊びイベントを開催 (5/26)
		看護学科教員と学生が老人保健施設いわやの里で「いちごカフェ」開催 (5/27)
		作業療法学科主催「ものづくり教室」が本学啓成館で開催 (5/31)
	6 月	看護学科の学生による「看護学部お助け隊」の活動を醍醐中山団地にて開催 (6/1)
		本学総合研究センター レジリエンス・プロジェクトのひとつである助産師や臨床心理士の教員を中心とした「子育てカフェ“ふらり”」をたちらボ山科で実施 (6/9・23)
		看護学科の学生が本学の中央体育館にて山科老人クラブ連合会と共催した体力測定会を実施 (6/22)
		現代ビジネス学部経営学科竹内ゼミ 1 回生が福井県立三方青年の家で観光についての発表 (6/22)
		経営学科の高山ゼミ 3 回生が京都経済センターの KOIN(Kyoto open innovation Network) でゼミ発表 (6/26)
		作業療法学科主催「ものづくり教室」が本学啓成館で開催 (6/28)
	7 月	救急救命研究会 TURF が本学開催の「七夕陶灯路 2019」に救護活動で参加 (7/5)
		児童教育学科の教員と学生がたちばな大路こども園で「音楽のアウトリーチ活動」を実施 (7/13)
		本学総合研究センター レジリエンス・プロジェクトのひとつである助産師や臨床心理士の教員を中心とした「子育てカフェ“ふらり”」をたちらボ山科で実施 (7/14・28)
		看護学科の学生による「出張!! たちばな健康相談 in 醍醐中山団地」を開催 (7/20)
		救急救命学科の学生が稲盛記念会館での第 51 回医学教育学会大会でのポスターセッションで参加 (7/26・27)
		心理学科教員と学生による「しゅくだいかたづけ隊! 参上」が山科青少年活動センター (7/30)、京都橘大学優心館 (7/30・31) にて開催
		作業療法学科主催「ものづくり教室」が本学啓成館で開催 (7/31)
	8 月	看護学科の教員と学生による「山科こころのふれあい祭り」がアスニー山科で開催 (8/1)
		心理学科教員と学生による「しゅくだいかたづけ隊! 参上」が山科青少年活動センター (8/20)、京都橘大学優心館 (8/1・20・22) にて開催
		本学総合研究センター レジリエンス・プロジェクトのひとつである助産師や臨床心理士の教員を中心とした「子育てカフェ“ふらり”」をたちらボ山科で実施 (8/4・25)
		福井県と就職支援に関する協定を締結 (8/9)
滋賀県埋蔵文化財センターでインターンシップに参加している本学学生が展示の解説 (8/12)		
ひらめき☆ときめきサイエンス (高校生向け 1 日体験イベント「バクテリア・バスターズ!」) にて臨床検査学科学生が運営サポートを行う (8/16)		

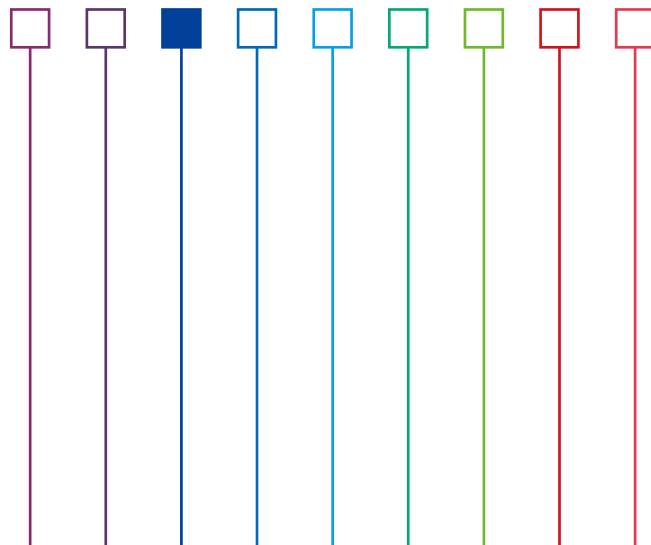
8月	都市環境デザイン学科の北村義典教授のゼミ生4人がフランスのガーデンデザインの国際コンペティションで入賞 (8/24)
9月	公認学生団体「たちラボたち」による「山科“きずな”支援事業補助対象事業」である「ものづくりワークショップ」が山科区の陵ヶ岡小学校で開催 (9/7)
	本学総合研究センター レジリエンス・プロジェクトのひとつである助産師や臨床心理士の教員を中心とした「子育てカフェ“ふらり”」をたちラボ山科で実施 (9/8・22)
	看護学科教員と学生が老人保健施設いわやの里で「いちごカフェ」開催 (9/19)
	京都市東部文化会館にて児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊が山科区保育園まつりに参加 (9/21)
	理学療法学科学生による「みんないきいき健康教室」を醍醐中山団地で開催 (9/28)
	勤修小学校にて児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊が「勤修ふれあいの集い」を開催 (9/29)
10月	本学総合研究センター レジリエンス・プロジェクトのひとつである助産師や臨床心理士の教員を中心とした「子育てカフェ“ふらり”」をたちラボ山科で実施 (10/6・20)
	京都橘大学社会人講座「ビジネスで活かせる心理学講座」を京都経済センターで開催・講師は心理学科准教授田中芳幸氏 (10/11)
	公認学生団体「たちラボたち」による「山科“きずな”支援事業補助対象事業」である「ものづくりワークショップ」を山科区の陵ヶ岡小学校で開催 (10/19)
	看護学科の学生による「第15回たちばな健康相談」本学で開催 (10/20)
	国際英語学科学生が「英会話教室」を山科警察署にて開催 (10/21)
	総合研究センターレジリエンス・シンポジウムによる「京都が京都であり続ける社会の創造にむけて」をキャンパスプラザ京都で開催・講師は藤井聡氏 (10/26)
都市環境デザイン学科・まちづくり研究会の学生によるクリーンキャンペーンを醍醐中山団地で開催 (10/26)	
11月	現代ビジネス学部・まちづくり研究会の学生主催の「醍醐中山団地陶灯路」を開催 (11/2)
	日本語日本文学科書道コースの学生と吹奏楽部の学生が「醍醐中山団地陶灯路」実施時にパフォーマンスを行う (11/2)
	公認学生団体「たちラボたち」による「山科“きずな”支援事業補助対象事業」である「ものづくりワークショップ」を山科区の陵ヶ岡小学校で開催 (11/2)
	本学サッカー部・その他学生が「イオンタウン山科樹辻」の植樹祭に参加 (11/2)
	本学吹奏楽部の学生が特別養護老人ホームヴィラ山科で依頼演奏を行う (11/3)
	本学和太鼓部の学生が伏見桃山城跡地(城外)の伏見お城まつり2019で演奏を行う (11/3)
	日本語日本文学科書道コースの学生主催の「書道教室 OSJ 橘」をたちラボ山科で開催 (11/6・20)
	京都橘大学社会人講座「ビジネスで活かせる心理学講座」を京都経済センターで開催・講師は心理学科准教授前田洋光氏 (11/7)
	本学総合研究センター レジリエンス・プロジェクトのひとつである助産師や臨床心理士の教員を中心とした「子育てカフェ“ふらり”」をたちラボ山科で実施 (11/10・24)
	看護学科の学生による「買い物ボランティア」を同和園にて実施 (11/11・27)
	第13回橘セッション「学まち AWARD2019」を開催 (11/13) (全学科から学生による地域での学びを発表)
	心理学科の学生が草津駅前「マーケティング調査演習」の授業の一環で消費者調査を行う (11/16)
	救急救命研究会が大宅小学校で大宅学区防災訓練のスタッフ協力を行う (11/17)
	看護学科有志学生が就学児前検診を勤修寺小学校で実施 (11/21)
	放送研究部の学生が山科中央公園で山科区民祭りに参加 (11/23)
	本学総合研究センター レジリエンス・プロジェクトのひとつである助産師や臨床心理士の教員を中心とした「子育てカフェ“ふらり”」の講演会「子どもの心を強くする親の習慣～やがてくる思春期にむけて～」開催・講師は土井高德氏 (11/23)
	心理学科学生による「こころなごみカフェ」を醍醐中山団地で開催 (11/23)
救急救命学科による「爽快健康ウォーク2019」を開催 (11/30)	
作業療法学科主催「ものづくり教室」を本学啓成館で開催 (11/30)	

	11月	理学療法学科学生による「みんないきいき健康教室」を醍醐中山団地で開催（11/30）
	12月	公認学生団体「たちラボたち」が「2019年度大学地域連携サミット（キャンパスプラザ京都）」でポスターセッションに参加（12/1）
		国際英語学科学生が「英会話教室」を山科警察署にて開催（12/2・9・16・23）
		都市環境デザイン学科の木下達文教授のゼミ生が「バウムクーヘン」を開発（12/3）
		防災サークルの学生が京都刑務所で緊急避難所訓練へ参加（12/6）
		本学吹奏楽部の学生がイオンタウン山科柳辻のオープニングセレモニーでの演奏を行う（12/6）
		公認学生団体「たちラボたち」による「山科“きずな”支援事業補助対象事業」である「ものづくりワークショップ」を山科区の陵ヶ岡小学校で開催（12/7）
		看護学科の学生による「看護学部お助け隊」の活動を醍醐中山団地にて開催（12/7）
		日本語日本文学科書道コースの学生主催の「書道教室 OSJ 橋」をたちラボ山科で開催（12/11・25・27）
		看護学科の学生による「買い物ボランティア」を同和園にて実施（12/11）
		医療・福祉研究会の学生が笑顔とふれあいの家みささぎでボランティアを行う（12/16）
		都市環境デザイン学科・まちづくり研究会主催の「クリスマス会」を醍醐中山団地で開催（12/21）
		児童教育学科の教員・学生による音楽の「アウトリーチ活動」を西野小学校にて実施（12/21）
2020年	1月	イオンタウン山科柳辻で看護学部の教員と学生が「出張!! たちばな健康相談 in イオンタウン山科柳辻」を開催（1/7）
		書道コース在籍生と卒業生7人が「改組 新 第6回日展」（公益社団法人日展主催）で入選（1/8）
		日本語日本文学学科書道コースの学生主催の「書道教室 OSJ 橋」をたちラボ山科で開催（1/8・22）
		現代ビジネス学部経営学科の今井ゼミとその学生が観光地とは異なる京都の魅力を発信する冊子「野菜で味わう"京都"」を発刊（1/10）
		心理学科学生による「こころなごみカフェ」を醍醐中山団地で開催（1/11）
		山科団地にて作業療法学科の教員と学生による健康イベントを開催（1/17）
		本学総合研究センター レジリエンス・プロジェクトのひとつである助産師や臨床心理士の教員を中心とした「子育てカフェ“ふらり”」をたちラボ山科で実施（1/26）
	2月	看護異文化交流・社会連携推進センターによる健康イベント「たちばな健康相談 in 醍醐中山団地」を開催（2/1）
		本学学生自治会、京炎そでふれ！部、和太鼓部、箏曲部が東部文化会館で行われた「山科夢舞台」に出演（2/2）
		本学総合研究センター レジリエンス・プロジェクトのひとつである助産師や臨床心理士の教員を中心とした「子育てカフェ“ふらり”」をたちラボ山科で実施（2/9・16）
		日本語日本文学学科書道コースの学生主催の「書道教室 OSJ 橋」がイオンタウン山科柳辻で書道作品展示（2/9～2/29）
		日本語日本文学学科書道コースの学生主催の「書道教室 OSJ 橋」をたちラボ山科で開催（2/12・26）
		心理学科学生による「こころなごみカフェ」を醍醐中山団地で開催（2/15）
		看護学科教員と学生が老人保健施設いわやの里で「いちごカフェ」開催（2/17）
		本学有志学生が醍醐寺での行事「五大力尊仁王会（通称：五大力さん）」において、特定非営利活動法人「まなあそび」によるおもてなし活動をサポート（2/23）
	3月	作業療法学科主催「ものづくり教室」が本学啓成館で開催（3/6）
		本学総合研究センター レジリエンス・プロジェクトのひとつである助産師や臨床心理士の教員を中心とした「子育てカフェ“ふらり”」をたちラボ山科で実施（3/8・22）
		日本語日本文学学科書道コースの学生主催の「書道教室 OSJ 橋」をたちラボ山科で開催（3/11・3/25）
		看護学科教員と学生が本学で「いちごカフェ」開催（3/24）

※ 3月開催予定の取り組みは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

Ⅲ

「学まち連携大学」 促進事業の実績



■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

高齢者と児童の世代間交流企画

たちラボたちによる「世代間の交流を深めるものづくりワークショップ」開催

地域連携センター公認学生団体「たちラボたち」+子どもたち+お年寄り

「たちラボたち」とは

地域連携センター公認学生団体「たちラボたち」は、山科区内での地域連携活動に関心を持つさまざまな学部学科から集まった学生による団体です。活動3年目となる今年も数々の地域連携活動を展開しましたが、最も大きな企画として、9月から12月にかけて「世代間の交流を深めるものづくりワークショップ」を開催しました。

ワークショップの概要

このワークショップは、昨年度に引き続き地域に住むお年寄りと子どもたちの交流を目的としたもので、今回は本学が所在する山科区内の陵ヶ岡学区において、陵ヶ岡小学校・陵ヶ岡学区自治連合会のご協力をいただき開催することができました。9月から12月の毎月1回、陵ヶ岡小学校を会場に、サンキャッチャーやステンドグラス風かざり額などを制作し、のべ154名のお年寄りと子どもたちに参加いただきました。学生たちは世代間の橋渡し役となり、子どもたちとお年寄りの交流をサポートしました。また今回は、同じ山科区に所在する京都薬科大学の学生さんにも協力いただき、2大学協同による地域連携を実現することができました。

なおこの取組は、山科区の「山科“きずな”支援事業」に採択いただき実施しました。

ワークショップの収穫

昨年度の企画で学んだことを活かし、ものづくりに入る前で世代間がコミュニケーションできるようなゲームを取り入れたり、お年寄りと子どもたちのニーズの違いに配慮して休憩スペースやあそびスペースを設けたりと、楽しんでもらうためにさまざまな工夫を取り入れました。その成果として、実施後のアンケートでは、「とても楽しかった」と「楽しかった」の合計が100%となり、みなさんに楽しんでいただくことができました。

メンバーにとっては、計画→実行→修正のサイクルを実際に経験できたこと、そして地域のみなさんの生の声を聞きさまざまな地域課題を直接感じられたことは大きな経験になりました。また、打合せではそれほど主体的でなかったメンバーもお年寄りや子どもたちを前にするといきいきと積極的になり、あらためて教育の場としての地域の力を再確認できました。

今回の企画を通して得た、関係機関の方々とのつながりや運営ノウハウを、上回生から下回生へ引継ぎ、次年度以降も継続していきたいと考えています。



ものづくりに入る前の交流ゲーム



おしゃべりしながらものづくりに取り組む参加者



参加者募集チラシ

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

観光地とは異なる京都の魅力発信

小冊子「野菜で味わう“京都”」の制作

現代ビジネス学部経営学科 今井まりなゼミ

活動の概要と取り組みの経緯

今井ゼミ 3 回生の 16 名は、京都を訪れる観光客に、観光地とは違った京都の魅力を発信することを目的に小冊子「野菜で味わう“京都”」を制作、配布しました。この小冊子は、京都市内にある、小規模ではあるものの長年地域の人々に愛されてきた八百屋や、農法や産地にこだわった個性的な八百屋を調査の対象とし、そこで取り扱っている野菜やお店のこだわりを紹介する小冊子を制作し配布することで、八百屋に行くことが京都を訪問する目的の一つになればと取り組みました。

活動内容

以下の順序でリーフレットの制作、配布を行いました。

1. 小冊子のコンセプト、掲載内容、ターゲットの決定（観光客）
2. 八百屋へのフィールドワークとインタビュー調査
3. 調査に基づいて小冊子の制作
4. 配布場所、配布スケジュールの決定、小冊子の配布

活動の成果

今回のプロジェクトは、メンバーを現地調査チーム（ターゲット設定、関係者への取材交渉と取材、掲載内容の作成）、デザイン・チーム（デザインソフトの使用法の学習、小冊子のコンセプトや各ページの構成の決定、小冊子の作成、印刷会社との打ち合わせ）の 2 チームに分けて実施しました。各チームは、自チームの担当する役割に責任をもって取り組み、限られた時間の中で小冊子を完成させるという共通目標に向かって全員で作業を行いました。また、小冊子制作の最終段階では、追加調査や現地への確認などで現地調査班とデザイン班とが緊密に連携しながら作業を行い、小冊子を完成させました。完成した小冊子は、配布するとともに調査に協力いただいた店舗や、京都総合観光案内所にて配架しています。

メンバーは、プロジェクトを進めるにつれ、地域の課題やプロジェクトの意義への理解が深まり、プロジェクト活動をとおして自信をもって社会人の方々と接することができるようになっていきました。このプロジェクトを通じ、チームでの課題解決の経験、ならびに小冊子を制作する一連のプロセスを最後までやり抜いた経験が、メンバーにとってのなによりの財産となると考えています。



集合写真



小冊子・表紙

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

地域児童の生の反応を学生の気づきにつなげる

子どもと楽しむ「オペレッタ」公演

発達教育学部児童教育学科保育内容演習（表現） 学生

取り組みの概要

保育内容演習（表現）は児童教育学科の中で幼稚園教諭免許取得を目指す学生に必修の科目です。全 16 回から成るこの授業では、まず前半の 8 回で音楽・造形・身体表現など様々な体験を通して「表現とは何か？」を学び、後半の 8 回でそれらを総合的に活用する集大成として子ども向けのオペレッタ（音楽つきの劇）の実演に取り組みます。2019 年度の前期には受講生 21 名（児童コース 3 回生）が 2 つのグループに分かれ、『ブレーメンの音楽隊』（8/1、勸修児童館）、『三匹のこぶた』（8/2、大塚児童館）の 2 公演を行いました。

ねらい

1. 受講生たちが将来、教育現場で働く上で必要な「表現に対する技術（自分が何かを表現する力・人の表現を感じ取る力・その指導力など）」を身につけ、さらに 1 つの舞台を作る上での準備等を体験することで「見通しを持つ力」を養う。（そのために、参加者全員が演じる側と裏方スタッフの両方を必ず担当する。）
2. 子どもたちの生の反応を体感し、学生自身の気づきにつなげる。
3. 地域児童との交流を深める。

実際の公演と学生の気づき

まず準備段階で、練習などの時間の確保、劇内容に対しての学生同士の意見の相違、児童館での公演による空間的・予算的な制約など多くの問題が発生しました。これらについては、学生同士が授業の空き時間等を調整し、あるいは SNS を活用するなどして、お互いにコミュニケーションを取り合うことで一つずつ解決していきました。例えば、台本の分かりづらいところなどは、原作に立ち返り「この劇で何を子どもたちに伝えたいのか」という「教材観」を全員が共通理解として持つことで意見をまとめるなど、工夫を凝らしました。

児童館での本公演の前に、まず学内公演でお互いのグループの発表について意見交換をして、いざ子どもたちの前での本番を迎えました。子どもたちはとても集中して見てくれて「そこにオオカミがいる！」などと舞台上に声をかけたり、コミカルな演技に笑ったり、予想以上に盛り上げてくれます。そうすると、学生たちのテンションも上がり、自然にあふれる笑顔でアドリブを連発しての熱演で幕を閉じました。

学生の気づきとしては「計画性や見通しをもって準備することが大切」「全員が責任感と積極性をもって協力することが大事」などの準備に関するもののほかに、「役について自分自身でしっかりとしたイメージを持つことが大事」や「観客を想像して作ることが大切」などの表現に関する気づきが見られました。さらに、「遠慮せずにお互いに意見を言い合うことで劇がよかった」などの仲間意識の変化や、「一般就職でいいと思っていたが、子どもたちの笑顔に触れてもう一度教員を目指すことも考えてみようと思った」という意識の変化があった学生もあり、この取り組みにより、深い気づきが得られたと言えます。



『三匹のこぶた』の一場面「あ、オオカミがそこに！」



『ブレーメンの音楽隊』の一場面「ギャングを追い出せ！」

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

国宝二条城二の丸御殿、特別名勝二条城二之丸庭園他を対象とした活動（京都総合演習）

国宝二条城来訪者の動態調査2019

文学部京都総合演習学生×京都市元離宮二条城管理事務所

来訪者の動態調査から国宝の見せ方・見方の向上策を考える

元離宮二条城管理事務所では、近年、文化財の公開活用について、そのあり方を再検討するとともに説明板の再整備を行う等、公開活用のレベルを格段に向上させました。

しかし、同事務所の技術職員の方から「二条城来訪者が実際にどこに興味関心を持ち、どこで何分過ごし、どのような会話をしているか、その実態に関するデータがないため欲しい」との相談がありました。確かに、来訪者の動態を知るための、マンツーマンの観察調査は、その非効率性ゆえに、プロはとても行える調査ではありません。根気と辛抱を前提とし、そして、来訪者に圧迫感を与えないためには、学生が最も適任であるとの結論に達し、協働して取り組むことになりました。

行政支援のもと、学生たちが実施する調査

管理事務所の協力を得て、開場前に解説板等の所在確認の写真撮影を実施、そして、平面図を作成する等、授業で参観記録の作成フォーマットを準備しました。

調査内容については、管理事務所と協議の上、東大門から入って東大門に出るまでの実際にかかった時間、ルート、並びに各所の消費時間に関するデータを地図上に記録していくこととしました。調査は、2人一組となり、来訪者の動向を詳細に観察し、文化財の見学状況、そして、会話の内容まで観察記録をとることとしました。

取り組みの成果

ほとんどの学生は、見ず知らずの人をお願いをすることは初めての経験であり、来訪者の協力を得るまでに45分ほどかかったグループも見られました。また、他者が何をみて、どのように考えて行動するかを想像したこともなかったのか、当初戸惑いが見られました。そのため、最初の協力者を得るために、デモンストレーションから行う必要がありました。

しかし、調査期間中に、臆することなく見ず知らずの人をお願いを自発的に行うなど、見違えるような行動をとるようになりました。また、中には、来訪者（協力者）にかき氷をごちそうになった学生もあり、他者とのコミュニケーションの取り方、また、観察力も格段に向上しました。

なお、当初の想像通り、半日の調査で1グループあたり二組の調査が限界であり、分析を行えるまでの数量を積み上げるには、数年を要することになるでしょう。



身動きが取れない学生



依頼が不発となって落胆する学生



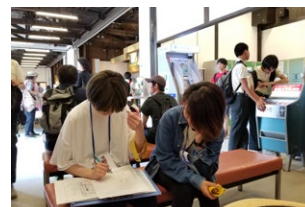
成功、嬉しそうに後をつく



余裕が出たか、写真撮影の協力



観察調査が終われば、アンケート



野帳の整理（野外調査の基本を学ぶ）

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

地元洋菓子店との共同研究プロジェクト

オリジナルバウムクーヘンの研究開発

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 木下達文ゼミ

プロジェクトの概要

京都橘大学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科の木下達文ゼミでは、座学と実践学とをバランス良く学習を行うこととしています。今回の共同研究プロジェクトのテーマは、いくつかの事業企画の中から大学生協に置くことのできる商品の研究開発とそのプロモーションを学ぶということに決定しました。地元の洋菓子店「NIJU-MARU KYOTO（ニジュウマル京都）」（京都市山科区）とコラボレーションし、味の組み合わせやパッケージデザイン、ネーミングなどを企画、提案することで、これまでにない形式かつ京都らしい商品を開発することができました。

プロジェクトの狙い

本共同研究プロジェクトの狙いは、企画から制作までの研究実践活動を通じて、とくに学生に必要な社会人基礎力を向上させるとともに、実社会で役立つ基本的なビジネスの知識やノウハウを体験的に学ぶことにあります。学生が自らテーマを決め実施する方法をとっており、ゼロベースから企画・研究・制作を行うことから「クリエイティブ・ラーニング」と称しています。また、最終的な成果は、一般でも通用するレベルのクオリティを目指しており、社会的な評価を得ることも目標としています。

プロジェクトの成果と実績

具体的には、「京都らしさ」と「贈り物」をコンセプトとして、商品の付加価値を高めるためのブランディングを試みました。贈り物として「人と人の和を結ぶ」という意味合いのある「バウムクーヘン」がモチーフとして選ばれ、協力頂いた店舗も学生が選出を行いました。

この商品には、普段なかなか感謝の気持ちを伝えられない人への贈り物にしてほしいとの想いが込められています。主たるターゲットとしては、大学生もしくは同年代の若者としていますが、それ以外のターゲットへも広げることを意識して研究開発をしました。京風・和風のバウムは、過去にお店側が一度断念したモチーフでしたが、学生の多様な提案とお店側の工夫により4種の展開が可能となりました。パッケージデザインやネーミングについてのアイデア提案も行いました。最終的に「ありがとうバウムパッケージ」として店舗と本学生協購買部で販売されました。完成発表会のプロモーションも学生が企画・運営を行い、多くのメディアに取り上げていただくこととなりました。



完成発表会の様子



プレゼンの様子



完成したバウムクーヘン



ゼミ生全員と教員の集合写真

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

救急救命学科主催イベント

爽快健康ウォーク 2019

健康科学部救急救命学科学生

概要

救急救命学科では、京都市「学まち連携大学」促進事業の一環として、昨年に引き続きウォーキングイベントを実施しました。これは安朱小学校（山科区）を出発し、毘沙門堂、三井寺を経由して大津駅前までの約7kmを地域住民の方々と共にウォーキングを行うというものです。スタート地点とゴール地点では、救急救命学科学生によるメディカルチェックが行われ、またウォーキング中は、学生が救護要員として同行することでイベントの安全管理に努めました。

目的

本イベントの主な目的は、地域住民の方々の健康増進および地域の魅力を再発見することです。合わせてイベントを通して学生が住民の方々と触れ合うことで、双方の結び付きを深め、また学生のコミュニケーション能力の向上につなげたいと考えました。

成果

当日は、若干の肌寒さはあったものの、時おり現れる暖かい陽ざしのもと、イベントを実施することができました。ウォーキング中は紅葉真っ盛りということもあり、地面に敷き詰められた紅葉など風情を感じる多くの情景を見ることもでき、参加者の目を楽しませていました。また参加者の多くは日常的に様々なウォーキングイベントに参加されているようでしたが、大学企画によるものはあまりないようで、ウォーキング中の学生との会話を非常に楽しんでおられました。

地域の魅力を再発見することにつなげるために、途中の三井寺にてご住職からのご高話の拝聴を企画しました。三井寺の歴史や特徴についてお話をいただき、その後に境内を拝観しました。日本三不動の一つである黄不動や三井の晩鐘で有名な三井寺ですが、参加者の中には初めて知ったという方々もおられ、そのような意味からも非常に有意義な企画となったと思います。

スタート地点とゴール地点では、学生によるメディカルチェックが行われました。普段から体調管理には気を遣われている方がほとんどでしたが、中には普段の血圧などを把握されていない方もおられ、このイベントが自身の健康を改めて見つめ直すきっかけになったのではないのでしょうか。また学生にとっても、バイタル測定などの実践を行えたり、参加者との会話を通してより良いコミュニケーションの取り方を考えることができたりと、普段の実習では得られないものを学ぶことができたと思います。

本イベントを通じて、地域住民の方々との結びつきを深めることができました。今後も救急救命学科の特色を活かし、様々な形で地域貢献を行っていきたいと思います。



学生によるバイタル測定



三井寺での集合写真

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

「こだわり市場」の新たな展開

こだわり市場冊子第7号の発刊と新たな展開

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科谷口知司ゼミ×
洛和会ヘルスケアシステム介護事業部

「こだわり市場」冊子の制作とその新たな展開

「こだわり市場」の活動は世界的な観光都市である京都にも、まだまだ知られていない名店がたくさんあり、それらを“こだわり”という観点から発掘し、広く紹介するという活動です。その活動の中核となる冊子制作については、毎年度一冊のペースで6冊発刊し、主に京都を訪れる観光客の皆さんに活用されてきました。また、昨年度からは、この「こだわり市場」の活動を地域の高齢者施設の入居者の皆さんの観光ツアーに適用するという、新たな展開を迎えています。

「こだわり市場」冊子の活用の場

「こだわり市場」冊子は、京都を訪れる観光客を主たるターゲットとして企画してきました。あまり知られていない名店を発掘し広く紹介するという基本的なスタンスは変わりませんが、昨年度からこれに加え新たな展開として、洛和会ヘルスケアシステムと協同で「こだわり市場」冊子を活用した施設高齢者向け観光ツアーを企画・実施しました。結果として「地域包括ケア」の理念に基づいた、地域連携事業として行われ、観光ツアーの企画・実施体験を通じて、高齢者と若年層の学生が交流を深めることで、高齢者は「生きがいづくり」の実感を得、学生は今後の超高齢社会での地域と高齢者との関わりを学びきっかけ作りを図ります。

第三回目施設高齢者向けツアーの実施と7冊目のこだわり市場冊子の制作

2018年度に実施された2回の施設高齢者向けツアーの実施に引き続き、その後も洛和会ヘルスケアシステム介護事業部、訪問施設、店舗などとの間で、さまざまな協議をし、その後、2019年10月26日（土）の高齢者疑似体験を経て、11月9日（土）に、宇治方面への第3回目のツアーを実施しました（<http://www.rakuwa.or.jp/kaigo/tourism/report3.html>）。当日の様子は、毎日放送（MBS テレビ）の夕方の情報番組「MINT」で大きく取り上げられました。

また、7冊目となる「こだわり市場」冊子を制作し、広く京都市内の観光案内所やホテルなどに配布し、京都を訪れる多くの観光客に利用されています。



こだわり市場冊子・表紙



カフェ紹介ページ

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

醍醐中山団地の住民を対象に

「看護お助け隊 in 醍醐中山団地」の活動

看護学部 2 回生・3 回生プライマリケア実習×醍醐中山団地町内連合会

活動の概要

看護学部の正課授業「プライマリケア実習」として行い、本学看護学部の学生が、京都市営醍醐中山団地の高齢者宅を訪問し、各戸から事前に聞き取った生活上の困りごとを住民と一緒に解決・支援するものです。

地域の住民も喜び学生の学びも得られる看護学実習の在り方

看護の対象となる人々の生活に視点をおくことは、看護を行う上で、非常に重要です。しかし、世代間交流が少ない近年の学生は、高齢者の生活をイメージすることが難しく、入院患者への援助を考える時の障害となっています。そこで、醍醐中山団地の住民の協力を得ながら、高齢者の生活を知る実習を計画し、6月1日（土）にプライマリケア実習Ⅱ（3回生）、12月7日（土）にプライマリケア実習Ⅰ（2回生）として実施しました。

醍醐中山団地は高齢化に伴い独居高齢者率も高く4階建ての団地にはエレベーターは設置されていないため、粗大ごみの搬出が容易ではありません。また部屋の模様替えや、風呂場や台所回りの掃除など、生活上の様々な困りごとがあると考えました。それらの困りごとに対して学生の力を活用し解決するとともに、日常生活の場を観ることができ、日々の生活の話聞かせてもらえるのではないかと考えました。

学生を受け入れてくださる住民にとっては、日々の生活上の困りごとが解決し、学生にとっては家庭に上がり日常生活を観させてもらえる貴重な学習となり、互いにメリットがあると考えました。

活動の成果

事前に棟長の方々を通じて実習協力者と作業内容を募り、その作業内容に合わせ学生配置と事前学習を実施しました。協力者は毎年30世帯弱で、1世帯に学生3～4名を配置し実施しました。学生は依頼された作業内容を糸口に健康・体力・普段の買い物や食事など生活の様々な話を聞くことができました。在宅医療が進むなか、退院を支援するための知識としてとても学びの多い実習となりました。学生が学びになったのはもちろんの事、普段若い人と話をする機会がなかった協力者にも、楽しい時間が過ごせたと喜んでいただきました。地域の住民も喜び、学生の学びも得られる持続性のある看護学実習の方向性が導き出せたと考えています。



4階からの粗大ごみの搬出



換気扇の掃除

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

近隣地域の河川における

水質調査と水質変動因子の解析を通じた学び

健康科学部臨床検査学科教員＋学生

概要

2019年度京都市「学まち連携大学」促進事業の一環として、京都橘大学近隣地域の河川における水質評価項目を化学的手法により解析しました。この取り組みによって、臨床検査学科の学生が、水質調査を通じて地域に貢献すると共に、化学に対する理解を深めました。

取り組みの経緯と狙い

医療現場では化学的な知識と技術に基づいた臨床検査法が多く採用されており、学生時代からこれらに慣れ親しむことは、将来、臨床検査技師として働く上で重要と考えます。そこで、この度の取り組みでは河川の水質を化学実験により解析することで、学生が楽しく能動的にそれらの知識と技術を学ぶことを目的としています。

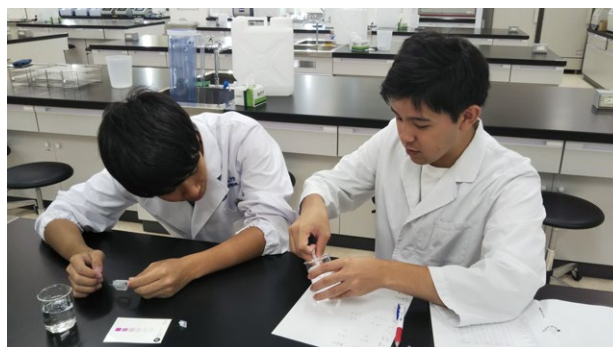
2019年度の教育的成果

2019年度は桂川、高瀬川、高野川、鴨川、琵琶湖疏水、山科川、宇治川、山科音羽川の8河川10ヶ所で四季（5、8、10、12月）ごとに採水を行いました。各季節における採水は、教員と学生で手分けして行いました（写真1）。その後、採取した水を大学に持ち帰り色度、溶存酸素（DO）、生物学的酸素要求量（BOD）、鉄イオン、6価クロム、硝酸イオン、一般細菌、大腸菌群といった項目を化学的手法により分析しました。まずは、教員が各実験の操作手順を学生に指導し、その後は学生が主体となり各種実験を行いました（写真2）。結果、上記河川には工場排水や生活排水に由来する汚染は殆ど無く、近隣河川の水質は概ね良好と考えられました。また、一般細菌や大腸菌群は多くの河川で夏季が増加傾向にあり、冬季は殆ど認められませんでした。一方、河川の水を培養した後、微生物が消費した酸素量の指標であるBODを測定したところ、夏季だけでなく冬季もその値が高い傾向にありました。以上のことから、これら河川の水において夏季に細菌が多いことは元より、冬季には水温が低いことで細菌の増殖が抑制されているに過ぎず、水温の上昇に伴い容易に細菌が繁殖する環境にあることが分かります。即ち、これら河川の水を飲用や生活用水として用いるのはどの時期にも避けた方が良いと結論付けました。

この経験を通じて学生が得られた知識と技術は、今後の大学生活における各授業や実習の際に必ず役立ちます。学生は自らの手で検体を採取し、正しい手法で実験を行い、得られた結果から考察することで、科学者として、また臨床検査技師としても必要な姿勢を学ぶことができました。



採水の様子



実験の様子

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

国際英語学部帰国生による

警察官に向けた英会話教室

国際英語学部学生

取り組みの概要

3年前、来日外国人の増加をふまえて、京都橘大学の国際英語学部を中心とした「包括協定」のもとで山科警察署から本学部に English for Special Purposes（専門性のある英語教育プログラム）の依頼がありました。2017年度の秋から警察教養課国際通訳センター作成の「おもてなし英会話教本」を教材にした本学の外国人講師2名を派遣し、全10回（50分/回）の講座を提供しました。対象は20～25名の現役の警察官で、遺失物、事故、盗難などに遭ったときのキーワードとそれに基づいた会話の説明と練習を行いました。2019年度からは、留学から戻ってきた8名の帰国生が講師を担当しています。

Win-winの狙い

「包括協定」の趣旨では次のように述べています。「京都市は（省略）国際化する社会における「京都の魅力の向上と発信」に取り組んでいる。また、2020年の東京オリンピック開催に向け、外国人の受入体制の強化にも努めている。そういった中で、本学に国際英語学部が開設されたことを受け、山科警察署から連携の可能性について打診があった。」よって、現場で警官に求められる実践的な英語力のニーズに対して、学部の社会貢献の一環として講座を提供し、参加者の英語に対する苦手意識をなくし、英会話力を向上させるのを目標にしています。一方、将来、教育職に就きたい学生もしくは留学によって英語力を飛躍的に向上させた帰国生に「実践の場」を設けることで、ボランティアとしての充実感と英語に対するプロ意識を育てる目標を持っています。このように、今回の取り組みは、COC（Center of Community）の基本的な発想でもある「相乗効果」win-winの関係を築くことができていると考えています。

取り組みの成果

今までの成果としては、派遣された教員2名と帰国生8名全員が山科警察署から感謝状を贈呈され、珍しい事業としてメディアにも取り上げていただきました。3年間でおおよそ50名の警察官がこの講座を受講し、双方にとって実りの多い取り組みとすることや、お互いに好意的な関係を築くことができました。今後も継続的に開講し、教材の見直し、春季プログラムの開講、教材の録音なども検討されています。

今年度に参加した学生のアンケートでは、次のような意見やコメントがありました。

- * 「毎回思った以上に進み、用意したメニューでは足りなかった」
- * 「英語に苦手意識を持った方も多くおられた」
- * 「後輩にこの活動を勧めたいです」
- * 「今年度の教材の表現をもう少し簡単にすれば、さらに良くなると思います」など。

今後はこういった学びや反省を活かし、このプログラムの改善と発展をはかりたいと思っています。



英会話教室の様子



感謝状

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

醍醐地区の高齢者を対象に

みんないきいき健康教室

健康科学部理学療法学科学生×醍醐中山団地

健康体操～幸せに歳をとりましょう～

「みんないきいき健康教室」は、昨年度の「みんないきいき幸齢教室」から名称を変更して開催しました。本活動の目的は、健康寿命（健康状態に問題がなく自立して暮らすことができる期間）の延伸に寄与することです。活動の特徴は、学生が主体となり、すべての運営を学生自身が行っていることです。そのため、学生自身の行動する力、考える力を大きく養うことができる活動といえます。

今年度の「みんないきいき健康教室」は2回開催し、第一回は学生9名と高齢者10名、第二回は学生2名、高齢者10名が参加しました。実施内容はストレッチ、筋力アップエクササイズ、脳トレ体操などのレクリエーションを行いました。

学生は開始時こそ緊張していましたが、参加者とのコミュニケーションを楽しみながら活動を行っていました。学生たちは、「声を大きくハッキリと話すこと」、「目線の高さを合わせること」、「笑顔で話すこと」などを心げながら会話していました。これは、病院などで働く際にも大切なことです。また、参加者と会話するなかで、実際の生活や生活上の問題点についても聴き取ることができました。

第一回目は、9月に開催したということもあり、熱中症のリスクについて十分に管理しながら体操を行っていました。高齢者の身体的な特徴のひとつである“喉の乾きにくさ”に注意し、学生から参加者に水分補給をするように促していました。普段の講義で学んだことを実際に活かすことができ、参加した学生は大きな経験を積むことができていました。

学年の枠を越えた取り組み

「みんないきいき健康教室」は、理学療法学科の先輩と後輩が一緒に取り組むことのできる交流の場となっています。企画会議では、学年の枠にとらわれず意見を出し合い、全員でより良い活動になるように、何度も話し合いました。このような活動によって、下級生は今後の学習や実習に活かせる経験を積むことができ、また上級生にとっては、下級生の模範となる責任感をもった行動や振る舞いができるようになりました。



ストレッチの様子



脳トレ体操の様子

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

新しいイベントを創造する

醍醐中山団地陶灯路

まちづくり研究会×醍醐中山団地町内連合会

イベントを進化させる

2019年の開催で灯りイベント「醍醐中山団地陶灯路（とうとうろ）」は、第3回を迎えました。「秋彩（あきいろ）」をテーマに醍醐中山公園を中心に醍醐中山団地内4箇所で開催し、秋をイメージしたイチョウの葉などがデザインされました。本学まちづくり研究会所属の現代ビジネス学部学生と醍醐中山団地住民約30名が協力し、企画・運営を行いました。

当日は約3500個の清水焼陶器を使用し、幻想的な空間となりました。また、醍醐中山公園内では本学吹奏楽部による演奏および中山保育園の先生方による和太鼓の演奏、本学文学部日本語日本文学科書道コースの有志による書道パフォーマンスが行われるなど過去最大規模のものとなりました。

陶灯路を軸に住民の交流を活性化

今年度は本イベントを軸に京都市と大学コンソーシアム京都による「大学地域連携創造・支援事業（愛称：学まちコラボ事業）」の採択を受け、清水焼ワークショップ、醍醐中山団地大掃除大作戦、クリスマスマーケットを開催しました。清水焼ワークショップにおいては、清水焼団地協同組合の指導を受け、学生が事前に作成した様々な箸置きに地域住民が絵付けを行うなど、京都の伝統工芸品である京焼・清水焼に親しむ機会を設けました。クリスマスマーケットにおいては地域住民が清水焼でつくられたタイルに絵付けを行ったほか、フリーマーケットを実施しました。醍醐中山団地大掃除大作戦以外のイベントには老若男女問わず100名を超す地域住民が参加し、積極的な世代間交流が行われました。

醍醐中山団地を象徴するイベントへ

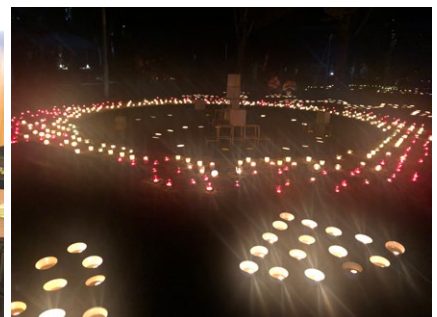
これまで本学では5年間にわたり、地域活性化に寄与する取り組みを行ってきましたが、本イベントにおいては今年度も準備段階から本学学生と地域住民による協働の運営が行われるなど醍醐中山団地での地域連携活動を象徴する取り組みへと少しずつ成長してきました。600人を超える参加者の地域住民からも次年度もぜひ実施して欲しいという要望が多数あります。地域住民の世代間交流のきっかけおよび京都の文化に触れる機会としての評価もあり、今後も継続のための枠組みを検討していく予定です。



タイル絵付け風景



まちづくり研究会と住民の集合写真



醍醐中山団地陶灯路

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

地域住民の方々の健康づくりに

たちばな健康相談

看護異文化交流・社会連携推進センター：健康支援事業

地域住民の方々の健康の保持・増進を目指して

京都橘大学看護異文化交流・社会連携推進センターの健康支援事業では、『地域住民のニーズにもとづいた健康相談や生涯学習などの活動を通じて、その方々の健康を支援する』という目標のもと、様々な活動を行っています。活動の1つに、大学で実施する『たちばな健康相談』と地域に出向いて行う『出張たちばな健康相談』があります。

第15回たちばな健康相談

たちばな健康相談は、看護学部の教員と学生ボランティアが協力しながら実施しています。大学祭の1つのイベントとして、身体計測（身長、体重、腹囲、体脂肪率）、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定、脳年齢測定、ストレスチェック、塩分チェック、健康相談などを行いました。約300名近くの方々が参加され、健康について見つめ直していただく機会となりました。

出張たちばな健康相談

地域に出向いて実施している出張たちばな健康相談は、伏見区醍醐地区の醍醐中山団地の集会所で、夏と冬の年に2回実施しており、近年はリピーターの方々に加えて、初めて来られる方もおり、地域で気軽に健康チェックや相談ができる機会になりつつあると感じています。

地域住民の健康意識向上と住民との関わりからの学生の学び

『たちばな健康相談』、『出張たちばな健康相談』ともに、参加者にとって健康を振り返る機会となっており、この相談会から健康的な地域づくりのきっかけになればと願っています。今後も住民の方々に親しまれる相談会を実施していきたいと思えます。

またこの「健康相談」には、多くの看護学生がボランティアとして参加しています。参加しているボランティア学生にとっては、地域という実践の場で学ぶ大切な機会となっています。たちばな健康相談には、様々な年代の方が来られ、その方々と関わり、声をかけながら、発達段階に応じた対応を学習する場となっています。また、地域の方々への話し方、対応の仕方を含めて、失礼のない態度も学ぶことができます。さらに学生同士が協力し合って、健康相談が滞りなく進むように配慮や工夫をすることにより、協働することを学んでいます。加えて先輩が後輩に教えたり、後輩が先輩に質問したりなど、他学年との交流から学び合う機会にもなっています。

今後も地域住民の健康支援を通じた地域の活性化と、学生の学びにつながる事業を目指したいと思えます。



受付をする学生



ストレスチェック



脳年齢診断

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

おもしろい、しっかり学べる、字がうまくなる

地域の小学生に向けた書道教室 OSJ 橘

文学部日本語日本文学科書道コース学生

書道の良さを地域の子どもたちに伝えたい

なぜ、書の道を志したのか？この企画を考えた書道コースの学生たちは振り返ります。そのきっかけを考えてみると、その多くは小さなときの書道書写の体験がスタートになっています。お習字教室で褒めてもらって書道が好きになったり、小学校の教室に貼られた自分の作品が誇らしく感じたり。こんな小さな体験が進路を決めることになるとは思っていませんでした。京都橘大学の書道コースにたくさん集まっています。そのような素敵な体験を是非とも地域の子供たちにも味わってほしいと盛り上がり、書道コースの有志が地域の子供たちに向けて書道教室を開講することになりました。

「OSJ 橘」 発足

教員を目指す学生を中心として、細かに工夫して企画を練りました。出来ることなら一回で終わらず継続的に学んでほしいと考え、毎月第2第4水曜日に開講することとしました。また、気軽に通ってもらえるように用具用材はこちらで準備し、実費のみの教材費 500 円で受講できるようにしました。従来のお習字教室の指導法に留まらず、できるだけ学校教育に即した書写の内容で行い、硬筆の指導など、実体験から必要と考える要素を組み入れたオリジナルの稽古内容で臨むことになりました。

場所は、たちらボ山科をお稽古場として受講者を募りました。地域の小学校に出向き告知プリントを配ってもらったり、駅前ではピラを配ったりと生徒募集を行いました。

OSJ 橘の活動を開始して

受講者もだんだん増え、回を重ねるうちに受講者や保護者から鉛筆書きや小筆の書き方、書き初め、宿題指導の希望など、様々な要望が出てきました。また、小学校から通う際の安全についてなど、多くの課題が出てきましたが、そのつど皆で相談し解決しながら開講しています。

このような経験は、将来の目標である教員になった際にも必ず生きてくるものだと思います。この活動を知った後輩たちも仲間に入って、年度を越えて継続的に開講していただける見通しがつかしました。

OSJ は「おもしろい、しっかり学べる、字がうまくなる」の略。

今を生きる学生が、その経験を生かして地域の文化貢献の一助となる活動であり、より大きく発展していくことを願っています。



チラシ



チラシ配付



書初め練習風景



メンバー集合写真



硬筆学習

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

子どもと保護者の「育ち」をサポートする

パパとママのこころ育て広場

心理臨床センター

事業の概要

本事業は、主に乳幼児の子育てに関して、保護者に情報共有や相談の場を提供し、子どもには濃密なかかわりを伴う活動を提供することにより情緒面や社会性等の発達を促すべく、京都橘大学心理臨床センターが、年間8回開催しているものです。今年で7年目（うち3年間は山科“きずな”支援事業）を迎えました。当センターのプレイルーム、グループカウンセリング室を使用し、対象は小学校入学前の乳幼児とその両親で、定員は10家族としています。スタッフは、保育士、臨床心理士である本学心理学科教員、心理臨床センター相談員、本学大学院健康科学研究科臨床心理学コースの大学院生、本学健康科学部心理学科学生で、大学院生は「臨床心理学実習Ⅱ」の授業の一環として、学部生は心理学学生学会の活動の一環として参加しています。

今年度は2019年6月8日・7月13日・8月31日・9月21日・10月26日・11月9日・12月14日・2020年1月25日（いずれも土曜日）10:30～12:30に実施しました。毎回の流れは、親子合同の設定遊び→親子別々の時間（保護者：グループワーク、子ども：自由遊び）→再び親子合同の設定遊び、としています。

事業のねらいと対応

親子合同の設定遊びには、絵本の読み聞かせ、パネルシアター、手遊びやリズム遊びなどを組み合わせており、親子が触れ合い交流できる内容が盛り込まれています。保護者のグループワークは、ファシリテーターとして臨床心理士が入り、保護者同士が自由な雰囲気でも語り合いながら、子育て中の気持ちについて共有することができるよう配慮し、お互いを助け合う自助グループの機能を持たせるようにするとともに、必要に応じて助言も行っています。子どもの自由遊びには、院生または学部生が1対1でかかわり、濃密なかかわりの中から、子どもの情緒面に働きかけるプレイセラピー的な効果もねらっています。

終了後のカンファレンスでは、大学院生と学部生から、子どもの様子や、どのようにかかわったかの報告がなされ、その内容と他のスタッフからの情報（観察の結果、保護者からの話）を総合して、それぞれの子どもの見立てを行い、子ども自身や保護者に今後どのような働きかけが必要か等を議論しています。

事業の成果

現在は、山科保健センターの三歳児健診の事後フォローとしての役割も担うようになり、そちらからの紹介で参加に至るケースも多くあります。三歳児健診で精密検査へ回ったケースでは、京都市児童福祉センターとの連携も生まれており、子どもの発達の支援、並びに子どもの発達に不安を抱える保護者の支援ができるようになってきました。参加者の中から、心理臨床センターの個別対応ケースも出るなど、地域の子育て支援の一翼を担う事業として定着しつつあるといえます。



親子で一緒に楽しんでいます

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

“楽しい”“うれしい”が健康につながる

ものづくり教室

健康科学部作業療法学科教員＋学生

「作業」をとおして生き生きしたライフスタイルを

その人にとって意味のある作業は、その人を健康に、幸福にしてくれます。作業療法学科では学科の特性を生かし、高齢者を対象として作業（ものづくり）を通じて仲間づくりや活力づくりに貢献するヘルスプロモーション・プログラムを実施しています。“楽しさ”や“達成感”という「ものづくり」の特性を利用して高齢者の方々が、自分自身で主体的に自分の健康を管理し改善していくことができるようになることを目標としています。このプログラムは2018年から始まり、月1回程度、本学にて行われ、希望する学生と一緒に参加しています。2019年度はタイルモザイク、革細工、アロマワックスサシェ、アロマストーン、手漉き葉書、クリスマスリース、銅板レリーフを作りました。

PDCA サイクルで脳を刺激

ものづくり教室では、何を作るのかは参加する高齢者に決めてもらいますが、同じものを2回作ることにしています。それは今回うまくいかなかったところを振り返り、次回はもっといいものを作ろうとするからです。この教室の特徴はPDCAサイクルを取り入れているところです。PDCAのPlan（計画）の段階では、どのような用途で使うものを作るのか、誰にあげるのか、どんなデザインにするのかを考えます。振り返り（Check）の段階では、うまくいかなかったところ、工夫すべきところを考え、改善（Action）は前回の反省点から、よりよいものを作成しようとします。このようにPDCAサイクルを回すことによって脳、とくに前頭前野（計画力）と海馬（記憶力）を鍛えることができると考えられています。

異世代が協力して作業

9月のものづくり教室では、学園祭に出品するための手漉き葉書、アロマストーンとアロマワックスサシェを高齢者と学生が協力して作りました。はじめて取り組む作品だったので、試行錯誤しながらの共同作業となりました。参加した高齢者は「アロマストーンは流し込む前はどうか想像できななかったけど、上出来でうれしかった」「また挑戦したい」「若い学生さんのパワーをいっぱいもらえた気がします」と感想を話されました。学生たちは作品をきれいにラッピングしたり、看板を作ったりと授業後も残って作業していました。そのかいあって作品は完売で、学園祭に来られたものづくり教室の高齢者たちも売り子の学生と歓談したり射的を楽しんだり、学園祭を満喫していました。参加した学生は「普段、話している友人だけでなく様々な年代の人々が集まり、工夫しながら作業する中で、自身の作品に対する思いを語り合える環境が心地いい」「多くの会話を交えながら様々なことを学ぶことができ、素晴らしい経験になりました」と振り返っています。

「ものづくり」は“ものがたりづくり”は、この教室のキャッチフレーズですが、ものづくりをとおして、高齢者と学生との様々なものがたりが生まれています。



クリスマスリースに挑戦中



学園祭で売り子の学生と

■ その他の京都市地域を対象とした教育活動（「学まち連携大学」促進事業）一覧

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
国際英語学部	国際英語学科	「英語の教え方教室」第7回合宿 in 大原	国際英語教職免許履修3回生	中井弘一	3名	京都大原の里	令和元年（2019年）6月15日（土）～16日（日）テーマは、「interactionを通じたoutput活動の工夫～SpeakingとWriting活動について～」。「主体的・対話的で深い学び」の育成が全体の教育理念の軸となっているが、特に英語科では使える英語として、output活動に指導の重点が置かれるようになって来ている。outputという活動を、何を目的に、なぜ行うのか。どのような力をつけるため、どのようなoutputを求めるのか、こうした理念をもって授業に臨むことが、これからの英語教育の展開での重要な要素になる。今回の合宿では、そうしたことについてキーノート・トークを行い、そのあとグループ毎にspeakingやwriting指導の在り方を話し合った。
国際英語学部	国際英語学科	山科英語ガイドPart 3	3回生アンガスゼミ	アンガス、ノーマン	13名	京都・山科地区 および伏見地区	去年、英語コミュニケーション学科のアンガスゼミ（翻訳）の成果物として発行された「Deeper Into Yamashina」に続き、山科とその周辺に関する新しい英語冊子「Yamashina Guide Part 3 Six One-day Tourist Courses in and around Yamashina」を作成している。授業では、外国人観光客のニーズを配慮しながら、それぞれの分野（山科区および伏見区の観光、食、交通、イベント、体験型観光、施設、買い物など）に関する実践的な翻訳練習を行い、その後の学生個々やグループのフィールドワークによる計画と発表を行った。企画、編集、文書作成、翻訳、写真など学生中心の活動である。2020年3月末に出版する予定にしている。
国際英語学部	国際英語学科	山科警察署「英語講座」	3回の帰国生	アンガス、ノーマン	学生8名 警官15名	山科警察署	一昨年度から始めた、京都橋大学と京都府山科警察署間の包括協定に基づく警察職員への英会話講座は、好評につき2019年度も実施した。京都橋大学と山科警察署との包括協定のもとで昨年度の秋から府警の教養課国際通訳センター作の教材「おもてなし英会話教本」を教材にした10回の英会話講座（ESP= English for Special Purposes 専門性のある英語）を行った。但し、今年度から学科の帰国生8名が担当に当たった。
国際英語学部	国際英語学科	2020年4月開催「京都コンgress（第14回国連犯罪防止刑事司法会議）」に向けて、京都保護観察所と京都橋大学の協働	国際英語学部学生全員対象。特に、アンガスゼミ学生は、展示資料翻訳を通して、貢献予定。	アンガス、ノーマン 樋口ゆかり 柴田英貴 （総合教育課）	—	京都市	本国連犯罪防止刑事司法会議は、全世界で、持ち回りで開催されており、京都で開催されるのは、50年ぶり、2回目である。2019年11月8日及び12月10日の打ち合わせを通して、京都保護観察所と山科区役所は、本学国際英語学部にて本会議への協力を求めた。現在、国際英語学部学生に可能な貢献として、次のことが検討されている：①ブースにおける通訳、②ブース展示物の翻訳、③国際会議参加者の京都見学旅行へのアテンド。山科地域の保護司の方々との協働することを通して、学生は地域貢献をなすことができる。また、国連主催の国際会議の場を経験することは、国際生を養う良い機会となる。現在計画立案中のプロジェクトであり、今後の展開が期待される。

文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 aクラス	野村幸一郎	50名	岩屋神社	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究		野村倫子	50名	東寺	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究		林久美子	50名	毘沙門堂	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究		安達太郎	50名	六波羅蜜寺	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 dクラス	寺坂昌三 尾西正成	28名	岩倉	祥瑞齋訪問、筆筒・絵付け皿作成
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 dクラス	寺坂昌三 尾西正成	28名	京都市美術館他	日展・国立近代美術館にて寺坂・尾西が作品解説。レポート提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 dクラス	寺坂昌三 尾西正成	28名	大丸京都店	京都書作家展にてギャラリートーク（尾西）。鑑賞録を提出
文学部	日本語日本文学科	言語文化総合演習	1, 2回生	野村幸一郎	28名	伏見桃山	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	言語文化総合演習	1, 2回生	野村幸一郎	28名	東山	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	言語文化総合演習	1, 2回生	林久美子	27名	冷泉家住宅	現地見学
文学部	日本語日本文学科	言語文化総合演習	1, 2回生	重松恵美	29名	京都文化博物館	「美を競う肉筆浮世絵の世界」展の見学
文学部	日本語日本文学科	言語文化総合演習	1, 2回生	重松恵美	29名	京都国立近代美術館	「円山応挙から近代京都画壇へ」展の見学
文学部	日本語日本文学科	古典文学講義Ⅳ（中近世）		林久美子	22名	観世会館	現地での演者によるレクチャー受講と忠三郎狂言会の鑑賞。
文学部	日本語日本文学科	キャリア開発演習	2, 3回生	野村幸一郎	30名	鴨川デルタ	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	キャリア開発演習	2, 3回生	野村幸一郎	30名	宇治	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	キャリア開発演習	2, 3回生	野村幸一郎	30名	伏見稻荷	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容(概要)
文学部	日本語日本文学科	文芸講演会	学科	野村幸一郎	250名	京都橋大学	外部に開放して文芸講演会を実施。2019年度は武田綾乃氏。
文学部	歴史学科	地域課題研究	1回生研究入門ゼミクラスa+d	増淵徹 小野浩	36名	東山地区(祇園新橋重伝建地区・知恩院・円山公園・八坂神社・法観寺・六波羅蜜寺など)	京都の歴史についての理解を深めることを目的に学外授業を実施した。見学に先立ち学生は案内レジュメを作成し、現場で解説を行うとともに、見学後はパワーポイントを作成して学科全体で成果報告会を開催した。
文学部	歴史学科	地域課題研究	1回生研究入門ゼミクラスb+e	後藤敦史 松浦京子	36名	伏見地区(寺田屋・伏見港・三桷間門・御香宮など)	同上
文学部	歴史学科	地域課題研究	1回生研究入門ゼミクラスc+f	野田泰三 王衛明	35名	紫野・北野地区(大徳寺・今宮神社・北野天満宮・御土居跡・上七軒など)	同上
文学部	歴史学科	研究入門ゼミⅠⅡ	1回生研究入門ゼミクラスa・d	増淵徹	16名 16名	琵琶湖疏水インクライン・南禅寺・疎水記念館・無鄰菴など	京都の歴史的遺産を見学し、その意味や見方を解説した。
文学部	歴史学科	日本史講読Ⅱ、古文書学AⅠ・AⅡ	日本史講読Ⅱb、古文書学AⅠ・AⅡ	野田泰三	13名、 38名	京都橋大学	東寺百合文書など京都地域に関する中世文書をテキストに用い、中世京都の歴史について学んだ。
文学部	歴史学科	日本史演習Ⅱ	bクラス	野田泰三	15名	京都橋大学/京都府立京都学・歴史館	授業のテキストに東寺百合文書を使用し、京都の中性史へ理解を深める授業展開を行った。
文学部	歴史学科	京都の歴史と文化遺産	集中(大学コンソーシアム提供科目)	増淵徹	40名	キャンパスプラザ・京都市歴史資料館・円山公園・方広寺など	京都市文化財保護課の技師とともに、京都市内の各種の文化遺産について講義し、見学した(他大学・社会人への開放講座)
文学部	歴史学科	歴史遺産への招待	集中(昭和大学提携講座)	増淵徹 小林裕子 村上裕道 有坂道子	27名	京都市内(琵琶湖疏水・無鄰菴・御土居・正伝寺・上賀茂神社・東寺など)宇治市内(平等院など)	昭和大学の学生を対象として京当時の歴史遺産を見学。庭園・史跡コースとして遺産を解説した。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習Ⅱ		村上裕道	3回生	山科区	山科区内を対象として、歴史文化活用計画を作成
文学部	歴史遺産学科	地域課題研究		村上裕道他	1回生	京都市	葵祭・祇園祭・時代祭調査
文学部	歴史遺産学科	遺産情報演習1b(世界遺産PBL)		小林裕子	2回生以上学部生・院生	醍醐寺	京都市、醍醐寺、本学と三者協同で問題解決型学習を実施した。
文学部	歴史遺産学科	京都総合演習		村上裕道	3回生	二条城・篠山市	文化財参観者の動態調査
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習ⅠⅡ・実習Ⅳ		中久保辰夫	受講生(12名)および2回生有志(4名)	京都市考古資料館	令和元年度京都市考古資料館企画展示「焼き物からよむ平安時代」(2019年12月10日～2020年1月19日)の企画・開催・関連行事(展示解説、講演会)の実施

発達教育学部	児童教育学科	教育演習Ⅰ	3回生教育演習Ⅰ佐野ゼミ生	佐野仁美	15名	草津市、山科区	音楽に関心を持つ学生が集まる佐野ゼミの活動の一環として、7月にたちばな大路子ども園(草津市)のお泊り保育明けの親子会と、ももの木こども園(山科区)の七夕会で演奏した。学生が計画を立て、管楽器やピアノのアンサンブル、トーンチャイムの演奏や歌やダンスを一緒に行って子どもたちと交流し、その後活動全体の振り返りを行った。
発達教育学部	児童教育学科	教育演習Ⅱ	3回生教育演習Ⅱ佐野ゼミ生	佐野仁美	15名	山科区	音楽に関心を持つ学生が集まる佐野ゼミの活動の一環として、10月に大学で行われたちびっ子ランドでは、地域の方から寄付されたピアノを用いた演奏を中心にコンサートを計画して子どもたちと交流し、その後、活動の振り返りを行った。また12月21日の京都市立西野小学校(山科区)土曜学級では、学生がクリスマス・ソングや子どもたちにも馴染みのあるジブリ映画の曲や童謡を選曲、編曲してコンサートを計画し、当日は演奏を通して子どもたちと交流し、参加者全員でダンスを踊った。その後活動全体の振り返りを行った。
発達教育学部	児童教育学科	学校・地域調査(国内)Ⅰ<児童>	児童コース2回生	河内晴彦他	64名	山科その他	小学校フィールドワークとして、4月から翌年1月まで、1年間にわたって週1回山科地域の小学校や自分の出身校を訪問し、授業を参観しつつ、個々の子どもの学習支援を行う。当該科目にて、各自の経験を交流した。
発達教育学部	児童教育学科	学校・地域調査(国内)Ⅰ<幼児>	幼児コース2回生	森本美絵	7名	山科その他	半期を通して、同じ保育所や幼稚園に、ボランティア等に出かけ、実際の現場の雰囲気や子どもの成長する姿をメモることを課題とした。演習では、メモをもとに印象に残った子どもの様子について意見交流し、クラス全体への発表、それらを踏まえてレポートを作成させた。
発達教育学部	児童教育学科	研究入門ゼミⅠ	学科1回生全員	向井夫佐代 西村徳寿 長橋聡 池上貴美子 森本美絵 青木美智子	145名	山科、醍醐	10月に大学で予定されているちびっ子ランドに向けて、クラスごとに「絵本の読み語り」の企画を考え、その実現に向けて計画を立案した。
発達教育学部	児童教育学科	研究入門ゼミⅡ	学科1回生全員	向井夫佐代 西村徳寿 長橋聡 池上貴美子 大久保恭子 芦名猛夫	145名	山科、醍醐	研究入門ゼミⅠに引き続き、クラスごとに「絵本の読み語り」の企画の準備を行い、10月に行われたちびっ子ランドでは、子どもたちと交流した。その経験を今後に生かすために、子どもたちの様子や絵本を介した親子のやり取りの様子についての気づきや、取り組みについての反省等について振り返りを行った。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容(概要)
発達教育学部	児童教育学科	基礎演習Ⅰ	学科2回生 全員	森枝美 河内晴彦 佐藤年明 佐野仁美 大久保恭子 池上貴美子 南憲治	149名	山科、醍醐	10月に大学で予定されているちびっ子ランドに向けて、クラスごとに子どもを楽しませる企画を考え、その実現に向けて計画を立案した。
発達教育学部	児童教育学科	基礎演習Ⅱ	学科2回生 全員	森枝美 河内晴彦 佐藤年明 佐野仁美 大久保恭子 森本美絵 長橋聡	149名	山科、醍醐	基礎演習Ⅰに引き続き、クラスごとに子どもを楽しませる企画の準備を行い、10月に行われたちびっ子ランドでは、子どもたちと交流した。その経験を今後に生かすために、子どもたちの様子や遊びを介した親子のやり取りの様子についての気づきや、取り組みについての反省等について振り返りを行った。
発達教育学部	児童教育学科	保育内容演習(表現)Ⅱ <児>	児童コース 3回生選択 受講生	阿部真子	21名	山科	前前期の保育内容演習(表現)Ⅰにおいて「表現とは何か?」を様々な取り組みによって学んだ3回生児童コースの選択受講生(21名)が、その集大成として前後期の本授業でオペレッタを上演。各人が演者・裏方の両体験をすることで、実際の子どもたちに楽しんでもらえる舞台づくりの在り方・そのための準備の方法を工夫し、7月31日、観修児童館で「ブレーメンの音楽隊」、8月2日大塚児童館で「三びきのこぶた」の2公演を行った(両方とも山科区内)。当日は公演を見てもらうだけでなく、子どもたちからの質問に答えるなどの交流を図った。その後、全体の取り組みについての振り返りを行った。なお、この活動については2019年度学まちアワード(2019年11月)で「子どもと楽しむ『オペレッタ』公演」として学生がプレゼンテーションを行い、学長賞を受賞した。
発達教育学部	児童教育学科	保育内容演習(表現)Ⅱ <幼>	幼児コース 1回生 (全員)	阿部真子	79名	山科	後前期の保育内容演習(表現)Ⅰにおいて「表現とは何か?」を様々な取り組みによって学んだ幼児コースの1回生(79名)が、その集大成として後後期の本授業でオペレッタを上演。12人~14人の6グループに分かれ、各人が演者・裏方の両体験をすることで、実際の子どもたちに楽しんでもらえる舞台づくりの在り方・そのための準備の方法を工夫し、2月上旬から中旬にかけて、山科区内の保育園・こども園・児童館等において、「白雪姫」(岩屋こども園アカンパニ、2/4)、「かぐや姫」(西野山保育園、2/6)、「ブレーメンの音楽隊」(勤修保育園、2/7)、「ピーターパン」(東野保育園、2/17午前)、「シンデレラA」(おおよけこども園・大宅児童館、2/17午後2回公演)2月17日「シンデレラB」(柳辻こども園、2/18午前2回公演)の計8公演を行う予定。
発達教育学部	児童教育学科	音楽のアウトリーチ 活動	3回生 佐野ゼミ	佐野仁美	延べ 約30名	山科	音楽に関心を持つ学生の集まる佐野ゼミの活動の一環として、7月8日にももの木こども園(山科区)の七夕会、12月21日に京都市立西野小学校(山科区)の土曜学級にて楽器や歌による訪問演奏を行った。学生により計画の立案、選曲および編曲、練習を行い、当日は演奏を楽しみ、子どもたちとダンスを踊って交流した。その後活動全体の振り返りを行った。

現代ビジネス学部	経営学科	地域課題研究		岡田知弘		京都市・山科区	前山科区長、山科区選出京都市会議員、京都産学公運携機構事務局長を招いて、本学の立地する山科区及び京都市の地域の特質と課題について講演していただき、グループごとのレポートづくりに活用した。
現代ビジネス学部	経営学科	山科区の地域特性と課題	専門演習Ⅰ	岡田知弘	14名	山科区	山科区役所地域力推進室総務・防災課長を招き、山科区の地域の特性および地域課題についてレクチャーを受け、共通認識をえた。
現代ビジネス学部	経営学科	琵琶湖疎水記念館見学	専門演習Ⅰ	岡田知弘	14名	京都市・山科区	琵琶湖疎水の歴史、現状を、記念館を見学することで学んだ。
現代ビジネス学部	経営学科	琵琶湖疎水に関わる調査	専門演習Ⅱ	岡田知弘	14名	京都市・山科区	4つのチームに分かれ、琵琶湖疎水の歴史、事業内容、現状と課題について調査を実施し、報告書にとりまとめた。
現代ビジネス学部	経営学科	ビジネスプランPBL		加藤諒	2名	京都市等	民間企業や自治体が開催しているビジネスプランコンテストでの受賞を目的とした活動を実施した。モノシエアのサービスを提案し、テクノ愛2019の大学の部では、健闘賞を受賞した。
現代ビジネス学部	経営学科	ウェスティン都ホテル 京都 見学	専門演習Ⅱ j	平尾毅	4名	京都市東山区	チームごとに訪問希望先企業を選択し、事前学習として企業研究を行い、ゼミ内事前報告会で訪問目的等を発表した後、学生自ら訪問のアポ取りをし、訪問後にゼミ内事後報告会を開催して情報共有を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	株式会社三笑堂 見学	専門演習Ⅱ j	平尾毅	3名	京都市南区	チームごとに訪問希望先企業を選択し、事前学習として企業研究を行い、ゼミ内事前報告会で訪問目的等を発表した後、学生自ら訪問のアポ取りをし、訪問後にゼミ内事後報告会を開催して情報共有を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	京セラ株式会社 見学	専門演習Ⅱ j	平尾毅	4名	京都市伏見区	チームごとに訪問希望先企業を選択し、事前学習として企業研究を行い、ゼミ内事前報告会で訪問目的等を発表した後、学生自ら訪問のアポ取りをし、訪問後にゼミ内事後報告会を開催して情報共有を行った。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容(概要)
現代ビジネス学部	経営学科	株式会社美十 京都本社 見学	専門演習Ⅱ j	平尾毅	3名	京都市南区	チームごとに訪問希望先企業を選択し、事前学習として企業研究を行い、ゼミ事前報告会で訪問目的等を発表した後、学生自ら訪問のアポどりをし、訪問後にゼミ内事後報告会を開催して情報共有を行った。
現代ビジネス学部	都市環境 デザイン 学科	4回生ゼミ 共同プロジェクト (地域企業との連携)		木下達文	15名	京都府京都市	京都市山科区にあるニジウマルキョウトとコラボした商品開発。今年度は新商品の試作・開発、パッケージ等のデザイン提案、商品プロモーションツールの作成・発表会の開催等を実施。
現代ビジネス学部	都市環境 デザイン 学科	地域課題研究		小辻寿規	約140名	京都市	地域のNPOリーダーや行政職員等をお招きし、京都市の文化や地域課題について学修した。
現代ビジネス学部	都市環境 デザイン 学科	基礎演習Ⅲ		北村義典	21名	京都市大原野	「第1回『のんびり暮らしの家』設計コンペティションに参加し、最優秀賞1点(3名)、入選2点(4名)を受賞した。
現代ビジネス学部	都市環境 デザイン 学科	都市政策研究会		山岸達矢	約100名	京都市	「地域からはじめる持続可能な社会—眠った資源を活かした環境ビジネス—」と題して企業のアマタホールディングス(株)会長の熊野英介と(特活)英田上山棚田団理事の梅谷真慈を招聘し、シンポジウム開催した。
現代ビジネス学部	都市環境 デザイン 学科	専門演習Ⅲ		山岸達矢	10名	京都市	(公財)信類資本財団が有する地域拠点となる施設でフィールドワークを実施した。
現代ビジネス学部	都市環境 デザイン 学科	基礎演習Ⅱ・ 専門演習Ⅱ		福井弘幸	29名× 2回	京都市	京都市、大学コンソーシアム京都、監修の京都B&Sプログラムにボランティアとして協力(修学旅行として入浴した全国の中高校生約330名を案内)。

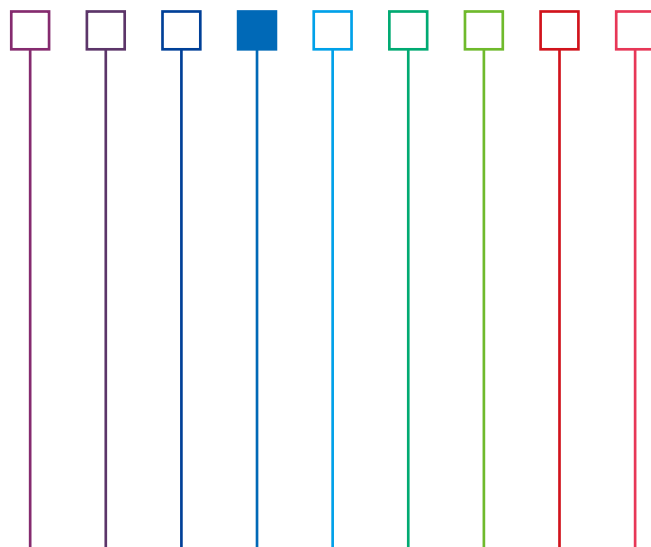
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習 I		征矢野あや子 長尾匡子 深山つかさ	1回生 93名	山科区役所～ 山科中央公園	山科区老人クラブ主催の「美化ウォーキング」に参加した。学生は、参加者とコミュニケーションをとりながら、山科区内をゴミを拾いながら歩き、高齢者に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習 I		堀妙子 松本賢哉 平井亮 竹中友希	2回生 102名	京都市醍醐中山団地	醍醐中山団地の住人を対象に、学生が訪問活動を行った。訪問先は25家庭で、それぞれ部屋の片づけや、掃除など対象者の希望に合わせた活動を行い、地域で生活する人々の環境と健康に関する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習 I		堀妙子 松本賢哉 岡田純子 黒瀬安紀子	2回生 95名	京都市醍醐中山団地	醍醐中山団地の住人を対象に、学生が訪問活動を行った。訪問先は25家庭で、それぞれ部屋の片づけや、掃除など対象者の希望に合わせた活動を行い、地域で生活する人々の環境と健康に関する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習 I		堀妙子 松本賢哉 長尾匡子 竹中友希 田邊幹康 渡邊有紀 岩崎由美子 岩崎真子 山本亜衣 下田優子 伊藤弘子 定森千賀 佐野真樹子 平井亮 城之内美恵	2回生 110名 4回生 10名	本学中央体育館	山科区老人クラブ連合会との共催で「体力測定会」を本学で行った。学生は受付及び体力測定の準備を行った後、参加者とペアになり、体力測定を行い、高齢者の健康状態などについての理解を深めた。参加者は101名であった。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習 I		堀妙子 松本賢哉 岡田純子 長尾匡子	2回生 110名	京都市醍醐中山団地	醍醐中山団地の住人を対象に、学生が訪問活動を行った。訪問先は25家庭で、それぞれ部屋の片づけや、掃除など対象者の希望に合わせた活動を行い、地域で生活する人々の環境と健康に関する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習 II		堀妙子 松本賢哉 平井亮 長尾匡子	3回生 88名	京都市醍醐中山団地	醍醐中山団地の住人を対象に、学生が訪問活動を行った。訪問先は25家庭で、それぞれ部屋の片づけや、掃除など対象者の希望に合わせた活動を行いながら、地域で生活する人々の健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習 II		松本賢哉 堀妙子 岡田純子 黒瀬安紀子	3回生 91名	京都市醍醐中山団地	醍醐中山団地の住人を対象に、学生が訪問活動を行った。訪問先は25家庭で、それぞれ部屋の片づけや、掃除など対象者の希望に合わせた活動を行いながら、地域で生活する人々の健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習 II		石井美由紀 城之内美恵	3回4名	醍醐北部・ 醍醐南部地域 包括支援センター	近畿社会福祉協議会 保健師専門部会 研究会に参加
看護学部	看護学科	プライマリケア実習 III		餅田敬司 平井亮 岩崎由美子 石井美由紀 田邊幹康	4回生 37名	山科総合福祉会館	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習 III		田邊幹康 長尾匡子 下田優子	4回生 26名	笑顔とふれあいの家 みささぎ	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容(概要)
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		征矢野あや子 川村晃右 佐野真樹子 小西奈美 宗由里子	4回生 27名	百々学区福祉協議会	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		松本賢哉	4回生 5名	ふれあいまつり西野	西野学で開催されたふれあい祭りにて、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		松本賢哉 河原宣子 定森千賀	4回生 12名	元気みなフェス!	身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		松本賢哉 黒瀧安紀子 下田優子 鷲見舞	4回生 16名	山科区 健康福祉まつり	祭りの来場者(100名)に健康チェック(骨密度測定、血管年齢測定)を実施。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		小西奈美 川村晃右 宗由里子	4回生 19名	百々学区福祉協議会	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		岡田純子 田邊幹康 伊藤弘子	4回生 14名	笑顔とふれあいの家 みささぎ	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行い、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	総合看護学実習		黒瀧安紀子	4回生 2名	訪問看護ステーション みなみ	地域で生活する療養者の支援について左記のステーションの訪問看護師に同行しながら学び、卒業論文としてまとめた。まとめた論文の内容について、3月に行われる京都府ステーション協議会の看護研究発表会で発表する予定である。

健康科学部	心理学科	地域課題研究	j	石山裕菜 岸太一 濱田智崇 大久保千恵 永野光朗	91名	京都橘大学	心理的支援や地域の活性化など地域課題の解決に取り組む事例について、ゲストスピーカーを含め8名の担当者の講義を実施した。ゲストスピーカーとして、宇治おおばく病院的担当者(精神保健福祉士)などをお招きした。
健康科学部	心理学科	卒業研究		濱田智崇	4名	おおやけこども園・ たちばな大路こども園	集団に入ることによる困難を抱える幼児に個別のかかわりを持つことで、統合保育のサポートを行い、その活動を通じて、幼児に対する心理的支援を実践的に学ぶ。その活動記録をもとに、卒業論文を作成することを目指している。
健康科学部	臨床検査学科	山科区近隣地域の河川における水質調査と水質変動因子の解析		岡田光貴 竹下仁	3名	山科区、及び その近隣地域	2019年度は桂川、高瀬川、高野川、鴨川、琵琶湖疏水、山科川、宇治川、山科音羽川の8河川、10ヶ所で四季(5、8、10、12月)ごとに水質調査を行った。結果、上記河川には工場排水や生活排水に由来する汚染は殆ど無く、水質は良好と考えられた。また、一般細菌や大腸菌は多くの河川で夏季が増加傾向にあり、冬季は殆ど認められなかったが培養後には細菌汚染が見られた。即ち、これら河川の水を飲用や生活用水として用いるのは避けた方が良く結論付けた。これら成果は2019学まちAWARDにて報告した。さらに、2020年2月の生物試料分析科学会(大阪)では学生による一般演題発表を予定している。

IV

学生による学外での活躍



■ 学生による学外での活躍

TURF (橘救急救命研究会) による

一次救命処置 (BLS) の普及活動

TURF (橘救急救命研究会) 学生

TURF (橘救急救命研究会) とは

TURF は主に医療系 (救急救命学科や看護学部など) の学生が集まって、一次救命処置 (BLS) の普及活動を行っています。(教育系や文科系の学生も加入しています。) 対象とするのは、一般の市民の方々から、幼稚園児まで多岐にわたっています。

※一次救命処置とは一連の「心肺蘇生」「AEDの使用」「窒息の解除」を指します。

TURF の活動

地区の自治会などで地域住民の皆様にも講習会を行うこともあります。小中学校やこども園での活動も多くなっています。大学生が指導することで、子供達にも受け入れられやすいことが考えられます。

また、2008年以來、胸骨圧迫のみの心肺蘇生でも、救命率に差が無いことから、簡易型の蘇生人形を使用しての「胸骨圧迫のみの心肺蘇生とAED」の講習会が多くなっており、子供達に指導するときには、短時間で簡単な手技で行える利点があります。

児童生徒に BLS を指導する意味

児童や生徒に BLS を指導することは、命の大切さを知らせる教育、すなわち、命の教育ということにつながります。また学校の先生方に指導することは、先生方から児童生徒に指導していただくことで、BLS の広い普及につながります。

2019 年の実績

- | | |
|---|--|
| 4/29 (金) 円町まぶね隣保園 対象：保育教諭
参加学生 3 人 | 8/2 (金) 大宅こども園児童館 対象：児童約 100 人
参加学生 3 人 |
| 5/25 (土) 京都橘中学校、高校 対象：中高生と父兄
参加学生 3 人 | 9/13 (金) 岩屋保育園 対象：園児 92 人
参加学生 10 人 |
| 5/31 (金) 同志社中学校 対象：中学 1 年生約 300 人
参加学生 5 人 | 10/19、20 (土、日) 京都橘大学大学祭
参加学生 60 人 |
| 6/9 (日) 勸修小学校 参加学生 8 人 | 10/27 (日) 救急フェスタ in 大阪～第 7 回いのちのリ
レー大会～JR 大阪駅 5F 時の広場
参加学生 8 人 |
| 6/19 (水) 安朱小学校 対象：小学 6 年生 34 人
参加学生 9 人 | 11/10 (日) 勸修小学校 参加学生 6 人 |
| 6/20 (木) 西野小学校 対象：教員 参加学生 4 人 | 11/17 (日) 大宅小学校 対象：約 150 人
参加学生 7 人 |
| 6/28 (金) たちばな大路こども園 (草津市)
対象：保育教諭 参加学生 5 人 | 11/12 (火) 京都大学医学部附属病院 参加学生 2 人 |
| 7/10 (水) 大宅こども園 対象：園児 66 人
参加学生 6 人 | |

まとめ

TURF の活動を紹介いたしました。心肺蘇生の普及は、病院外心停止からの救命率の向上につながります。日本ではまだまだ病院外心停止に対しての心肺蘇生実施は 56.5% (2017) と決して高くはありません。TURF の地道な活動が、心肺蘇生実施率の向上、ひいては病院外心停止の救命率の向上につながりますように……。



TURF の学生が児童たち楽しく指導中



楽しい講習会を終えて

■ 学生による学外での活躍

大学の垣根を越えたチーム医療教育

京都橘大学・京都薬科大学による合同多職種連携教育を実施！

看護学科 4 回生×理学療法学科 4 回生×京都薬科大学 5 回生

本学と京都薬科大学による多職種連携教育（IPE：Interprofessional Education）を11月15日（木）に本学にて実施しました。これは、多様化する患者対応のためにチーム医療を推進できる人材育成を目的として行われ、本学からは看護学科（15名）、理学療法学科（15名）の学生が、京都薬科大学からは薬学部（12名）の学生が参加しました。当日は、看護師・理学療法士・薬剤師の3つの立場からシナリオ事例に沿って、患者さまや患者さまを取り巻く環境についての状況把握や介入の仕方について議論をしました。第1部では、学科ごとのグループで、それぞれの職種でどのように患者さまの状況をとらえ、向き合うかを議論しました。第2部では、学科混合のグループで各職種の観点の違いや、介入できる点・介入してほしい点などを共有し、具体的にどのように協働できるか議論を深めグループごとに意見をまとめ発表をしました。

IPE研修の目的は、異なる医療教育を受けている学生が、垣根を越えて学び・話し合うことを通じて、それぞれの職種の強みや弱みを知りチーム医療に貢献することです。この研修は2016年度から本学看護学部と京都薬科大学薬学部で行い、2018年度から、本学健康科学部理学療法学科が加わり実施しました。参加した学生たちは、各職種における観点の違いに理解を深め合いながら、何が患者さまにとってより良いのかと議論をしたり、専門的な用語や見解について質問し合ったりする様子がみられ、活発な研修となりました。

<プログラムの詳細>

■当日のスケジュール

時間	内容
9:00～9:05	開会挨拶
9:05～9:10	趣旨説明
9:10～9:50	第Ⅰ部：学科ごとのグループディスカッション 薬学部・看護学科・理学療法学科の学生それぞれのグループで討論
9:50～9:55	移動休憩
9:55～10:15	各グループの発表
10:15～10:30	休憩
10:30～12:00	第Ⅱ部：学科混成のグループディスカッション 薬学部・看護学科・理学療法学科の学生が混ざったグループで討論
12:00～13:00	昼休憩
13:00～14:00	各グループの発表および質疑応答
14:00～14:30	各大学教員からのフィードバック

■当日のシナリオ事例（概要）

80歳代の男性が、畑で倒れているところを発見され救急搬送された。MRI検査で脳梗塞と診断され、脳神経外科に緊急入院。全失語状態、頭部左方偏位、右片麻痺。

血栓を取り除く治療後、麻痺は改善したものの言語障害残存。約1週間後にリハビリ科へ転科となり、見守り、誘導があればほぼ自立できるようになった。当初から本人の帰宅願望が強く、入院生活のストレスが増強。約2月半後、地域連携カンファレンスを開催し、退院した。内服薬の自己管理が困難なため、退院後は妻が服薬管理を行う予定だが、介護サービス介入の検討も必要になる可能性がある。



援助計画発表



集合写真

■ 学生による学外での活躍

平成 31 年度文化庁地域の博物館を中核としたクラスター形成事業

合同企画展「焼き物からよむ平安時代 —発掘でみえてきた食器・酒造り・饗宴—」の開催

文学部歴史遺産学科考古学コース×京都市×京都市考古資料館×
公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所×京都歴史文化施設クラスター実行委員会

京都で学ぶ学生が発信する平安時代土器の魅力

京都市と公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が公募する京都市考古資料館合同企画展に、本学文学部歴史遺産学科考古学コースの応募が採択されました。そして、「平成 31 年度文化庁地域の博物館を中核とした文化クラスター形成事業」として、京都歴史文化施設クラスター実行委員会の共催のもと、文化庁の補助金によって合同企画展を実施しました。

合同企画展のスタッフは、考古学コース教員と学生 20 名です。3 回生が中心となり、歴史遺産学演習・実習の一環として、平安時代土器の研究、展示品の選定や資料調査、解説パネルの制作などに取り組みました。スタッフの中には将来、文化財の専門職や学芸員を目指す学生もおり、充実した実地訓練の場となりました。

合同企画展は、2019 年 12 月 10 日（火）から 2020 年 1 月 19 日（日）までの期間に開催しました。展示では平安時代の焼き物約 230 点を陳列し、復元イラストや展示土器資料の下に折り紙を敷く、展示キャラクター（さかべえ）の考案など、学生の感性を活かした工夫を随所にこらしました。展示内容は、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、京都新聞やケーブルテレビ（J:COM）で紹介していただき、また大学の魅力を発信するウェブサイト：ほとんど0円大学（http://hotozero.com/enjoyment/learning-report/kyototachibana_heiandoki_2019/）にも取り上げていただきました。

展示期間中における学生たちの取り組み

関連行事として毎週日曜日に学生 3～4 名による展示解説に加え、12 月 21 日（土）にはミニ講演会として、3 回生の庄司光一さんと長澤知真さんが「平安時代の焼き物の魅力—展示の見どころと研究成果—」を発表しました。1 月 12 日（日）には、ワークショップ「京都で学ぶ学生が考える京都歴史文化施設のつなぎかた」を実施し、本学学生 7 名がクラスター構成館である京都文化博物館、京都市歴史資料館、京都市考古資料館、京都市学校歴史博物館に訪れた感想や、各施設をめぐる散策プランを発表しました。いずれも参加者より好評を得ることができました。

合同企画展を通じた学生の成長と観覧者の声

合同企画展を通じて、歴史遺産を学ぶ学生は展示実務を体得し、また観覧者との対話によって展示手法のさらなる工夫や勉強の必要性を感じ、成長をすることができました。来館者アンケートには「平安時代の生活で使っていたさまざまな用具が、その当時の焼き物を通して、よくわかりました。そして、現代で使用している生活用具のもとになっているような気がしました。」「土器の下に折紙を敷くなどの工夫も簡単なことではありますが、よい視点だと思いました。普段の特別展に取り入れてもよいのでは?!」という声があり、学生の頑張りや工夫が地域の方々に認められたところです。

今後も、京都にある大学の利点を活かして、京都の歴史や文化を考古学的に考えていきたいと思えます。



合同企画展の展示風景



展示解説風景

■ 学生による学外での活躍

山科地域貢献プロジェクト

「イオンふるさとの森づくり」へのサッカー部の参加

サッカー部+有志学生

概要

「イオンふるさとの森づくり」は、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」を基本理念とするイオンタウン株式会社が、事業理念を具現化する取組として 1991 年から全国各地で実施する植樹活動です。

今回、「イオンタウン山科柳辻」のオープンに伴い、同店舗が緑に生まれ地域環境にとけ込んだ場所になることを願って、2019 年 11 月 2 日(土)に「イオンふるさとの森づくり」植樹祭が実施されることとなりました。この企画は、イオンタウンの敷地内にその地域に自生する「ふるさとの木」の苗木を地域住民とともに植えて大切に育てていくことを目的とするものであり、本学からはサッカー部を中心とした学生が参加し、地域との交流を深めました。

経緯

本学とイオンタウン株式会社は連携・協力に関する協定を締結しました。これは、2019 年 12 月にオープンしたイオンタウン山科柳辻において相互が有する資源を有効活用し、地域の活性化、教育研究、生涯学習、文化および産業の振興、人材育成等において相互に連携・協力し、相互の発展および地域社会の発展に寄与することを目的として結ばれたものです。

また、サッカー部は、「すべての人に感動と勇気を与え誰からにも愛され、応援されるチームづくり」を理念とし、地域から応援されるチーム作りを目標に掲げて、試合成績だけではなく、地域での清掃活動など地域ボランティア活動に力を入れた活動をしています。2019 年度は、近隣の小学校低学年を対象としたサッカースクール「京都橘みらいサッカー教室」の開催や近隣の児童館との交流を深めるなど、応援されるサッカー部を目指した地域貢献活動を活発化してきています。

「イオンふるさとの森づくり」は、こうしたサッカー部のさまざまな活動の趣旨と合致しました。大学の教職員とともに、地域住民と交流できる良い機会であると捉え、サッカー部として参加することにしました。

成果

学長、副学長、地域連携センター長、教職員有志とともにサッカー部を中心とした学生約 20 名が参加しました。当日は、多くの地域の方も参加され、サッカー部の部員たちは積極的に地域の方と交流することができました。京都橘大学サッカー部の活動について多くを知っていただく機会となりました。



植樹の説明をうける学生



学長と植樹をする学生



植樹をするサッカー部員

■ 学生による学外での活躍

京都を訪れる中高生を案内

新しい教育旅行プログラム京都 B&S プログラムへ参加

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科学生

プログラム概要

本プログラムは、京都市と公益財団法人 大学コンソーシアム京都の監修のもと、京都 B & S 事務局（株式会社 JTB 京都支店内）により運営され、京都の現役大学生が修学旅行や校外学習で京都を訪れる中高校生に、コミュニケーションを通じ、飾らない京都の魅力として、あまり知られていない観光地や大学のキャンパスを案内し、学生自身に成長の可能性を気づかせるきっかけづくりを目的として実施されています。

取り組みの経緯やねらい

現在、多くの自治体は、地域ブランド構築のために、段階的に関係人口や交流人口を増加させるさまざまな体験価値の提案をおこなっています。

また、近年、マーケティングにおいては、「今後の企業の成長には顧客との価値共創が不可欠である」とされています。

本取り組みは、この二点を学生に体感させ、新たな気づきに繋げることをねらいとしています。

教育的成果

フレームワークとして、前期と後期に一度ずつ Plan（計画）、Do（実行）、Check（測定・評価）、Action（対策・改善）の仮説・検証型プロセスを循環させました。

学生は、中高生の満足感や体験価値の提供を念頭に、本学の見学や模擬授業体験、隠れた名所・名店の案内、山科の観光資源である毘沙門堂見学など、通常では経験できない観光プランを事前に作成し、入洛後の中高生とコミュニケーションを図ることで、それ自体を体験価値の提供とし、併せて観光プランの修正を場面に応じて適宜行うなど、価値の共創を図ることを実体験しました。

今年度初めて本プログラムに取り組み、前期に神奈川県 S 中学、M 中学、千葉県 T 中学、福岡県 K 中学、後期に福島県 S 高校、秋田県 O 高校、福岡県 K 中学、熊本県 K 中学の合計約 330 名の中高生を案内しました。

終了後の中高生からのアンケートには、「楽しかった」、「また京都に再訪したい」、「観光地よりも案内していただいたお兄さん、お姉さんが心に残った」、「今回の修学旅行で大学進学をしたいと思うようになった」等々、好意的な意見が多くありました。

また、学生からの意見も「当初は気が乗らなかったが中高生に喜んで貰って嬉しかった」、「次回はもっと喜んで貰えるように工夫したい」、「自分の成長を実感できた」等々、新たな気づきが見られました。これらの体験は、体験価値の提案や価値の共創だけではなく、実学として地域貢献、観光まちづくり、ホスピタリティを学ぶことにおいても有用であったと考えます。



学内案内



図書館案内



授業体験



学食体験



授業見学



キャンパスライフ体験



模型見学



模型見学

■ 学生による学外での活躍

京都らしい住宅の提案

「第1回『のんびり暮らしの家』設計コンペティション」最優秀賞受賞

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 北村義典ゼミ

コンペティションの概要

2019年8月に実施された「第1回『のんびり暮らしの家』設計コンペティション（株式会社小野建築設計主催）」は、近畿圏の学生を対象とした住宅設計競技です。このコンペティションは単なるアイデア募集ではなく、実在の敷地を活用する設計競技として開催されました。

初開催となる今回のテーマは、「木の良さを活かした美しい家」で、木の良さとメリットを活かしながら、京都市西京区にある大原野の環境や自然と共に生活するという暮らし方が問われました。8月24日（土）に最終審査が「はるひの大原野モデルハウス（京都市西京区）」で行われ、多数の応募から一次審査を通過した10作品が最終審査を受け、現代ビジネス学部・都市環境デザイン学科の北村義典教授ゼミの2年生3名が最優秀賞を受賞しました。

取り組みの狙い

インテリア及び建築での創作を必要とするデザイン教育では、制作した作品の評価が重要な意味を持ちます。大学内での評価に加え、日本国中の若手デザイナーの中であって自らのデザイン力を認識するには、こうした国内外のコンペティションに応募し、他者からの客観的な評価を得ることが大切です。国内コンペティションの課題設定には、現代社会の問題、今後の社会や環境への提言等、深い思慮を必要とする内容が多く、その提案には設計の専門性のみならず教養教育で修得した幅広い知識と洞察力を駆使した課題の総合的な分析と創作が必要となります。

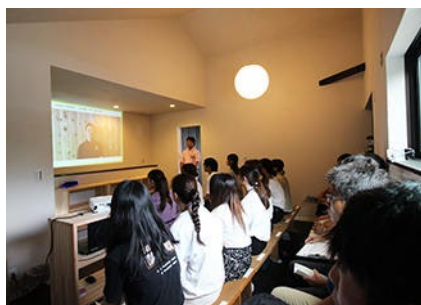
教育的成果

最優秀賞を受賞した本作品のタイトルは、「おおきなくりのきのしたで」で、制作期間は2019年6月から8月までの2カ月でした。受賞した3人は、童謡「大きな栗の木の下で」の物語が生まれるような家に、のびやかなデッキに栗の木と大黒柱の2本を立てるという大胆なプランを提案しました。シンボルとしての栗の木が人々にとって地域の目印になり、また縁側に座って話し込めるような地域の人々との関わり方が優秀であるという評価を受けています。

建築教育では、授業によるデザイン教育のみならず、対外的な活動の中から設計の社会的意義を理解することが必要です。今回の受賞作品には、そうした住空間と地域社会の関係に着目した点で優秀であり、設計競技参加による十分な教育的効果を得ることができました。



最優秀賞を受賞した学生達



審査風景



最優秀賞受賞作品

■ 学生による学外での活躍

調査データを「まちづくり」に生かす

滋賀県草津駅前での来街者調査活動

健康科学部心理学科学生

「まちづくり」に必要なデータを提供する

健康科学部心理学科では、3年生配当科目として「マーケティング調査演習」を実施しています。心理学は実証的研究分野ですが、この科目は調査法などの方法論を使って消費者の行動を把握し、データを分析することで企業がすすめるマーケティングへの活用方法を体験的に修得するという実践的な授業です。心理学科での勉学を卒業後の職務遂行に結びつけるための視点とスキルを養うという点で重要な科目です。このような実践の場として草津市での活動を続けています。

来街者調査の内容

昨年度に引き続いて草津市において来街者調査を実施しました。JR草津駅東口エリアにおける商業施設2店舗（商業施設「ニワタス」および「近鉄百貨店草津店」）の来店者を対象とした来街者調査を実施しました。具体的な授業のスケジュールと内容は以下の通りです。

- 9月～10月 ①マーケティング調査（来店者調査・来街者調査）の目的、方法、意義について過去のケースを踏まえて学習
- 11月 ①調査計画の立案と調査項目の作成、面接調査のトレーニング、②2店舗での調査実施
- 12月～1月 ①調査データの整理（コーディングと入力）、②統計分析ソフトウェアによるデータ分析、③調査報告会の準備

2店舗における調査により来店者計198名の方の面接調査を行いました。面接調査の内容は①対象者の来店形態や来店目的など、②草津駅東口付近での立ち寄り箇所と購買品目、③買い物の不都合や希望するサービス、などでした。また各店舗からのご要望に応じて担当の学生たちが考案した質問紙も付加しました。

成果を広く人々に伝える

成果報告のために2020年2月に草津市において草津市役所およびまちづくり会社の方々、各店舗の方々、受講学生、担当教員が出席して報告会を開催しました。また全体の結果をまとめた調査報告書を作成し、草津市役所および各店舗に提出します。さらに情報収集の要請があった場合にはそれに応えるための調査を次年度以降にも行っていく予定です。



商業施設「ニワタス」での調査風景



調査報告会の様子

■ 学生による学外での活躍

新たな観光資源の発掘

「福井県若狭町の観光ツアー」を提案

現代ビジネス学部経営学科竹内直人ゼミ×若狭町観光未来創造課

「観光」から地域活性化を考える

人口減少と高齢化に悩む地方の自治体にとって、観光は地域活性化の重要な要素です。若狭湾に臨む福井県嶺南地方の若狭町も例外ではなく、観光振興を政策の中心の一つとし、新たな観光プランの作成などを進めていました。

そこで町の職員の方と相談し、学生を3つのグループに分けて、若者らしい目線で町の観光資源を発掘し、テーマを決めて観光ツアーを提案することにしました。SNSを駆使して町の魅力を調べ、職員の方に出張講義をお願いしました。最後は現地で合宿をして実地調査を行い、観光ツアーの企画を検討しました。

緊張感をもって真剣に取り組むため、町長へのプレゼンテーションを最終目標としました。

観光ツアーの企画・提案を通しての学び

プレゼンテーションのコツは、テーマを絞ってストーリーをつくり、分かりやすく説明・提案すること。訴えかけるパワーポイントなどの作成も必要になります。そのためには事前の調査と構成力、斬新な切り口と表現力が欠かせません。ゼミの狙いは、プレゼンテーションを通してこのような力をつけることです。

このような総合的な学力の向上が取り組みの目的ですが、緊張の中でプレゼンテーションを行い、度胸と自信をつけ、何事にもチャレンジする気持ちを育てるといった隠れた狙いがありました。

プロジェクトをやり遂げて

まず、町の魅力を調べる調査。学生が得意のSNSが大きな力を発揮しました。十分に事前調査を行ったうえで現地に出かけ、有意義な合宿となりました。

次に、情報を選択する構成力。Instagramの活用やアニメとのコラボレーションなど、グループの議論の中から若者らしい発想が生まれ、提案に結びつきました。

最後に表現力。一番苦労しましたが、何度も練習を重ね、町の職員の方にも内容を見ていただきました。パワーポイントも何度も修正し、見やすいものになりました。

本番では3つのグループに分かれた学生たちは、町長や町の職員、観光協会の方を前に、緊張の中で立派にプレゼンテーションをやり遂げ、その内容は地元の新聞にも大きく取り上げられました。

グループで協力しながら活動することの意味、一つのプロジェクトをやりきることを学ぶ大変さを学びました。何よりもプレッシャーに負けずに発表することで一回り大きく成長したと思います。森下裕町長をはじめご協力をいただいた皆様に感謝いたします。



地元の新聞に大きく取り上げられたプレゼンテーションの様子



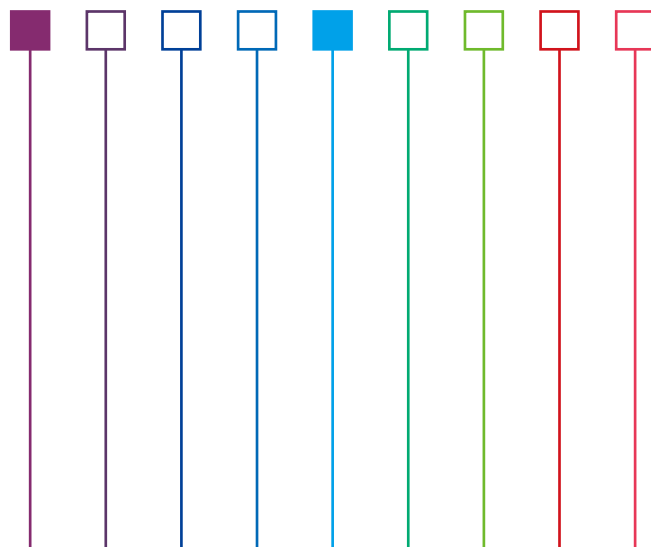
プレゼンテーション合宿を終え、ポーズをとる学生たち

その他の地域連携型教育プログラムの実績一覧

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
文学部	歴史遺産 学科	歴史遺産調査実習		中久保辰夫	教員・受 講生およ び3回生・ 4回生希 望者	滋賀県高島市	高島市教育委員会の協力の下、滋賀県高島市に所在する南畑古墳の測量調査を実施した。
文学部	歴史遺産 学科	文化財特別公開における ボランティア		小林裕子	学科学 生有志	松花堂	松花堂における文化財の特別公開に際して、拝観者の誘導・案内を行った。
文学部	歴史遺産 学科	歴史遺産学実習Ⅲ・Ⅳ		小林裕子	3回生 履修者・ 院生	大阪府豊中市如来寺	如来寺からの依頼により、文書調査及び目録作成を行った。
文学部	歴史遺産 学科	歴史遺産学演習ⅠⅡ・実習 ⅢⅣ		中久保辰夫	受講生 (12名) および 2回生有 志(1名)	兵庫県三木市	三木市史編さん事業に関わる野々池7号墳出土土器の実測作業
文学部	歴史遺産 学科	キャリアゼミⅢ		後藤敦史 中久保辰夫	3名	滋賀県	8月6日(火)から8月10日(土)の5日間、滋賀県埋蔵文化財センター(滋賀県大津市)で公益財団法人滋賀県文化財保護協会のインターンシップに参加
発達教育 学部	児童教育 学科	学校・地域調査(国内)Ⅱ <幼児>	幼児コース 2回生	森本美絵	5名	大津市	認定こども園、幼稚園、大津市立幼稚園こども展に出かけ、子どもの作品を鑑賞し、子どもの発達についての理解を深めた。また、子どもを作品製作に誘う環境設定について学び、気づき等についてレポートを作成した。
現代ビジ ネス学部	経営学科	開放特許等を活用したビジ ネスアイデア学生コンテ ストPBL		加藤諒	2名	大阪市 (近畿経済産業局)	近畿経済産業局が主催する開放特許等を活用したアイデアコンテストでの受賞を目的とした活動を実施した。カゴメ社の特許「加工・乾燥トマトの製造方法」を用いた商品ロスを軽減するサービスを提案し、審査委員特別賞を受賞した。
現代ビジ ネス学部	経営学科	自治体課題研究 (ディベート)	基礎演習Ⅲ (合同)	竹内直人 平尾毅 西野毅郎 (協力者)	43名	福井県小浜市	少子化が進む中で、多くの自治体では公立保育所の民営化が議論され、進められている。この問題に取り組んでいる福井県小浜市の職員を招き学んだうえで、小浜市の市民ホールで学生が賛成・反対のチームに分かれ、公開のディベートを行った。
現代ビジ ネス学部	経営学科	自治体課題研究(政策提案)	基礎演習Ⅰ	竹内直人	22名	福井県若狭町	人口減少と高齢化に悩む地方の自治体にとって、観光は地域活性化の鍵。この課題に取り組む福井県の若狭町と協力し、学生の目線でテーマを決めて観光ツアーを提案を行った。職員の方に出張講義をお願いし、現地で合宿をして実地調査を行い、最後は町長さんへのプレゼンテーションを実施。地元紙で大きく取り上げられた。
現代ビジ ネス学部	経営学科	タマサート大学 ビジネススクール ビジネスケース発表	専門演習Ⅰ j	平尾毅	17名	タイ・バンコク	日本企業(良品計画、伊藤園、セブンイレブンジャパン、コーセー、楽天)の事例研究をチームごとに行い、その成果を現地学生に英語で発表し、議論した。
現代ビジ ネス学部	経営学科	サントリー (天然水のビール工場) 京都ブルワリー 見学	専門演習Ⅱ j	平尾毅	3名	長岡京市	チームごとに訪問希望先企業を選択し、事前学習として企業研究を行い、ゼミ内事前報告会で訪問目的等を発表した後、学生自ら訪問のアポ取りをし、訪問後にゼミ内事後報告会を開催して情報共有を行った。
現代ビジ ネス学部	都市環境 デザイン 学科	3回生ゼミ 共同プロジェクト (地域素材の活用)		木下達文	16名	京都府	京野菜をテーマにしたオリジナル食育レシピ開発を中心に実施。今年度は京野菜の基本的な知識習得と関係機関の調査。大学生の食生活実態調査および食育プログラムの研究を主に実施。
現代ビジ ネス学部	都市環境 デザイン 学科	熊野再発見プロジェクト		木下達文	21名	和歌山県那智勝浦町	和歌山県那智勝浦町の地域創生に関するプロジェクト型授業。文化資源デザイン論にて実施。授業の後半で2泊3日で現地に赴き、地域診断フィールドワークを行った後、学生視点での提案を実施。
現代ビジ ネス学部	都市環境 デザイン 学科	基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ		山岸達矢	35名	京都府・大阪府・ 滋賀県	学生が裁判所の裁判傍聴をし、ゼミ内で発表し学びを司法制度の理解と、司法制度が及ばない豊富な社会関係について学んだ。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ		堀妙子 松本賢哉 長尾匡子 征矢野あや子 田邊幹康 竹中友希	1回生 96名	和邇市民体育館 瀬田公園体育館 石山市民体育館	大津市老人クラブ連合会主催の「体力測定会」に参加した。学生は参加者とペアになり、コミュニケーションをとりながら体力測定を行い、高齢者に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅱ		征矢野あや子 松本賢哉 餅田敬司 田邊幹康	3回生 名87名	大津市 蓬萊苑デイサービス センター	施設活動実習の一環として、地域の老人の特性や生活状況をデイサービスセンターでのプログラムを通して、生活状況理解し、健康状態を捉え、健康課題をアセスメントすることができる。

V

公的研究費・助成金等一覽 (2019 年度実績)

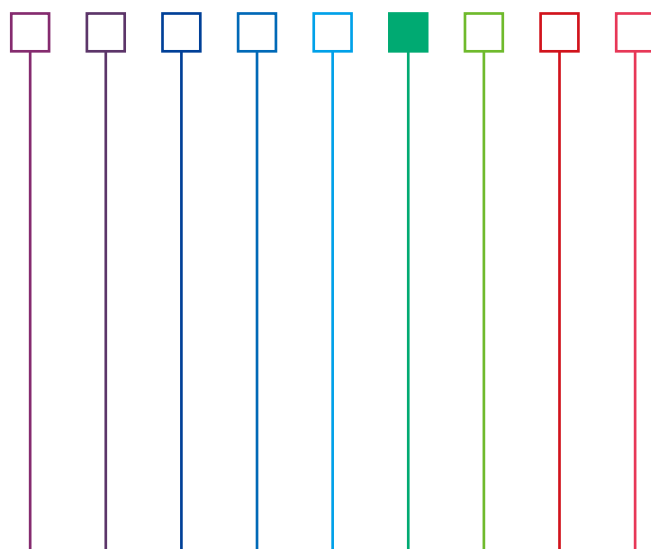


公的研究費・助成金等一覧 (2019 年度実績)

助成元	助成金名	期間	種別	内容、テーマ	研究代表者	研究代表者所属・職位
京都府立京都学・歴史館		2019年7月8日(月)～ 2020年3月31日(火)	受託研究	史蹟名勝天然紀念物保存法と洛東の歴史遺産	増淵 徹	文学部歴史学科 教授
関東化学株式会社		2019年7月1日(月)～ 2020年3月31日(火)	受託研究	薬剤耐性菌検出キットの性能評価	中村 竜也	健康科学部臨床検査学科 准教授
株式会社 KDDI 総合研究所		2019年6月22日(土)～ 2020年3月31日(火)	共同研究	神経生理学的アプローチを基盤とした医療福祉支援のための xR 技術活用に関する研究	兒玉 隆之	健康科学部理学療法学科 教授
アイシン精機株式会社		2019年4月1日(月)～ 2020年3月31日(火)	共同研究	転倒リスクを判定する手法に関する研究	兒玉 隆之	健康科学部理学療法学科 教授
アシックス商事株式会社		2019年4月1日(月)～ 2020年3月31日(火)	共同研究	アシックス商事が開発したシューズの身体に与える影響についての検証、当該実験結果に基づくレポートについての監修、これらに付随する作業	村田 伸	健康科学部理学療法学科 教授
日本ロレアル株式会社		2019年9月1日(日)～ 2019年12月31日(火)	学術指導	共同研究成果に係るメディア発表用資料作成指導	兒玉 隆之	健康科学部理学療法学科 教授
株式会社 ファンケル		2019年8月1日(日)～ 2020年3月31日(火)	学術指導	洗顔料の泡質がヒトの情動へ及ぼす影響の解明	兒玉 隆之	健康科学部理学療法学科 教授
アステラス製薬株式会社		2019年12月1日(日)～ 2020年3月31日(火)	その他	薬剤耐性因子阻害物質を用いた新規薬剤耐性菌検出法の開発	中村 竜也	健康科学部臨床検査学科 准教授
個人からの奨学寄附金		2019年4月1日(月)～ 2020年3月31日(火)	その他	住民が共生できるコミュニティカフェモデルの検討	小辻 寿規	現代ビジネス学部 都市環境デザイン学科 助教授
塩野義製薬株式会社		2019年12月1日(日)～ 2020年3月31日(火)	その他	薬剤耐性因子阻害物質を用いた新規薬剤耐性菌検出法の開発	中村 竜也	健康科学部臨床検査学科 准教授
奨学寄附金		2019年10月26日(土)～ 2020年3月31日(火)	その他	発達障がいと虐待の関連	石井美由紀	看護学部看護学科 准教授
救急振興財団		2019年4月1日(月)～ 2020年3月6日(金)	研究助成	公的救急業務の民間救急会社への委託事業の可能性の検討	関根 和弘	健康科学部救急救命学科 准教授
日本理学療法士協会		2019年4月1日(月)～ 2021年1月31日(日)	研究助成	地域在住高齢者の虚弱化を予防し健康寿命を延伸する介護予防プログラムの開発と効果検証	中野 英樹	健康科学部理学療法学科 准教授
日本臨床検査医学会		2019年9月1日(日)～ 2021年8月31日(火)	研究助成	炎症性腸疾患に対する新規バイオマーカーの探索	岡田 光貴	健康科学部臨床検査学科 助教授
生産開発科学研究所		2019年8月1日(日)～ 2020年7月31日(金)	研究助成	致死性毒キノコ成分に対する新規測定手法の構築について	岡田 光貴	健康科学部臨床検査学科 助教授

VI

自治体等との連携協力に関する 協定の締結



協定等

自治体等との連携協力に関する協定の締結

2012 年度～2019 年度

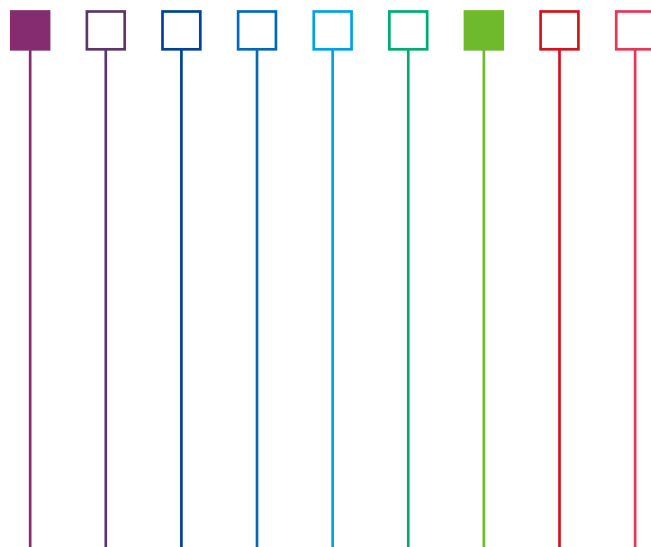
協定（連携）先	締結日	締結事項	備考
学校法人 昭和大学	2012年 1月16日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 看護職および看護・医療のレベルアップへの取組、人事交流、看護に関する共同研究と地域連携などを推進。	 昭和大学との包括協定調印式
日本赤十字社 京都第二赤十字病院	2013年 1月21日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 ○本学看護学部の主要実習病院としての連携強化 ○「京都第二赤十字病院特別奨学金制度」の創設（1学生約360万円） ○奨学金制度の創設に伴う新規推薦入試制度の導入 ○看護に関する共同研究および地域連携の推進、教職員の交流	 第二赤十字病院との包括協定調印式
京都市山科区	2013年 9月24日	本学と山科区は、地域連携・協力に関する協定を締結。 ○まちづくりの推進 ○地域産業の振興 ○教育、文化、生涯学習、スポーツの振興 ○医療・健康・福祉の向上 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○防犯、防災、交通安全等の地域の安心・安全の推進	 山科区との協定締結式
社会福祉法人 京都博愛会 (京都博愛会病院)	2014年 3月5日	理学療法士養成および理学療法・医療をめぐる教育研究に関する事業の発展を目指し包括協定を締結。 ○本学健康科学部理学療法学科における教育・研究に関する事項 ○京都博愛会病院理学療法士および理学療法・医療のレベルアップのための支援に関する事項 ○理学療法に関する共同研究および地域連携に関する事項 ○教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項	
社会福祉法人 大宅福祉会 (おおやけこども園)	2014年 6月1日	対人援助に携わる専門職者の養成ならびに看護・医療、保育・教育、臨床心理・発達心理をめぐる教育研究の振興のため包括協定を締結。 ○本学人間発達学部児童教育学科における教育・研究に関する事項 ○本学看護学部看護学科における教育・研究に関する事項 ○本学健康科学部心理学科および心理臨床センターにおける教育・研究に関する事項 ○大宅保育園の保育職および保育のレベルアップのための支援に関する事項 ○地域の子育て支援に関する事項 ○教育と研究の発展のため、その他必要と認められる事項	
滋賀県野洲市	2014年 6月17日	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な人材育成に寄与することを目的に協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他両者が必要と認める事項	
京都市 醍醐中山団地町内連合会	2014年 10月30日	京都市、醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的とした連携協定を締結。 ○地域連携センター分室の開設 ○留学生が暮らす国際シェアルームの運営 ○住民との交流による地域貢献活動 ○地域コミュニティの再生と活性化 ○健康および福祉活動	 醍醐中山団地との協定締結式

協定（連携）先	締結日	締結事項	備考
滋賀県草津市	2014年 12月25日	<p>本学と滋賀県草津市は、子育て支援の充実を軸とした包括協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育・児童教育に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○地域の活性化に関する事業 ○人材育成に関する事業 	 <p>草津市との協力に関する協定を締結</p>
大津市老人クラブ連合会	2015年 6月10日	<p>地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業の実現および看護・医療をめぐる教育・研究の振興をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な看護職者育成に寄与することを目的として協力協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる看護職者の育成に関する事項（看護学実習の受け入れなど） ○その他両者が必要と認める事項 	
公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団 (京都市東部文化会館)	2015年 11月5日	<p>本学と京都市東部文化会館（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）は、連携に関する協定を、同振興財団長尾理事長、同大学細川学長出席のもと締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化芸術活性化パートナーシップ事業 ○文化・芸術の振興に寄与する人材の育成 ○学生の参加・学習 	 <p>京都市音楽芸術文化振興財団との連携に関する協定を締結</p>
和歌山県 和歌山県那智勝浦町	2016年 6月3日	<p>本学と和歌山県那智勝浦町は、和歌山県が進める「大学のふるさと」の趣旨に賛同し、三者協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域資源再評価および観光広報、教育研究提携 ○人的資源の交流を通じた人材育成 ○地域貢献活動の推進による地域文化の向上および振興 	 <p>那智勝浦町と「大学のふるさと」協定を締結</p>
京都市 京都市児童館学童連盟	2017年 7月28日	<p>本学と京都市児童館学童連盟および京都市は、児童館における学習支援事業に係る協定を締結。 京都市内の児童館において、学生ボランティアが子どもたちの勉強サポートや相談対応などの学習支援事業を展開する。</p>	 <p>児童館における学習支援事業に係る協定を締結</p>
京都府山科警察署	2017年 9月11日	<p>本学と京都府山科警察署は、国際分野を中心とした協力に関する協定を締結。 本学から山科警察署への英語教育プログラムの提供や、山科警察署から本学留学生への柔道・剣道等日本文化体験機会の提供などを行う。</p>	 <p>京都府山科警察署との協力に関する協定を締結</p>
京都市 全国認定子ども園協会京都府支部	2017年 8月4日	<p>本学と全国認定子ども園協会および京都市は、幼稚園教諭免許状更新の連携・協力に関する協定を締結。 これにより2017年度からの3年間、京都府内の認定子ども園、京都市内の市立・私立幼稚園および市営・民間保育園の職員を対象とした幼稚園教諭免許状の更新講習を本学で実施する。</p>	 <p>京都の幼児教育・保育施設と幼稚園教諭免許状更新の連携・協力協定を締結</p>
株式会社ビバ	2018年 3月	<p>本学と株式会社ビバは、教育連携および地域活性化事業の展開に関する協定を締結。株式会社ビバが指定管理者として運営を委託されたスポーツ施設等において、学生の教育や共同研究等産学連携活動を行う。</p>	 <p>株式会社ビバとの連携に関する協定を締結</p>

協定（連携）先	締結日	締結事項	備考
福井県小浜市	2018年 3月	<p>本学と福井県小浜市は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域振興を担う人材育成に関すること ○地域社会の活性化およびまちづくりに関すること ○教育および学習機会の提供に関すること ○産業振興に関すること ○情報収集および発信に関すること ○その他、目的を達成するために必要な事項に関すること 	 <p>小浜市との包括協定を締結</p>
京都市 京都市児童館学童連盟 京都造形芸術大学	2019年 1月	<p>本学と京都市、京都市児童館学童連盟、京都造形芸術大学は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童館等において実施する職業体験事業への大学生の派遣 ○学生ならではの発想や行動力を活かした児童の健全育成活動全体の活性化 ○大学生等の知識・技術の向上、人材育成 等 	 <p>京都市児童館等との職業体験に関する4者協定を締結</p>
京都薬科大学	2019年 3月18日	<p>本学と京都薬科大学は医学専門職の養成および医学分野における教育研究の発展をめざし、包括協定を締結。その協定に基づき、合同多職種連携教育（[IPE]）を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療専門職の養成および医療分野における教育の発展に関する事項 ○学生および教職員の交流に関する事項 ○京都市山科区を中心とした地域連携に関する事項 ○医療分野における共同研究に関する事項 ○学内施設：設備の共同利用に関する事項 ○その他必要と認められる事項 	
守山市	2019年 7月	<p>本学と守山市は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他必要と認められる事項 	 <p>守山市との包括協定を締結</p>
イオンタウン株式会社	2019年 11月	<p>本学とイオンタウン株式会社は、同社が開業するイオンタウン山科榎辻において、それぞれが有する資源を有効活用し、地域の活性化、教育研究、生涯学習、文化および産業の振興、人材育成等において相互に連携・協力し、相互の発展および地域社会の発展に寄与することを目的に、主に次に掲げる事業の企画の企画、実施等について連携し、協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の活性化に関する事業 ○教育研究に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○人材育成に関する事業 ○その他必要と認められる事業 	

VII

教員の活動実績等



■ 教員の活動実績等

2019 年度 学部・学科別活動実績

1 地域を対象とした研究活動

学部	学科	研究課題名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
文学部	歴史学科	共同研究 「洛東の文化資源」	増淵徹	京都市・ 洛東地域	京都府立京都学・歴史館の共同研究の一環として、洛東の歴史的遺産について調査・研究を実施している。
文学部	歴史学科	特定共同研究 「賀茂別雷神社文書の 調査・研究」	金子拓 (代表者) 久留島典子 高橋敏子 遠藤 基郎 大山喬平 宇野日出生 五島邦治 野田泰三ほか	賀茂別雷神社 (上賀茂神社) ならびに 京都周辺地域	東京大学史料編纂所の特定共同研究。賀茂別雷神社文書の分析を通じ、神事・祭祀、賀茂六郷の支配構造、京都周辺地域の社会・政治構造を解明することを目的とする。
文学部	歴史学科	近世初期の宮廷社会に 関する研究	尾下成敏	京都市	近世初期における公家女性の宮中への女房つとめを材料に、仕出の契機、目的、意義について多面的に研究した。
文学部	歴史学科	恭仁宮に関する研究	増淵徹	木津川市	恭仁宮・京の造営に関して、その政治史上の位置づけを目的に研究している。
文学部	歴史遺産 学科	湖西地域の首長系譜分析	中久保辰夫	高島市	高島市に所在する古墳群（南畑古墳群、坪戸古墳群）の測量調査及び出土品整理作業。
文学部	歴史遺産 学科	播磨東部の首長系譜分析	中久保辰夫	三木市	三木市に所在する野々池7号墳出土品の整理作業と築造時期の研究。

発達教育 学部	児童教育 学科	表現遊びから音楽づくり の分野への幼小接続につ いての共同研究	佐野仁美	宝塚市	2020年2月に宝塚市立仁川幼稚園にて、表現遊びについての実践の提案を行い、3月2日の園内研究会にて実践の参観、まとめや助言を行う予定である。科研費基盤Cにもとづく研究の一環でもある。
------------	------------	---------------------------------------	------	-----	--

現代ビジネ ス学部	経営学科	龍谷大学社会科学研究所 合同研究会「地域を支える 中小企業—その振興をど のように進めるか—」	岡田知弘	京都市	龍谷大学社会科学研究所合同研究会主催の左記シンポジウムにおいて、基調報告を行い、白須龍谷大学教授（前・京都市産業政策監）のコーディネートの下に、五味京都市地域企業課長、荻原中小企業家同友会専務幹事とともにパネルディスカッションし、京都市の中小企業の現状と振興課題について議論した。
現代ビジネ ス学部	経営学科	砺波散村地域研究所研究 プロジェクト「21世紀の 砺波平野と黒部川扇状地」	岡田知弘	富山県砺波市	砺波散村地域研究所の金田章裕所長が主催するプロジェクトにおいて、砺波散居村地域における農業構造の長期的変化を研究、発表、そして共著「21世紀の砺波平野と黒部川扇状地」として出版した。
現代ビジネ ス学部	都市環境 デザイン 学科	ライカム交差点交流オア シス整備事業に関する表 現研究	北村義典	沖縄県北中城村	北中城村の魅力伝えるられるような景観形成を図るため、ライカム交差点の道路残地を活用した環境デザインを竣工した。
現代ビジネ ス学部	都市環境 デザイン 学科	地域自立の社会学	山岸達矢	全国	地域社会学会の研究委員会委員として、地域社会学会本大会でのシンポジウムを開催した。
現代ビジネ ス学部	都市環境 デザイン 学科	都市空間形成の公共性を 支える事業性—再開発の 論理とリノベーションの 論理—	山岸達矢	全国	地域社会学会で、再開発とリノベーションを通じた都市空間の再編に向けた論理を比較しそれぞれの関係と課題について学会発表した。
現代ビジネ ス学部	都市環境 デザイン 学科	NPOと自治体による協働 の課題—新しい公共条例 に関わるNPOの担い手意 識に着目して—	山岸達矢	神奈川県大和市	NPOと自治体による協働の課題について、神奈川県大和市の新しい公共条例に関連する市民団体へのアンケート調査と聞き取り調査に基づいて論じた。『都市・地域政策研究の現在』の1章分として出版された。

看護学部	看護学科	高齢夫婦のみの世帯の ソーシャルキャピタルの 醸成に関する予備調査	松本賢哉 堀妙子 伊藤弘子 川村晃右 竹中友希 田邊幹康 十倉絵美 木村知紗	安楽学区・ 山階学区	夫婦のみで生活する高齢者の現状を把握するとともに、プログラムの主軸となる社会活動に関するニーズを調査
------	------	---	---	---------------	--

健康科学部	心理学科	世界エイズデー・メモリ アル・サービスのボラン ティア育成	仲倉高広 中川由理 菱田一仁	近畿	共同研究「HIV陽性者におけるThird Placeの実態と心理学的影響について」の一環としてHIV感染症にかかわるボランティア育成を行った。事前研修を行い、その成果として第33回エイズ学会で催される第9回世界エイズデー・メモリアル・サービスでのボランティア実践を行った。
健康科学部	心理学科	地域における発達障害の 方および家族への支援に 関するニーズの把握と支 援方法の検討	大久保千恵 米田孝司 (臨床検査学科) 内堀恵美 (臨床検査学科)	京都・滋賀・ 奈良	レジリエンスプロジェクト研究の子育て支援システム研究の一環として、保護者の方を対象とした支援についてのニーズ調査および年齢期のお子さん対象のサポートグループ「みんなのこころ育て広場」を実施した。「みんなのこころ育て広場」は今年度は3回開催し、活動前後に注意力・バイオマーカーなどの測定を行いその比較を行った。

学部	学科	研究課題名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
健康科学部	心理学科	子どもの居場所づくりからはじめるソーシャルスキル開発「ソーシャルキャピタルとしての居場所の機能の検討と子どものレジリエンスをはぐくむプログラム開発」	大久保千恵 石山裕菜 米田孝司 (臨床検査学科) □野隆史 (児童教育学科) 小辻寿規 (都市環境デザイン学科) 森枝美 (児童教育学科)	山科区・伏見区	レジリエンスプロジェクト研究のCOMMONスペース活用研究の一つとして、「しゅくだいかたづけ隊」を結成し、山科青少年活動センターおよび本学において、夏休みの宿題支援を行うとともに、児童生徒のメンタルヘルスに関わる支援を行った。今年度は新たに自由研究のための科学実験を企画し実施した。
健康科学部	理学療法学科	軽度認知障害者及び早期アルツハイマー病患者の生活機能障害の障害メカニズムの研究	小田桐匡	近畿圏	昨年度明らかとなった、軽度認知障害者の微細な生活機能障害について、そのメカニズムの解明を目的に視線行動の分析を行った。具体的には、先行注視と呼ばれる視空間性ワーキングメモリの指標と考えられるものの変化について眼球運動データをもとに調べた。結果は、その絶対数はブルー間(軽度認知障害者、早期アルツハイマー病患者、健常高齢者)において差を認めなかった。しかしながら、先行注視の定性分析から、軽度認知障害者や早期アルツハイマー病患者はエラーとの関わりが印象的であった(定性分析より)。そこで、エラーと先行注視の個人内相関を算出しグループ間で比較したところ、有意に早期アルツハイマー病患者群が健常群よりも高かったことが判明した。このような事実から、軽度認知障害のような認知障害の超早期においては、生活機能障害の発生にワーキングメモリの影響は無いことが考えられた。他方、早期アルツハイマー病に至る認知障害の進行段階では、絶対的なワーキングメモリの容量よりも、質的な変化が先に生じてエラーとなることが予想された。したがって、アルツハイマー病に至ると、意味情報へのアクセス過程において障害が起こっている可能性が考えられた。
健康科学部	理学療法学科	脳血管疾患後遺症者の自動車運転再開評価に向けた研究	小田桐匡	京都市内	2018年度から行っている脳血管疾患後遺症者の科学的な運転再開評価方法の確立に向けた研究の継続である。今年度は損傷半球別の影響について、空間性注意障害の視点から分析を行った。約20分の路上運転コースの中から、10か所のコースをピックアップし、左右半球別に注視回数について比較を行った。結果は、右半球損傷者の注視回数(回/秒)が特に左方向で健常群よりも少ないことが判明した。今回の後遺症者は、院内の認知機能検査において左半側空間無視がなく、運転に問題が無いと判定された対象である。にもかかわらずこのような事態が生じたことは、運転行動中に注意障害が前景化する可能性を示唆した。また注視回数の減少程度は毎秒0.5～1回の割合で、直線コースも右左折も共通していたことから、事故予防の観点でさらに研究することが必要であると考えている。
健康科学部	理学療法学科	転倒予防リスク高齢者に関する調査および実証実験	兒玉隆之 他2名	愛知県常滑市・山科区	本研究は、安全な自動運転バスの開発の基礎データとして実施した。転倒リスクのある高齢者のバスの乗り降り動作およびバランス能力を測定することで、バスの乗り降り動作時に転倒リスクのある高齢者を判定できるシステムを開発に役立てる。また、バス発車時の高齢者のバランス制御を測定することで、安全な発車方法について検討した。 研究目的は転倒に関連した自己効力感と実際のバランス能力との関連性を示すことである。さらに、高齢者のバス乗り降り動作およびバス発車時のバランス制御を測定することで安全な自動運転バスの開発に役立てる。 研究内容は①日常生活動作への主観的な自信と転倒経験やつまづきの有無などの主観的評価(地域在住高齢者約200名)を調査した。②バランス評価、バスへの乗り込み動作の動作分析、床の側方移動課題時のバランス制御に関する神経生理学的応答(脳波、筋電図、動作解析)などの客観的評価(約18名)を行った。
健康科学部	作業療法学科	山科団地の活性化に向けたプロジェクト	小川敬之 原田瞬 川崎一平 永井邦明	山科団地	京都市と連携し、山科団地の活性化に向けた意見を集約するために、全棟にアンケート調査を行った。分析結果は2月に報告する予定である。
健康科学部	臨床検査学科	京都府下の河川における抗菌薬耐性菌の分離状況とその分子生物学的解析	中村竜也 藤原麻有	京都府下	京都府下の河川から薬剤耐性菌の分離調査を行い、現在ヒトで問題となっている耐性菌の検出を確認した。それを、たとえば教養講座や学会等で発表した。

2 社会貢献活動

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
国際英語学部	国際英語学科	第63回勉強会「英語の教え方教室」	中井弘一	関西	3名	中高英語科教員を対象として、「小・中連携を意識した英語教育」茨木市立東雲中学校 北川章子教諭の発表を基に討論・検討する勉強会を実施
国際英語学部	国際英語学科	第64回勉強会「英語の教え方教室」	中井弘一	関西	なし	中高英語科教員を対象として、「書くことが苦手な生徒への段階的ライティング指導の工夫」滋賀県立高島高等学校 高山真愛子教諭の発表を基に討論・検討する勉強会を実施
国際英語学部	国際英語学科	第66回勉強会「英語の教え方教室」	中井弘一	関西	なし	中高英語科教員を対象として、「生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」の取り組みについて奈良県立登美ヶ丘高等学校 池田恵教諭の発表を基に討論・検討する勉強会を実施
国際英語学部	国際英語学科	兵庫県立姫路飾西高等学校特別講義	中井弘一	兵庫県姫路地域	なし	姫路飾西高等学校から講師依頼を受け「思考力の育成ーディベートの発想を通して」というテーマで国際コース40名の生徒に特別講義を行った
国際英語学部	国際英語学科	兵庫県立加古川西高等学校特別講義	中井弘一	兵庫県姫路地域	なし	加古川西高等学校から講師依頼を受け「思考力の育成ーディベートの発想を通して」というテーマで2年生45名の生徒に特別講義を行った

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
国際英語学部	国際英語学科	兵庫県立生野高等学校特別講義	中井弘一	兵庫県姫路地域	なし	生野高等学校から講師依頼を受け「Speaking活動からディベート思考力の育成」というテーマで2年生65名の生徒に特別講義を行った
国際英語学部	国際英語学科	令和元年度教職員研修 寝屋川市総合教育研修センター	中井弘一	寝屋川市	なし	寝屋川市教育委員会から寝屋川地域の小・中学校での授業にディベートを取り入れるための講習講師の依頼を受け寝屋川市小中教員40名に「ディベートによる思考力の育成」というテーマで参加型の講習を行った。
国際英語学部	国際英語学科	第34回兵庫県高校生英語スピーチコンテスト 阪神大会の審査委員長	中井弘一	兵庫県阪神地区	なし	阪神地区の高校生英語スピーチのチーフジャッジを行い、地区の代表を選定
国際英語学部	国際英語学科	第36回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト京都府予選大会	中井弘一	京都府	なし	全国商業高等学校英語スピーチコンテスト京都府代表を決めるコンテストでチーフジャッジ
国際英語学部	国際英語学科	第36回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト大阪府予選大会	中井弘一	大阪府	なし	全国商業高等学校英語スピーチコンテスト大阪府代表を決めるコンテストでチーフジャッジ
国際英語学部	国際英語学科	第14回全国高等学校英語ディベート大会	中井弘一	全国	なし	全国大会の招請メインジャッジの一人として活動
国際英語学部	国際英語学科	山科警察署「英語講座」	アングス、ノーマン	山科警察署	8名	一昨年度から始めた、京都橋大学と京都府山科警察署間の包括協定に基づく警察職員への英会話講座は、好評につき2019年度も実施した。京都橋大学と山科警察署との包括協定のもとで昨年度の秋から府警の教養課国際通訳センター作の教材「おもてなし英会話教本」を教材にした10回の英会話講座(ESP=English for Special Purposes 専門性のある英語)を行った。今年度から学科の帰国生8名が担当に当たった。
国際英語学部	国際英語学科	たちばな教養講座第2回	エリス、メグ 佐久間浩司	京都市	なし	「観光を通じた“ディープな”ラーニング」をテーマに講演した

文学部	歴史学科	女性歴史文化研究所 シンポジウム「近代ヨーロッパにおける女性の社会進出ーイギリスとフランスの事例からー」	松浦京子 渡邊和行	京都市	あり	「近代ヨーロッパにおける女性の社会進出ーイギリスとフランスの事例からー」と題したシンポジウムにおいて、渡邊が司会及びコーディネーター、松浦が講師を務めた。
文学部	歴史学科	文学部歴史文化ゼミナール2019 京都・人とモノの再発見	永井和 増淵徹 野田泰三 一瀬和夫 (歴史遺産学科) 野村倫子 (日本語 日本文学科)	京都市	あり	文学部企画の京都をテーマとした連続講座。学科としては、永井は講演「西園寺公望と京都」の講師、増淵・野田は相国寺での講演の司会および見学案内を担当した
文学部	歴史学科	京都橋大学・那智勝浦町観光協会共催「熊野学講座」	田端泰子 (客員教授)	那智勝浦町	なし	北条政子の熊野参詣をテーマに講演を行った。
文学部	歴史学科	市民講座の運営	野田泰三	京都市	なし	京都勤労者学園(ラポール京都)の日本史講座世話人として講座の企画に参画。講義を1回担当した。
文学部	歴史学科	賀茂社史料叢書の編纂	野田泰三	上賀茂神社	なし	賀茂社史料集編集委員・同編集委員として史料集編集に従事
文学部	歴史学科	京田辺市史の編纂	野田泰三	京田辺市	なし	京田辺市史編集委員として、市史の編纂活動・史料調査に従事
文学部	歴史学科	摂津市史の編纂	野田泰三	摂津市	なし	摂津市史編集委員として、市史の編纂活動・史料調査に従事
文学部	歴史学科	山科区の歴史書の編纂	細川涼一 野田泰三 後藤敦史 増淵徹	京都市山科区	なし	山科区役所・山科経済同友会との協議のもと、歴史遺産学科・現代ビジネス学部経営学科の教員とともに、区民を対象にした山科区域の歴史の解説書を執筆(田端客員教授参加)
文学部	歴史学科	たちばな教養講座第1回	細川涼一	京都市	なし	「後白河院の山科御所と女性」をテーマに講演した
文学部	歴史学科	宇治市民大学講座	増淵徹	宇治市	なし	「平安中後期の貴族社会」をテーマに連続5回の講座を実施する(～2020年度)
文学部	歴史学科	自治体の文化財行政への協力	増淵徹	京都市・宇治市 ほか	なし	各自自治体の史跡・名勝関係の保存活用計画・整備計画及び地域計画の策定と実施において協力している(京都府下5市をはじめ4県・16市町)。
文学部	歴史遺産学科	みき歴史資料館企画展「細川・口吉川の遺跡」特別講演会	中久保辰夫	三木市	なし	2019年7月28日に「口吉川・黄金塚古墳の被葬者像ー古墳から中央と地域政治史をよむー」と題する口頭発表。
文学部	歴史遺産学科	吉川町まちづくり協議会主催 第2回歴史ふれあいハイキング	中久保辰夫	三木市	なし	吉川町まちづくり協議会主催 第2回歴史ふれあいハイキングにて講師(10月27日)
文学部	歴史遺産学科	ワークショップ「京都で学ぶ学生が考える京都歴史文化施設のつながり」の開催	中久保辰夫	京都市	3回生5名、大学院生1名	京都歴史文化施設クラスター実行委員会と協働し、2020年1月12日(日)に京都市考古資料館にてワークショップの実施
文学部	歴史遺産学科	拝戸古墳群調査報告会の実施	中久保辰夫	高島市	2回生1名	2020年1月13日(日)に拝戸古墳群調査の報告会を拝戸草ノ根ハウスにて開催。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
発達教育学部	児童教育学科	たちXパル	顧問 口野隆史	山科区小学校 琵琶湖「OPAL」	40名	「たちXパル」のメンバーが、山科区内の大宅・大塚小学校の子どもたちを琵琶湖畔の「OPAL」まで引率し、そこでカヌー体験、水鉄砲、スイカ割り、鞆（よし）を用いた工作、レクリエーションなどの指導を行った。子どもたちは、琵琶湖の自然の魅力を味わい、他の小学校の生徒と交流した。学生らは子どもたちの野外活動の指導について体験的に学んだ。今回は子ども数が少なかった。2019年8月7日実施
発達教育学部	児童教育学科	げんK ids★応援隊	顧問 倉持祐二	山科・草津市・ 京都市	延べ約120名	学内外で19の企画に参加し、活動を行った。山科区内では、こどもフェスタ 本願寺山科別院、石田小学校・やんちゃワールド、勤修小学校夏祭り、山科区内の各自治会の地蔵盆、山科区保育園まつり、勤修ふれあいの集い、小野幼稚園のバザー、山科おやじフェスタ、勤修小学校もちつき大会に参加した。また、京都市内の取り組みとして、伏見港まつりにも参加している。学内では、昔あそび・水遊び・スポーツ大会・クリスマスなどの企画を実施した。草津市の取り組みとして、草津宿場まつり、草津市de愛ひろばに参加した。地域の子どもや保護者が相互に交流を深めるきっかけを生み出すことを目的に活動している。また、活動を通して、学生たちは企画の運営や子どもとの関わり方などを学んでいる。

現代ビジネス学部	経営学科	丸亀市産業振興推進会議	岡田知弘	香川県丸亀市	なし	丸亀市産業振興条例によって設置された市産業振興推進会議会長として、同市の産業振興に関わる建議をまとめたり、産業振興基本計画の進捗管理の議論を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	姫路市史編集専門委員会	岡田知弘	兵庫県姫路市	なし	兵庫県姫路市の市史編集事業に関わり、現代史料編および年表・索引づくりの仕事を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	三重県史編集委員会現代部会	岡田知弘	三重県	なし	三重県史近現代部会の編集委員として、三重県史通史編現代の編集・刊行を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	兵庫県自治研修所講師	岡田知弘	兵庫県	なし	兵庫県自治研修所が実施する管理職（課長級）研修で講師を担当した。
現代ビジネス学部	経営学科	保険者機能強化に向けた兵庫県による市町支援に係る有識者会議	岡田知弘	兵庫県	なし	高齢者保健制度の改善のための有識者会議で、アドバイザーとしての仕事をした。
現代ビジネス学部	経営学科	総務省自治大学校講師	岡田知弘	全国の都道府県、 市町村	なし	総務省の自治大学校において、2度にわたり「地域産業政策」をテーマにした研修講師を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	砺波散村地域研究所運営協議員	岡田知弘	富山県砺波市	なし	砺波市市立山村地域研究所の運営協議ととともに、講演、出版活動に従事した。
現代ビジネス学部	経営学科	京都学・歴史館 海外若手研究員受入に係る意見聴取会議	岡田知弘	京都府	なし	京都学・歴史館が実施する海外若手研究員受入に関わる業績審査を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	京都市「東山の未来」区民会議	岡田知弘	京都市東山区	なし	東山区の基本計画を見直す区民会議の議長を務めた。
現代ビジネス学部	経営学科	山科区地域福祉推進委員会	高原正興	京都市山科区	なし	同委員会委員として第4期地域福祉活動計画の策定について知見を提供して、同計画の策定に貢献しているところである。
現代ビジネス学部	経営学科	山科区スマートフォンアプリ運営協議会	阪本崇	京都市山科区	なし	山科区が開発し、区民向けに配信しているスマートフォンアプリ「やましなプラス+」の運営方針について協議する「山科区スマートフォンアプリ運営協議会」に副会長として参加し、第1回運営協議会に出席し、アプリの運用方針について意見交換を行うなどした。
現代ビジネス学部	経営学科	山科区民まちづくり会議	阪本崇	京都市山科区	1名	「第2期山科区基本計画」に基づく取組の実施計画及び進捗評価や、「心豊かな人と緑の“きずな”のまち山科」の実現に向けた山科区の今後のまちづくりについて、区民・地域団体・NPO団体・事業者・大学・行政等を背景にもつ委員が参加する「山科区民まちづくり会議」に座長として参加し、会議のコーディネートを行った。
現代ビジネス学部	経営学科	本学総合研究センター主催レジリエンス・シンポジウム「京都が京都であり続ける社会の創造にむけて」	岡田知弘 平尾毅	京都市	161名	災害に備えて、持続可能な京都をつくるために、産官学が、それぞれの立場でいかなる取り組みが必要かを、藤井聡京大教授に基調講演をお願いしたうえで、平尾がコーディネーターとなって、岡田、および藤田前京都市長、明致CSR推進協議会会長がパネラーとなって報告、討論した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「ルシオール・フェスティバル」の運営	木下達文	滋賀県守山市	16名	守山市による音楽によるまちづくり支援を行う。今年度は、3回生ゼミ生を運営に参加させ、新しい施設を使った運営の実権を行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	守山市文化振興アクションプラン策定協力	木下達文	滋賀県守山市		来年度に向けた第2期目の守山市文化振興アクションプランの策定協力を行う。副委員長として参加。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「やましな山科駅前陶灯路」の運営	木下達文 小辻寿規	京都市山科区	約30名	駅前諸団体および大学が共同して行うイベント。今回は台風で中止となったため、基本的な企画設計と準備・後処理作業を行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	山科検定の運営協力	木下達文	山科区		山科区が実施するご当地検定の全体計画についての助言等を行う。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	草津市文化振興基本計画重点プロジェクト策定協力	木下達文	滋賀県草津市		草津市が昨年度作成した文化振興基本計画に基づく重点プロジェクトの策定協力を実施。委員長として参加。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	大庄屋諏訪屋敷運営懇談会協力	木下達文	滋賀県守山市	なし	守山市に開館した古建築の文化施設公の今後の運営に関する。委員長。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	京都駅大階段駆け上がり大会への協力	木下達文	和歌山県那智勝浦町	10名	例年京都駅で行われるイベントへの協力。大会参加および地域観光PR協力。今年度は走者を学内より公募することにより、広く学内広報を意識した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	安土城再建プロジェクト協力	木下達文	近江八幡市	なし	近江八幡市安土町において取り組まれている安土城再建プロジェクトを実施する「安土城再建を夢見る会」の運営サポートを中心に行う。顧問として参加。滋賀県立安土城考古博物館運営懇談会委員。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	滋賀県内における博学連携事業への協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県の文化政策（主に博学連携事業）を担う中間支援組織「滋賀次世代文化芸術センター」の事業協力を行う。理事。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	京都市住宅審議会	松本正富	京都市	なし	公営住宅と民間賃貸住宅におけるセーフティネットの在り方についての審議会に委員として参加し、答申の取りまとめに協力した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	やましなGOGOカフェの運営デザイン	小辻寿規	山科区	7名	山科区が実施する区民交流イベントに関する企画・運営の協力。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	文化芸術による地域貢献プロジェクト	小辻寿規	公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団・京都市東部文化会館	5名	京都市音楽芸術文化振興財団のアウトリーチ活動に参加し、提案を行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	醍醐中山団地陶灯路	小辻寿規	醍醐中山団地	約50名	学生会であるまちづくり研究会が醍醐中山団地と連携して、学まちコラボの助成金を獲得し、中山団地で清水焼の絵付け体験や陶灯路を実施した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	京都市北区民まちづくり提案支援事業協力	小辻寿規	京都市北区	なし	北区民まちづくり提案支援事業の審査員として北区におけるまちづくり活動の審査を行なった。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	京都府生涯学習協力	小辻寿規	京都府	なし	京都府生涯学習審議会委員として、京都府の生涯学習について審議。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	“京都を彩る建物や庭園”審査協力	小辻寿規	京都市	なし	“京都を彩る建物や庭園”審査会委員として、京都を彩る建物や庭園の審査を行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	2019年度全沖縄戦没者追悼式典会場のデザイン協力	北村義典	沖縄県	なし	沖縄県の要請により、2019年度全沖縄戦没者追悼式典会場のデザインを提供した。式典には首相、衆参両議長、関係大臣等が出席した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	沖縄県工芸産業パワーアップ事業参加協力	北村義典	沖縄県	なし	沖縄県の要請により、沖縄工芸パワーアップ事業へ学識経験者として参加協力した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	こだわり市場プロジェクト	谷口知司	京都市	約25名	こだわり市場ホームページならびに冊子の運営及び制作。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	修学旅行プロジェクト	谷口知司	京都市	約30名	おいでやす京都ホームページに関する取材および運営。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	洛和会ヘルスケアシステムと連携した高齢者ツーリズム	谷口知司	京都市	約20名	洛和会ヘルスケアシステム介護事業部と連携して、こだわり市場冊子を利用した高齢者向けツアーを企画し実施した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	山科VRマッププロジェクト	谷口知司	京都市山科区	約15名	山科区の寺社仏閣を中心とした観光資源をVRマップにし、配布した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	たちばな教養講座第3回	河野良平	京都市	なし	「京都のモダニズム建築」をテーマに講演した

看護学部	看護学科	第15回たちばな健康相談	社会貢献WG (黒瀧安紀子 梶谷佳子 石井美由紀 長尾匡子 マルティネス真喜子 宗由里子 下田優子 佐野真樹子 平井亮 岩崎由美子 定森千賀 山本亜衣)	京都橘大学	あり	大学祭の時に、教員と学生ボランティアで、身体計測、健康相談、骨密度測定等を実施している。今年度で第15回の実施になった。参加者は305名であった。
看護学部	看護学科	出張たちばな健康相談 in 醍醐中山団地(7/20)	社会貢献WG (黒瀧安紀子 梶谷佳子 宗由里子 佐野真樹子 岩崎由美子 定森千賀 山本亜衣)	京都市伏見区	あり	学園祭時のたちばな健康相談の出張版。醍醐中山団地集会所で実施した。参加者は18名であった。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
看護学部	看護学科	出張たちばな健康相談 in 醍醐中山団地 (2/1)	社会貢献WG (石井美由紀 長尾匡子 マルティネス真喜子 下田優子 平井亮 鷺見舞)	京都市伏見区	あり	学園祭時のたちばな健康相談の出張版。醍醐中山団地集会所で第2回目を実施。
看護学部	看護学科	出張たちばな健康相談 in イオン山科柳辻店 (1/7)	社会貢献WG (長尾匡子 マルティネス真喜子 宗由里子 下田優子 佐野真樹子 平井亮 岩崎由美子 定森千賀 山本亜衣)	京都市山科区	あり	学園祭時のたちばな健康相談の出張版。参加者は80名強であった。
看護学部	看護学科	公開講座	社会貢献WG (長尾匡子 宗由里子 下田優子)	京都橘大学	あり	地域の方々の健康について見つめなおし、健康維持の参考となることを目的に、京都笑歌健塾(旧京都笑科大学) 人間光楽部長の笠井正樹先生をお招きし、「笑いと健康」～生活の中でのユーモアあれこれ～について講演していただいた。
看護学部	看護学科	介護事業所における災害対策研修	黒瀧安紀子	ひだまりの家 小野	なし	大宅地域包括圏域主任ケアマネジャー主催学習企画で、災害看護研修を行った。災害発生時に、支援者、利用者にとり起こるうこと、今からできる災害への備えについて講義とグループワークを行った。
看護学部	看護学科	女性の依存症者の回復 支援セミナー	小西奈美	主に近畿圏内	なし	主に京都市内における女性の依存症者の回復支援を目的に結成した、当事者や依存症回復支援施設職員、行政や法務省関連職員、カウンセラー、教員など多職種による「京都女性の回復を支援する会」メンバーとして2019年6月「依存症とセルフケア」セミナーを実施。90名程度の参加があった。
看護学部	看護学科	女性の依存症者の回復 支援学習会	小西奈美	主に京都市内	なし	主に京都市内における女性の依存症者の回復支援を目的に結成した、当事者や依存症回復支援施設職員、行政や法務省関連職員、カウンセラー、教員など多職種による「京都女性の回復を支援する会」メンバーとして、合計6回/年(10数名/回の参加)セルフケアに関するワークショップを行った。
看護学部	看護学科	がんサバイバーへのオン コロジータッチセラピー	小西奈美	主に京都市内	なし	毎月2回開催されている、がんサバイバーやその家族、支援者のコミュニティにおいて、4月、7月、10月、2020年2月にタッチセラピー(30分程度/人)実施。
看護学部	看護学科	更生保護施設における 少女の居場所づくり事業	小西奈美	京都府南丹地域 以南	なし	京都府「少女の居場所づくり業務」委託事業のなかの相談業務を担当した。対象者は1名であった。
看護学部	看護学科	やましな子育て支援連 絡会	常田裕子	山科区	なし	6月7日に開催された会議に参加し、当該年度の事業計画および山科区内の他団体の取り組みについて、情報共有を図った。
看護学部	看護学科	京都市山科区要保護児 童対策地域協議会	常田裕子	山科区	なし	京都市における児童虐待相談・動向に関する報告を加盟団体で共有した。
看護学部	看護学科	いちごカフェ	長尾匡子 田邊幹康 竹中友希 深山つかさ	山科区	ボランティア 2名	老人保健施設いわやの里において、毎月1回の「いちごカフェ」を開催している。いわやの里の利用者、介護をしているご家族、地域の方など参加いただいた。
看護学部	看護学科	次世代育成看護研究会	上澤悦子 神崎光子 常田裕子 宗由里子 兵藤絵美 前田絢子	関西地区	なし	周産期医療に関わる看護職を対象に、看護職者自身のエンパワーメントを支え、社会の要請に応えられる看護の質向上を目指し公開研修会を開催した。「発達障害をもつ親の子育て支援」「麻酔分娩の管理」「後輩育成のための教育的スキル」の計3回実施し、のべ97名の参加があった。
看護学部	看護学科	第16期小児在宅ケア コーディネーター研修 会	奈良間美保 堀妙子 伊藤弘子 山本亜衣 定森千賀 岩崎由美子	全国	4回生6名	2003年から毎年開催している、小児在宅ケアコーディネーター研修会を、今年度より京都橘大学で実施している。研修会は半年間で全3回開催している。今年度は54名の参加があった。
看護学部	看護学科	出張たちばな健康相談 in イオンタウン山科柳 辻 (1/7)	松本賢哉 堀妙子 長尾匡子 鷺見舞 岩崎由美子	山科区	4回生5名	12月にオープンした、イオンタウン山科柳辻店において、健康相談を行った。内容は、骨密度、脳年齢、血管年齢、血圧測定、健康相談であり、76名の参加があった。
看護学部	看護学科	はなたちばなの会	堀妙子 城之内美恵	山科区	学生数名	山科区在住の高齢者を講師として迎え、作品の制作を行っている。今年度は4回開催した。
看護学部	看護学科	京都ライトハウス祭り	征矢野あや子 竹中友希 城之内美恵 餅田敬司	北区	3回生50名	視覚障害者の理解を一般市民に普及させるための活動を視覚障害者団体と実施した。
看護学部	看護学科	アイラブフェア	征矢野あや子 石井美由紀 黒瀧安紀子 長尾匡子 餅田敬司	山科区	3回生名39名	視覚障害者の理解を一般市民に普及させるための活動を視覚障害者団体と実施した。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
看護学部	看護学科	福祉用具フェア	餅田敬司 田邊幹康 竹中友希 宗由里子	山科区	なし	福祉用具展示会ならびに介護予防健康イベントの来場者に健康チェックの機会として、本学は骨密度測定と血管年齢と血圧測定を行った。
看護学部	看護学科	たけネット (竹田はつつ健康)	餅田敬司 松本賢哉	山科区	なし	介護予防健康イベントの来場者に健康チェックの機会として、本学は骨密度測定と血管年齢と血圧測定を行った。
看護学部	看護学科	京都市上京区保健師研修会	石井美由紀	京都市上京区	なし	京都市上京区の保健師研修会において、キャリア形成に関する研修を行った。マンガラ・チャートを用いたグループワークにより、保健師としての基軸を見つめなおすとともに参加者相互の交流促進の機会とした。
看護学部	看護学科	看護国際フォーラム 2019「ケアリングとテクノロジー～看護の未来を考える～」	河原宣子他	京都市	14名	「ケアリングとテクノロジー～看護の未来を考える～」と題したフォーラムにおいて、河原が座長を務めた。
看護学部	看護学科	看護異文化交流・社会連携推進センターリカレント講座「高めよう実践力～看護実践の中で直面するブレメンへの対応～」	梶谷佳子他	京都市	なし	全5回開催。第1回「看護職にとっての倫理とは」をテーマに梶谷が講演した。他4回は、外部講師を招いて講演していただいた。

健康科学部	心理学科	(株)伊藤製作所のメンタルヘルス	日比野英子 仲倉高広	山科区	なし	伊藤製作所の従業員約60名を対象に、メンタルヘルスのチェックとその結果のフィードバック、および希望者に対する心理面談を74名(延べ人数、2019年12月末時点)に行った。
健康科学部	心理学科	不登校児の支援ボランティア	菱田一仁 仲倉高広	兵庫県 但馬やまびこの郷 (不登校児童生徒の支援施設)	学生9名	不登校児童生徒対象とした4泊5日の集団宿泊体験活動に参加し、その活動を通して、不登校児童生徒の学校生活への適応や社会的自立に向けた支援を体験的に学んできた。また、この活動に参加する学生に対して、事前研修と事後報告会を実施し、その中で、複数の教員と対話することを通して、彼らの心理臨床学の体験的な学びをさらに深めるための作業を行った。
健康科学部	心理学科	京都橘大学社会人講座 ビジネスで活かせる心理学講座	前田洋光	京都市	なし	京都経済センターにて、「無意識の消費者行動：消費者の「五感」のもたらす影響を社会心理学から考える」の講座を行った。
健康科学部	心理学科	守山市大型商業施設における来街者調査の実施	永野光朗 白木優馬	草津市	学生5名	心理学科2回生科目「社会調査法(社会心理調査)」の履修者の中から参加者を募り、参加を希望した学生を中心に大型商業施設における来街者調査(守山市)を行った。150名分のデータが収集された。調査結果は守山商工会議所がすすめる小規模事業者経営支援計画に利用される予定である。
健康科学部	心理学科	草津市中心部における来街者調査の実施	永野光朗	草津市	学生13名	心理学科3回生科目「マーケティング調査演習」の授業の一環として、JR草津駅東口近辺への来街者の意識や実態を明らかにするための来街者調査を近辺の商業施設2店舗において実施した。計198名分のデータを収集した。2月12日に草津市において報告会を開催する予定である。分析結果は草津市中心市街地活性化のために利用される予定である。
健康科学部	心理学科	たちばなぼっくくらぶ	大久保千恵 森本誠司 原田瞬 (作業療法学科)	京都府・滋賀県	大学院生6名 学部生15名 (作業療法学科・心理学科)	洛和会音羽病院との連携のもと、発達障害のお子さんとその保護者に対する支援を行った。2019年度は、前期8回・後期8回の2クールを開催し、各クールとも2クラス制で実施した。子どもには作業療法学科の森本と原田が「うんどう遊び」を実施し、保護者には心理学科の大久保が「ペアレント・トレーニング」を実施した。
健康科学部	心理学科	パパとママのこころ育て広場	濱田智崇	京都市	院生6名 学部生6名	心理臨床センター主催事業。地域の未就学児とその保護者を対象に、土曜日の午前中、心理臨床センタープレイルームなどでグループ活動を行った。子育ての悩みを共有したり、臨床心理士からの助言を行ったりし、今年度は8回実施。学生はボランティアとして参加し、終了後のカンファレンスで、子どもの発達やかかわり方などについて学習した。
健康科学部	心理学科	山科保健センター 3歳児健診	濱田智崇	山科区	なし	山科保健センターが実施する3歳3ヶ月児健診において、心理相談を担当した。発達障害の疑いや、保護者に子育て不安のあるケースに個別対応し、必要に応じて本学心理臨床センターの情報を提供した。
健康科学部	心理学科	大宅イクメンパパの会	濱田智崇	おおやけ こども園	なし	大宅保育園主催の子育て支援講演会で講師を務めた。今年度は大宅イクメンパパの会として、3回実施した。
健康科学部	心理学科	こころなごみカフェ	岸太一 濱田智崇	醍醐中山団地	学生4名	醍醐中山団地内の本学地域連携センター分室・交流スペースにおいて、「こころなごみカフェ」を開催した。今年度は3回開催している。主に高齢者の住民と、心理学科の学生が語り合うことをメインとした内容であり、カウンセリングについて学んだ学生が、その傾聴スキルを実践で生かし、語りを受け止めることの心理的効果を実感する機会となった。
健康科学部	心理学科	臨床心理セミナー・事例検討会	松下幸治	京都・滋賀・ 大阪等	大学院生4名	心理臨床センター主催事業。臨床心理士や周辺領域の専門職を対象とするリカレント講座を1回実施した。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	心理学科	対人援助職セミナー	松下幸治	京都・滋賀・ 大阪等	大学院生 4 名	心理臨床センター主催事業。対人援助職を対象とし、職場の実践で役立つ臨床心理学を体験的に学ぶ機会を提供した。6回実施した。
健康科学部	心理学科	保育コンサルテーション	宮井研治 濱田智崇	山科区・草津市	なし	草津市立保育所・幼稚園・こども園合計 13 か園にて、統合保育に関するコンサルテーションを実施した。
健康科学部	心理学科	山科区保育園協会・ 京都橋大学心理臨床セ ンター共催統合保育を めぐる地域連携活動第 5 回「統合保育の現状 と地域連携」	宮井研治 濱田智崇	山科区	大学院生 6 名	統合保育を実践する保育士と、子どもの発達・保育・療育に関わる研究者ならびに地域の保健師が交流し、統合保育の現状への理解を深め、子育て支援をめぐる情報・経験を共有し、子どもの発達を支える地域連携の可能性を追究した。
健康科学部	理学療法 学科	野洲市在住高齢者の健康増進に向けた調査研究	村田伸 他 6 名	野洲市	20 名	306 名の野洲市在住の高齢者を対象に、握力や脚の筋力・足の把持力・バランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を実施した。その結果をまとめ、報告書として野洲市福祉センターに提供した。また、参加した高齢者に対しては、結果を自分自身がチェックできるようにレポートを提供した。
健康科学部	理学療法 学科	社会福祉法人みどり会 西七条保育園の評議 委員	小田桐匡	中京区	なし	2018 年度の左記保育園の経営計画の実施状況と、2019 年度の計画について審議する立場で参加している。
健康科学部	理学療法 学科	スポーツリハビリプロ ジェクト	横山茂樹	山科区(東山高 校グラウンド)	本学学生 39 名 高校生 52 名	山科区にある東山高野球部グラウンドおよび本学体育館において、高校野球部員 53 名を対象に身体組成や体幹筋力、ジャンプ力などの基礎体力および体幹・下肢関節の柔軟性とパドスイングスピードの計測を実施した。その結果を踏まえてスイング動作に必要な筋力や柔軟性の重要性を認識していただいた。さらに個別にトレーニング法についてアドバイスを行った。
健康科学部	理学療法 学科	守山市介護予防事業 「健康のび体操」の効果 検証	宮崎純弥 他 1 名	守山市	18 名	守山市在住の健康高齢者 20 名を対象に 9 週間「健康のび体操」を実施して頂き、その前後での身体機能を測定した。その結果、全ての測定項目で改善が認められ、参加者からは、今後も続けて行きたいとの声が多数聞かれた。
健康科学部	理学療法 学科	要介護高齢者を対象と した身体機能の測定	村田伸 他 2 名	大津市	8 名	2019 年 8 月に、大津市石山のデイケアに通う要介護高齢者 60 名を対象に、握力や脚の筋力・足の把持力・バランス能力・歩行速度など運動機能に関する項目と、体組成計による身体構造面に関する項目の測定、また認知機能検査や注意機能検査を実施した。その結果を踏まえて、対象者に結果を紙面・口頭でフィードバックし、自身の身体・心理機能に対する理解を深めてもらう機会となった。
健康科学部	理学療法 学科	たちばな健康体操運動 研修会	安彦鉄平	野洲市	なし	野洲市在住の転倒予防サポーターを対象に、たちばな健康体操 DVD の作成意義および体操の説明会を実施した。参加者からは、体操に取り組んでみようという好意的な意見が多かった。
健康科学部	理学療法 学科	たちばな健康体操運動 研修会	安彦鉄平	伏見区	なし	醍醐・深草区在住の高齢者約 20 名を対象に、たちばな健康体操 DVD の作成意義および体操の説明会を実施した。多くの方に、健康のためにも身体機能だけでなく認知機能も維持する必要があることをご理解いただいた。
健康科学部	理学療法 学科	醍醐・深草地区在住高 齢者の健康に向けた調 査研究「たちばな健康 体操」の効果検証	安彦鉄平 他 5 名	伏見区	20 名	70 名の醍醐地区在住の高齢者を対象に、握力やバランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を実施した。その後、「たちばな健康体操」についての研修会を 2 回行った。今後は、公園体操にたちばな健康体操を利用していただき、一年後に介入後の調査を行う予定である。
健康科学部	理学療法 学科	たちばな健康体操の 紹介	安彦鉄平	山科区	なし	花山中学校にて高齢者約 30 名を対象に、たちばな健康体操 DVD の作成意義および体操の説明会を実施した。多くの方に、健康のためにも身体機能だけでなく認知機能も維持する必要があることをご理解いただいた。
健康科学部	理学療法 学科	大宅児童館における子 どものロコモ調査およ びダンス指導	安彦鉄平 他 5 名	山科区	20 名	大宅児童館の小学生 90 名を対象に、身長、体重、骨格筋量、骨密度、握力、立ち幅跳び、反復横跳び、ボール投げ、上体起こしなどの身体機能に関する項目と運動への意欲や睡眠時間などの質問紙検査を実施した。学年が上がるにつれて、運動への意欲と体格への関連性が明らかになった。
健康科学部	理学療法 学科	知的好奇心をくすぐる 機能解剖勉強会	木村智子	大学近隣医療機関		今年度初めての試みとして、現職者を対象とした機能解剖勉強会を 2 回開催した。第 1 回は「上部体幹・下部体幹の機能解剖」、第 2 回は「骨盤・股関節の機能解剖」をテーマとし、座学に実技を交えながら実施した。多くの医療従事者が積極的に参加され、継続的な開催を希望する声が多く得られた。
健康科学部	理学療法 学科	わかあゆ呼吸ケア 研究会	堀江淳 他 5 名	大学近隣医療機関		全 4 回シリーズ+特別講演で実施した。第 1 回呼吸の解剖・生理、検査データの解釈、第 2 回慢性期呼吸器疾患患者のリハビリテーション、第 3 回急性期呼吸器疾患患者のリハビリテーション、第 4 回在宅酸素療法・非侵襲的人工呼吸療法(座学と実技)のテーマで開催した。毎年、多くの医療従事者の参加があり、近隣では「恒例行事」としての地位を確保しつつある。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	作業療法学科	RUN伴2019	川崎一平 永井邦明	京都市	なし	RUN伴2019に京都市実行委員として運営に携わった。RUN伴は、全国すべての町が、認知症になっても安心して暮らすことのできる地域になることを目指し、認知症の人と一緒に行うタスキリレーである。認知症の人が地域の人と出会うきっかけになったり、近所で顔見知りの関係ができてあがることで安心して外出できるよう、地域のあり方が変化することを目的として開催された。
健康科学部	作業療法学科	ものづくり教室 啓成館 G201	近藤敏 佐川佳南枝 川崎一平 永井邦明	京都市	8名	NPO法人シーズネットの会員と協力し、京都橘大学の実習室を活用して認知症予防を主目的とした「ものづくり教室」を開催した。70代から80代の高齢者中心に8名程度の参加者が集い、紙すきやクリスマスリース等の制作に関する指導を行った。京都橘大学の学園祭では、本学作業療法学科の学生と参加者の高齢者が共同で考案・制作した商品(アロマストーン)が販売された。
健康科学部	作業療法学科	ものづくり教室 なごやか広場	近藤敏 佐川佳南枝 川崎一平 永井邦明	いわたの森団地 醍醐石田団地	30名	いわたの森団地、醍醐石田団地の住民を対象に実施されている「なごやか広場」において、京都市伏見区役所醍醐支所と協力し、認知症予防を目的とした「ものづくり教室」を実施した。60代から80代の高齢者中心に20名程度の参加者があり、七宝焼きや革細工の制作方法を指導した。制作前には近藤教授から「革細工の歴史」等ものづくりの歴史についての講義が行われた。
健康科学部	作業療法学科	作業を通して元気になるう～作業療法の体験～	佐川佳南枝 川崎一平 永井邦明	老人保健施設 ライブラリ きぬかけ	20名	「老人保健施設ライブラリきぬかけ」において、地域住民を対象とした「ものづくり教室」を実施した。60代～70代の高齢者を中心に20名程度の参加者があり、教員と学生が七宝焼き制作の指導と補助を行った。また、参加者にはものづくりを通して、自己肯定感や人と人の繋がりを強化する作業療法の魅力についてレクチャーを行った。
健康科学部	作業療法学科	元気はつらつ フェスティバル	永井邦明	山科区役所	なし	山科区の地域住民を対象に行われた「元気はつらつフェスティバル」において、「認知症について～皆で予防し、支え合おう～」をテーマとする講義を行った。講義では認知症予防や認知症の方との接し方、地域共生社会の考え方について説明を行った。
健康科学部	作業療法学科	脳を健康に保つための 「ものづくり教室」	佐川佳南枝 平本憲二 川崎一平 永井邦明	大受団地 (京都市伏見区)	20名	醍醐団地自治会館において大受団地の住民を対象に、認知症予防を主目的とした「ものづくり教室」を実施した。60代～70代の高齢者を中心に20名程度の参加者があり、七宝焼きの制作に取り組んだ。制作前にはものづくりと認知症予防の関係について講義を行った。
健康科学部	作業療法学科	第6回認知症フレンドリー ジャパンサミット 2019 in 京都	小川敬之 原田瞬 川崎一平 永井邦明	京都市	17名	第6回認知症フレンドリージャパンサミット2019 in 京都実行委員会の実行委員としてサミットの企画・準備・運営を行った。サミットには本学作業療法学科の学生もボランティアとして加わり、会場設営の補助や、各演題のディスカッションに参加した。
健康科学部	作業療法学科	京都市介護認定審査会	永井邦明	京都市	なし	京都市の附属機関として設置され、要介護者等の保健、医療、福祉に関する学識経験者によって構成される合議体(京都市介護認定審査会)の委員として要介護度の審査・判定に従事した。
健康科学部	作業療法学科	京都府作業療法士会 生活 行為向上マネジメント アドバンス研修	永井邦明	京都府作業療法 士会	なし	京都府作業療法士の会員を対象に「作業療法士の臨床思考過程を示すためのツール」である生活行為向上マネジメントの活用に関する講義と演習を行った。
健康科学部	作業療法学科	大阪大学サマースクール	小川敬之 川崎一平 永井邦明	大阪大学	なし	台湾看護学生・大学院生(留学生15名)を対象に、国際協力に関する講義と日本における地域リハビリテーションの現状報告、日本における先進的な認知症ケアの実践報告を行った。
健康科学部	作業療法学科	人工知能学会2019 第13回コモンセンス 知識と情動研究会「作 業療法現場のナラティブ 理解」東京都日吉	川崎一平	慶應義塾大学	なし	人工知能学会2019の研究会において「作業療法現場のナラティブ理解」の題目のもと発表を行った。人工知能研究においては人の情動をどのようにマシンに反映させるのかが大きな課題であり、参加者からは作業療法のナラティブ・セラピーの考え方と実践事例について好評を頂いた。
健康科学部	作業療法学科	認知症ケア学会自主企 画「認知症から考える 多世代交流と地域共生 のための公共図書館と は」.	小川敬之 川崎一平 永井邦明	京都市	なし	2019年は京都が開催地となった認知症ケア学会において、自主企画として「認知症から考える多世代交流と地域共生のための公共図書館とは」の題目のもと、公共図書館で行われている認知症啓発及び、地域共生のための仕掛け作りを発表した。
健康科学部	作業療法学科	みんなの認知症情報学 会第2回シンポジウム	小川敬之 原田瞬 川崎一平 永井邦明	京都橘大学	6名	2019年12月、関西初となる「みんなの認知症情報学会シンポジウム」を本学で開催した。テーマは「みんなで創る関係性の見えるコミュニティ作り」であり、AIやIoT技術に携わる技術者から認知症ケアの最前線の現場で働く医療・介護職種など幅広い方々に参加して頂いた。
健康科学部	作業療法学科	京都ソリデール事業へ の関わり	佐川佳南枝 森本誠司 原田瞬 川崎一平 永井邦明	京都橘大学・ 京都府庁舎	なし	「京都ソリデール事業」とは、京都府住宅課が主として推進している、孤独な高齢者世帯と若者の「異世代ホームシェアリング」を実践し、近年新しい地域共生の形としてメディアなどからも注目を集めている。2019年12月に行われた「京都ソリデール座談会」へはコメンテーターとして佐川・川崎一平が参加した。異世代同居が高齢者世帯のヘルスプロモーション及び、若者の学びとして現れるインパクトの解明を目指し、京都橘大学作業療法学科内では研究チームを組織し、行政と連携して研究活動を進めている。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	作業療法学科	京都作業療法士会 現職者研修「日本と世界 の作業療法の動向」 講師	川崎一平	近衛リハビリ テーション病院	なし	京都府作業療法士の会員を対象に「日本と世界の 作業療法の動向」について講義と演習を行った。講義 の中では、自身の海外NGOで働いた経験を伝えなが ら、作業療法の動向だけでなく「作業療法士の国際協 力」についても話をした。
健康科学部	作業療法学科	国際英語学部 学生会「国際協力と は何か」講師	川崎一平	京都橘大学	あり	国際英語学部の学生会で講演を行った。内容は、青 年海外協力隊に参加した経験をもとに、国際協力分 野におけるキャリアの築き方や、実際の途上国の現 場の実情を話し、NGOでのボランティア活動実践な どを学生に伝えた。
健康科学部	作業療法学科	堺市教育委員会 自立 活動アドバイザー事業 外部専門家	原田瞬	大阪府堺市	なし	大阪府堺市教育委員会の事業で、市内の特別支援学 校、小中学校において、巡回相談という形態で、対 象児童の教科学習、自立活動の支援を行った。
健康科学部	作業療法学科	たちばなぼっくくらぶ	森本誠司 原田瞬 大久保恭子 (心理学科)	山科区	9名	心理臨床センターの事業として、発達に気になるお 子さんを対象に、感覚統合を基盤とした集団療育プ ログラムを実施した。
健康科学部	作業療法学科	山科団地の活性化に向 けたプロジェクト	小川敬之 原田瞬 川崎一平 永井邦明	山科団地	2名	京都市と連携し、山科団地の活性化に向けた意見交 換会、住民への意見聴取を実施。山科団地、周辺住民 を対象に、健康についての講演、ものづくり、体操な どの参加型イベントを企画、運営した。
健康科学部	作業療法学科	認知症の歴史	近藤敏	醍醐中央図書館 (京都市)		認知症に関する日本の歴史と取り組みの変遷を映画 や本を切り口に一般市民の方々に講義した。また、歴 史年表を作成し、社会の流れと本、映画の対比を行 い、展示コーナーを作った。
健康科学部	救急救命学科	たちばな大路こども園 BLS	黒崎久訓	草津市	5名	保育士を対象としたBLS講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	円町まぶね隣保園BLS	黒崎久訓	京都市	2名	子供たちを対象としたBLS講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	安朱小学校BLS	黒崎久訓	京都市	10名	子供たちを対象としたBLS講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	爽快健康ウォーク2019	黒崎久訓	京都市、大津市	20名	地域住民と共に健康増進と交流を目的として、山科 から大津駅前までのウォーキングを行った。
健康科学部	救急救命学科	JESA主催PEMECコース	福岡範恭	京都府	8名	急病人に対する現場アプローチを習得するコースに 救急隊役として参加した。
健康科学部	救急救命学科	大阪マラソン救護	西本泰久	大阪府	20名	第8回大阪マラソンの救護に参加した。マラソン コースの沿道救護を行った。
健康科学部	救急救命学科	近江八幡第1区防災講 習会	西本泰久 黒崎久訓	滋賀県 近江八幡市	なし	近江八幡市で予想される災害に関してその対策など を実習を加えて実施
健康科学部	救急救命学科	京都橘中学校、高校 対象小学生と父兄BLS	西本泰久	京都市	3名	小学生と父兄対象
健康科学部	救急救命学科	同志社中学校 BLS	西本泰久	京都市	5名	中学1年生300名対象
健康科学部	救急救命学科	勤修小学校BLS	西本泰久	京都市	8名	
健康科学部	救急救命学科	西野小学校BLS	西本泰久	京都市	4名	教員対象
健康科学部	救急救命学科	大宅こども園BLS	西本泰久	京都市	6名	園児66人対象
健康科学部	救急救命学科	大宅こども園児童館 BLS	西本泰久	京都市	3名	児童約100人対象
健康科学部	救急救命学科	岩屋保育園BLS	西本泰久	京都市	10名	園児92人
健康科学部	救急救命学科	救急フェスタ in 大阪～ 第7回いのちのリレー 大会	西本泰久	大阪市	8名	JR大阪駅5F時の広場
健康科学部	救急救命学科	勤修小学校BLS	西本泰久	京都市	6名	
健康科学部	救急救命学科	大宅小学校 BLS	西本泰久	京都市	7名	約150人対象
健康科学部	救急救命学科	京都大学付属病院	西本泰久	京都市	2名	職員対象
健康科学部	救急救命学科	神戸マラソン救護	久保山一敏	神戸市	なし	神戸マラソンでのコース内救護所で救護にあたった。
健康科学部	救急救命学科	日本臨床救急医学会 PEMECコース	久保山一敏	京都橘大学	10名	急病人に対する現場アプローチを習得するコースの インストラクターとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	JESA主催PEMECコース	久保山一敏	東京	なし	急病人に対する現場アプローチを習得するコースに インストラクターとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	日本災害医学会MCLS テロ対応病院コース	久保山一敏	名古屋	なし	左記コースにインストラクターとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	日本救急医学会ICLS コース	久保山一敏	西宮市 (兵庫医科大学)	なし	研修医対象研修コースにインストラクターとして参 加した。
健康科学部	救急救命学科	日本災害医学会MCLS- CBRNEコース	久保山一敏	西宮市 (兵庫医科大学)	なし	特殊災害への対応を学ぶコースに指導者として参加 した。
健康科学部	救急救命学科	JATECコース	久保山一敏	富山市	なし	医師を対象とする外傷初期診療研修コースにイン ストラクターとして参加した。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	救急救命 学科	滋賀県総合防災訓練	久保山一敏	高島市	なし	災害犠牲者家族対応チームDMORTの一員として参加した。
健康科学部	救急救命 学科	大規模地震時医療活動 訓練	久保山一敏	川崎市	なし	内閣府主導の全国レベルの訓練にDMATインストラクターとして参加した。
健康科学部	救急救命 学科	DMAT 隊員養成研修	久保山一敏	大阪医療セン ター・八尾空港	10名	左記実働研修にインストラクターとして参加した。
健康科学部	救急救命 学科	DMAT 隊員養成研修	久保山一敏	三木市	なし	左記実働研修にインストラクターとして参加した。
健康科学部	救急救命 学科	日本災害医学会MCLS 標準コース	久保山一敏	奈良市	なし	左記コースに指導者として参加した。
健康科学部	救急救命 学科	日本災害医学会MCLS 標準コース	久保山一敏	姫路市	なし	左記コースに指導者として参加した。
健康科学部	救急救命 学科	大阪府災害医療コー ディネート研修	久保山一敏	大阪市	なし	左記コースにインストラクターとして参加した。
健康科学部	救急救命 学科	大阪空港航空機事故部 分訓練	久保山一敏	大阪空港	なし	左記コースにインストラクターとして参加した。
健康科学部	救急救命 学科	京都マラソン救護	西本泰久	京都市	なし	京都マラソンでのコース内救護所で救護にあたった。
健康科学部	臨床検査 学科	世代間交流イベント 「ものづくりワー クショップ」	たちらポたち	山科区 陵ヶ岡学区		京都薬科大学と協力して、山科区陵ヶ岡学区の高 齢者と小学生を対象に全4回のものづくりワー クショップを行った。団体の代表を学科2回生の岩 寄が担当した。
健康科学部	臨床検査 学科	たちばな教養講座第4回	中村竜也 藤原麻有	京都市	なし	「猛威を振るう薬剤(抗生物質) 耐性菌」をテーマに講 演した
健康科学部	臨床検査 学科	バクテリア・バスターズ	中村竜也 藤原麻有	京都橘大学	6名	周辺地域の高校生1-3年生を対象に、薬剤耐性菌に ついての講義と実際の検査を実習で行った。学科2 回生6名がスタッフとして高校生の指導を行った。

■ 広報誌「つながる」2019年度 CONTENTS

地域連携センターでは、地域貢献活動や公開講座や地域に関連する研究などを紹介し、発信する媒体として、広報誌「つながる」を発行しています。

「つながる」第15号 2019年10月31日発行

1. Interface 実践の知 第14回
西脇小学校校舎を使い続けていくために
足立 裕司 神戸大学名誉教授・博士(工学)
2. 各学科における地域連携活動取組報告
超高齢社会を見据えた産学連携事業
こだわり市場冊子を活用した高齢者ツーリズム企画
現代ビジネス学部都市環境デザイン学科谷口知司ゼミ
×洛和会ヘルスケアシステム介護事業部
谷口 知司 本学現代ビジネス学部教授

人々の生活がイメージできる学生を育てるための
仕掛け作り：醍醐中山団地お助けたい(隊)
松本 賢哉 本学看護学部教授

支え、支えられる、メンタルヘルスに着目したサポート
「しゅくだいかたづけ隊!!」参上
大久保 千恵 本学健康科学部准教授
3. 京都モダニズム建築を訪ねて 最終回
京都のモダニズム建築前夜
河野 良平 本学現代ビジネス学部准教授
4. Interview ともに 第14回
限界集落の空き家がオーベルジュに生まれ変わり、
そこに人が集う
まちの持続可能性を、ビジネスによって高める取り組み
金野 幸雄 一般社団法人ノオト 代表理事

2019 京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）
（2019年4月～2020年3月）

発行日 2020年3月31日

発行 京都橘大学 産学公地域連携推進機構 地域連携センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

TEL：075-574-4342 FAX：075-574-4149

URL：<https://www.tachibana-u.ac.jp/>

E-mail：aca-ext@tachibana-u.ac.jp



変化を楽しむ人であれ

京都橘大学